

級氏名病室ノ番號入院ノ年月日等ヲ病名簿ニ記シ處方錄ニハ病因病名病症經過及ヒ年齡等詳記スヘシ

但外來ノ患者ハ其住所ノ街名番地等ヲ記スルコト本條ニ同シ

第三 入院患者ハ朝夕回診異狀アルモノハ乃チ院長ノ診斷ヲ乞フヘシ

第四 院長退出後入院ノ患者ハ之ヲ診察シ適宜ノ藥方ヲ處シ院長ノ出勤ヲ待テ診斷ヲ乞フヘシ

第五 入院患者急劇ノ症ヲ發スルトキハ臨時院長ノ來診ヲ請フヘシ

第六 患者危篤ノ者アラハ速ニ其親族或ハ證人請人へ報告スヘシ

第七 病質ニヨリ巡查ノ職ニ堪ヘサル者ハ仔細ニ診定シ成規ニ從ヒ診斷證書ヲ與フヘシ

第八 日々交番宿直シ明ケ番午前第十時ヨリ本廳へ出頭巡查志願人ノ體格検査ヲ爲スヘシ

副當直醫

職掌當直醫ニ亞ク

調劑醫

第一 院長及ヒ當直醫ヨリ附スル處方ヲ調劑スルヲ掌ル

但藥名分量用法等誤寫ノ疑惑アラハ直ニ審問シ毫釐ノ差違ナカラシメ要ス

第二 處方錄ニハ病人ノ氏名藥名分量用法及ヒ年月日ヲ記シ而シテ調劑ノ都度其月日ノ下ニ押印スヘシ

第三 藥品器械ヲ點檢シ闕乏ノ品ハ院長ノ檢印ヲ得テ事務局第三科ニ附スヘシ

副調劑醫

職掌調劑醫ニ亞ク

第四章 入院規則

第一 入院ノ巡查ハ醫員ノ診斷ヲ得テ各病室ニ配置スヘシ

但等級氏名ヲ詳記シ廳署ノ送狀ハ逐次編綴スヘシ

九年八月警視廳第七十三號ヲ以テ入院規則ヲ改正ス
九年七月警視廳第三十六號ヲ以テ第四章第一項但書ノ内閣ノ字ヲ削リ

ノ下ハナクニ改ム
同上第二項中事務局ヲ醫局ニ改ム

九年七月警視廳第三十六號ヲ以テ第四章中事務局ヲ會計局ニ改ム

第二 外來ノ患者入院ヲ乞フ者ハ住所氏名職業年齡等ヲ詳記シ證人ヲ以テ事務局へ申出ツヘシ

但證人ハ印形持參スヘシ

第三 證人ハ府下在籍ノ者タルヘシ若シ府下在籍ノ者ニ證人ナキトキハ寄留親戚朋友或ハ其住所ノ戸長押印ノ引請書ヲ以テ申出ツヘシ

第四 入院料ハ一週日毎ニ事務局へ納ムヘシ

但巡查ハ成規ノ通タルヘシ

第五 看病人附添ハ勝手タルヘシ

第六 入院料ヲ三等ニ分ツ

一等ハ一日金七十五錢

一室ニ一人ヲ置キ看護人一人ヲ附ス

二等ハ一日金二十七錢五釐

一室ニ三人或ハ四人ヲ置キ二室毎ニ看護人一人ヲ附ス若附添人アル者ハ其賄料ヲ納メシム別ニ自分看護人ヲ雇フ者賄料ノ外相當ノ給料ヲ納メシム

三等ハ一日金三十一錢二釐五毛

一室ニ六人ヲ入レ二室或ハ三室毎ニ看病人一人ヲ附ス

第五章 病室規則

第一 病室ハ區分シテ五分トス

- 第一 内科病室
- 第二 外科病室
- 第三 梅毒病室
- 第四 眼科病室
- 第五 婦人病室

第六 婦人梅毒病室

九年七月警視廳達第三十六號ヲ以テ第七項中事務局長ニ改ム

九年七月警視廳達第三十六號ヲ以テ第十項ハ但書ヲ追加ス

九年七月警視廳達第三十六號ヲ以テ第十二項但書事務局長ヲ改ム

九年七月警視廳達第三十六號ヲ以テ第十五項ヲ改正ス

- 但第一ヨリ第四マテ男子ヲ入ル
- 第二 各部敷病室ヲ備フ各病者ヲ一室ニ雜居セシメサルヲ要ス
- 第三 看護人ハ男子病室ニハ男子ヲ付シ婦人病室ニハ婦人ヲ附スヘシ
- 第四 藥用攝生等一切醫員ノ指圖ニ背違スヘカラス
- 第五 三回ノ食事其時刻ニ後ルヘカラス
- 但大患ノ者ハ此限ニアラス
- 第六 醫員ノ許可ヲ經サル食物ハ室内ニ入ルヘカラス
- 第七 金銀其他大切ノ品所持スルヲ許サス
- 但無據持參スル者ハ其物品員數ヲ記載シテ事務局ニ差出シ事務局ノ預リ證書ヲ受取置キ退院ノ節物品ト引換ヘシ
- 第八 金銀貸借ヲ爲スヘカラス
- 第九 諸勝負ニ類似ノ儀一切致スヘカラス
- 第十 諸商人立入ルヲ許サス
- 第十一 喧嘩口論及ヒ放歌謠吟スヘカラス
- 第十二 外出ハ醫員ノ許可ヲ得サレハ許サス
- 但醫員ノ許可ヲ得外出スル者ハ事務局ヨリ鑑札ヲ受ケ門番ヘ預ケ置歸院ノ節返付スヘシ
- 第十三 外出スル者鎖門定限午後第十時前ニ歸院スヘシ外泊ヲ許サス
- 第十四 藥用ノ外飲酒スルヲ許サス
- 第十五 患者規則ヲ犯ス者ハ其事狀ニヨリ巡查ハ該廳ノ少警視ニ照會シ相當ノ處置ヲナシ外來患者ハ直ニ退院ヲ命スルコト有ルヘシ

警視廳本病院職務心得第一章第三ハ但書ヲ追加ス

九年一月警視廳達第十號ニ依テ消滅ス

警視假本病院ニ外國教師ヲ雇入警視廳逓達第九號ノ者ヲ治療セシム

九年二月警視廳達第四十四號ヲ參照スヘシ

八年十二月警視廳逓改第四十六號ヲ以テ本病院ノ名稱ヲ第五病院ニ合併ス

警視廳規則ヲ定メシニヨリ從前ノ規則指令ニ抵觸スル者ヲ廢止ス

警視各區病院支病院ノ名稱ヲ廢シ警視第何病院ト改稱ス

十三年八月警視本廳達第八十七號ヲ以テ名稱ヲ改

警視廳達 八年十月二十三日

警視假本病院職務心得第一章ノ第三ハ但書左ノ通追加候條此旨相達候事

藥品并患者支給ノ物品ハ此限ニ非ス

警視廳達 八年十月二十三日

今般警視假本病院建築落成ニ付夫々醫員モ相備ヘ外國人教師ヲモ雇入ノ上警部補并巡查重患難症ノ者ハ同院ニ於テ厚ク治療相施候條此旨相達候事

一警部補并巡查疾病ニ罹リ候節本病院ニ入舍スルト否トニ拘ラス總テ同院ノ治療ヲ受ル者ハ一旦該支病院ニ申出醫員ノ差圖ヲ可受事

一本病院ヘ入院ノ患者角袖着用并門外試歩差許候儀院長ノ差圖ニ可任事

一右患者角袖着用又ハ試歩差許候上ハ遊歩規則并時間定限堅ク相守候様本病院事務掛ニ於テ注意イタシ若シ違背ノ者有之節ハ其旨所管ノ少警視ニ知會可致事

警視廳達 八年十一月十四日

本年十月文第百二十四號同第百三十八號ヲ以テ病院規則等相定候ニ付從前ノ規則指令等抵觸スル者ハ廢止ト可相心得此旨相達候事

警視廳達 八年十二月十五日

各區病院支病院ノ名稱相廢シ從前ノ通警視第何病院ト可相稱此旨相達候事

警視本病院ヲ廢シ第五
病院へ合併ス

十二年五月警視本署達第
七十二號ヲ以テ復病院ヲ
置ケ

警視病院職務心得ヲ改
正ス

九年八月警視廳達第七十
六號ヲ以テ改正ス

九年二月警視廳達第五十
一號ヲ以テ事務局ヲ本廳
中ニ移ス

警視廳達 改第八年十二月二十三日
第四十六號

本病院ノ名稱相廢第五病院へ合併候條此旨相達候事
但病院事務局ノ儀ハ當分如從前同院中ニ設置候事

警視廳達 第九年一月十七日
第十號

病院職務心得別紙ノ通改正候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

○第一章 事務局

第一條 事務長

第一 大警視ノ命ニ從ヒ各病院一切ノ事務ヲ管理スルヲ掌ル

第二 通常ノ事務ハ成規ニ隨テ之ヲ處分シ臨時ノ事件及ヒ所屬役員ノ進退賞罰ハ他方出張或ハ養
痾旅行願等總テ本廳ニ具狀シテ命ヲ乞フヘシ

但所屬役員ニ便宜事務ヲ分課シ及ヒ各病院へ派出セシムルコトヲ得ヘシ

第三 小破營繕及ヒ書籍器械ノ購求其他費用ニ關スル一切ノ事項ハ稟準ヲ經テ之ヲ行フヘシ
但藥品并患者支給ノ物品ハ此限ニアラス

第四 院省使府縣等他向ヘノ文移ハ總テ本廳ヲ經由スヘシ

第五 所屬役員ヲシテ執行セシムル事件ハ一々其文書ニ檢印ヲ捺スヘシ

第二條 事務局分課

書記掛

文書ノ行移并諸備人進退ノコトヲ掌ル

用度掛

用度營繕藥料等一切出納ノ事ヲ掌ル

○第二章 醫局

第三條 病院取締但各病院ニ一人ヲ置キ月給四
十圓以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第一 事ヲ事務局長ニ受ケ各病院ニ分派シ該院一切ノ醫務ヲ擔任シ内外患者ノ診療及ヒ變死傷等
檢視上診斷ノ事ヲ掌ル
但該病院構内ニ常住スヘシ

第二 回診并調濟掛以下ノ勤惰ヲ察シ其黜陟スヘキハ事務局へ申出ヘシ

第三 入院患者ハ朝夕診察シ異狀アル者ハ臨時教師ノ來診ヲ乞フコトアルヘシ

第四 入院ノ警部補巡查等運動ノ爲メ外出ヲ許ス者其時間及角袖筒袖ノ區別毎次事務局へ申出ヘ
シ

第五 病症ニヨリ巡查ノ職ニ堪ヘサル者ハ成規ニ從ヒ診斷書ヲ與フヘシ

第六 患者危篤ノ者ハ速ニ其親族或ハ請人へ報告スヘシ

第七 教師診療ノ患者後日ノ考案ニ備フヘキモノハ其病症ノ經過及處方等精細筆記シテ治驗録ニ
編ムヘシ

第四條 取締ノ外別ニ月給四十圓以上ノ者ヲ置クトキハ事務局ノ指圖ニ從ヒ取締ト協議シ專ラ治療
上ノ事ヲ擔任シ且本廳巡查志願人ノ體格検査ヲ爲スヘシ

第五條 廻診掛 但月給三十圓以下十五圓
以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第一 取締等ノ指揮ヲ受ケ内外ノ病者診察ノ事ヲ掌ル
但病院構内ニ居住スヘシ

第二 入院患者ノ藥食攝生ヲ説諭シ及ヒ看護人ノ勤惰ヲ督シ及ヒ藥局病室等ニ注意スヘシ

第三 各署ヨリ入院ノ患者ハ其送狀ヲ檢シ病室規則ヲ示シ而シテ方面署等級氏名病室ノ番號入院
ノ年月等ヲ病名簿ニ記シ處方録ニハ病因病名病症經過及ヒ年齡等ヲ詳記スヘシ

但外來ノ患者ハ其大小區村町番地等ヲ記スルコト本條ニ同シ

但病院構内ニ居住スヘシ

第二 入院患者ノ藥食攝生ヲ説諭シ及ヒ看護人ノ勤惰ヲ督シ及ヒ藥局病室等ニ注意スヘシ

第三 各署ヨリ入院ノ患者ハ其送狀ヲ檢シ病室規則ヲ示シ而シテ方面署等級氏名病室ノ番號入院
ノ年月等ヲ病名簿ニ記シ處方録ニハ病因病名病症經過及ヒ年齡等ヲ詳記スヘシ

但外來ノ患者ハ其大小區村町番地等ヲ記スルコト本條ニ同シ

九年一月警視廳達規第二
百七十五號ヲ以テ第五項
ノ場合ニハ必ズ教師ノ診
斷ヲ受ケンム

九年八月警視廳達第七十六號ヲ參看スヘシ

衛生門 病院

處分延引ノ節ハ第一局ヘ可申出此旨相達候事
但從前ノ達指令等本文ト抵觸スル者ハ總テ取消ノ儀ト可相心得事

警視廳規則中ヲ改正ス

九年八月警視廳達第七十三號ニ依テ消滅ス

警視廳達 九年七月十三日 達第三十六號

明治八年十月十日第二百二十四號ヲ以相達置候病院規則中左ノ通改正追加候條此旨相達候事

第四章 入院規則

第一

但等級氏名ヲ詳記シ署ノ送狀ヲ逐次編綴ス可シ

第二 外來ノ患者入院ヲ請フ時ハ住所氏名職業年齡等ヲ詳記シ證人ヲ以テ醫局ヘ申出ツ可シ

第四 入院料ハ一週日毎ニ會計局ヘ納ム可シ

第五章 病室規則

第七

但無據持參スル者ハ其物品員數ヲ記載シテ看護長ニ差出シ看護長ノ預リ證書ヲ受取置キ退院ノ節物品引換ヘシ

第十

但鑑札ヲ持參スル者ハ此限ニアラス

第十二

但醫員ノ許可ヲ得外出スル者ハ看護長ヨリ鑑札ヲ受ケ門番ヘ預ケ置歸院ノ節返付スヘシ

第十五 規則ヲ犯ス患者ハ其事狀ニヨリ巡查ハ該署長ニ照會シ相當ノ處置ヲナシ外來者ハ直ニ退院ヲ命スルコアルヘシ

警視廳警部補巡查入院中轉免等ノ節通知方

警視廳達 九年八月二日 達第五十八號

十四年三月警視廳達第四十一號ニ依テ消滅ス

警視廳入院規則ヲ改正ス

十四年三月警視廳達第四十一號ニ依テ消滅ス

警部補巡查病氣引籠又ハ入院中轉免候者有之節ハ其都度該病院ヘ通知候様可致此旨相達候事

警視廳達 九年八月十二日 達第七十三號

明治八年十月十日第二百二十四號達中入院規則左之通改正候條此旨相達候事

入院規則

第一條 入院ノ節ハ諸定則ヲ守リ醫員ノ指揮ニ違背スヘカラス

第二條 病者入院ヲ乞フトキハ午前ニ參院スヘシ

但シ急病或ハ不得已事故アル者ハ此限ニ在ラス

第三條 外來ノ患者入院ヲ請フ者ハ住所姓名職業年齡等ヲ詳記シ保證人押印ノ引受書ヲ醫局ニ差出スヘシ

但シ保證人ハ府下在籍ノ者タルヘシ若シ其ノ在籍ノ者無キ時ハ寄留親戚朋友或ハ其住所ノ戸長タルヘシ

第四條 金銀其他大切ノ物品所持スルヲ許サス

但シ據ナク持參スル者ハ其物品員數ヲ記載シテ看護長ニ差出シ看護長ノ預リ證書ヲ受取置キ退院ノ節物品引換ユヘシ

第五條 火ノ元大切ニ注意スヘシ

第六條 藥用飲食攝生等一切醫員ノ指圖ヲ受ク可シ

第七條 三回ノ食事其時刻ニ後ル可カラス

但シ重患ノ者ハ此例ニアラス

第八條 自己ノ病床ヲ離レ妄リニ他室ニ往來ス可ラス

第九條 醫員ノ許無ナクシテ外出運動スルヲ許サス

但シ外出運動ハ午後第一時ヨリ第三時迄三町四方以内ヲ限リトス事情ニヨリ臨時時限ノ遲速ヲ

十二年七月警視廳達第七十四號ヲ以テ第九條但書ヘ追加ス

衛生門 病院

十三年九月警視廳達第百四號ヲ以テ第十五條ヲ改正ス

九年十二月警視廳達第百五十四號ヲ以テ第二等以下改正増補ス

許スコトアリト雖外泊ヲ許サス且市店ニ立寄り飲食等堅ク之ヲ禁ス

第十條 外出運動毎ニ看護長ヨリ鑑札ヲ受ケ門監ヘ預ケ置キ歸院ノ節看護長ヘ返付スヘシ

第十一條 看護ノ婦女ニ對シ戲言ヲナスヘカラス

第十二條 入院中互ニ金銀貸借ヲ禁ス

第十三條 諸勝負ハ勿論假令類似ノ事件ト雖モ堅ク之ヲ禁ス

第十四條 喧嘩口論ハ勿論放歌吟詩音讀等總テ高聲ヲ禁ス

但シ各病室診察中ハ殊ニ寧靜ヲ要ス

第十五條 入院患者外來ノ人ト應接ノ時限ハ午前第九時ヨリ午後第四時迄タルヘシ其他一切外人ト

應接ヲ許サス

但シ公事ノ外不得已事情アルトキハ臨時醫局ヘ申出指揮ヲ受クヘシ

第十六條 諸工商ノ者室内ニ入ルヲ許サス

但シ醫局ノ鑑札ヲ持參スル者歟又ハ公用ノ者ハ此限ニアラス

第十七條 重症ニ罹ル者親戚朋友ノ情願ニ由テ看護ヲ要スルトキハ臨時差許スヘシ

但シ費用ハ自費タルヘシ

第十八條 巡查入院中食料一日金十二錢五釐ノ割ヲ以テ該署會計係ヨリ病院會計係ヘ毎月二十日限

リ仕拂フ可シ

第十九條 外來患者ノ入院料ヲ三等ニ分ツコト左ノ如シ

但シ入院料ハ一週間毎ニ會計局ニ納ムヘシ

一第一等ハ一日七十五錢ナリ

但シ一室ニ一人ヲ置キ看護人一人ヲ附ス

一第二等ハ一日金三十七錢五釐ナリ

但シ一室ニ三人或ハ四人ヲ置キ二室毎ニ看護人一人ヲ附ス

一第三等ハ一日金三十一錢二釐五毛ナリ

但シ一室ニ五六人ヲ置キ二室或ハ三室毎ニ看護人一人ヲ附ス

右規則ヲ犯ス者ハ其事情ニヨリ巡查ハ該署長ニ照會シ相當ノ處分ヲ乞ヒ外來者ハ直ニ退院ヲ命スルコトアルヘシ

警視廳達 九年八月十四日 第七十六號

本年一月第十號達病院職務心得左ノ通改定候條此旨相達候事

病院職務心得

第一條 院長 各院一員ヲ置ク

第一 該院一切ノ醫務ヲ擔任シ内外患者ノ診療ヲ掌ル

第二 廻診掛以下ノ勤惰ヲ察シ其黜陟ス可キハ取締ト協議シ大警視ニ具申シテ命ヲ請フ可シ

第三 重病又ハ難症ノ患者ハ臨時教師ノ來診ヲ乞フコトアル可シ

第二條 取締 各院一員ヲ置ク

第一 各病院ニ分派シ院長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ内外患者ノ診療及ヒ變死傷等檢視上診斷ノ事ヲ掌ル

但該病院構内ニ常住スヘシ

第二 院長ヲ置カサル病院ニ於テハ其事務ヲ總理スルヲ得

第三 廻診并調劑掛以下ノ勤惰正否ヲ察シ異狀アレハ院長ニ告知シ又ハ直ニ本廳ニ上申スルコトアル可シ

ル可シ

第四 入院ノ警部補巡查等運動ノ爲メ外出ヲ許ス者其時間及ヒ角袖筒袖ノ區別第一局員巡視ヘ申出

ヘシ

第五 病症ニヨリ警部補巡查ノ職ニ堪ヘサル見込ノ者ハ院長又ハ教師ノ診斷ヲ受ケ之ニ證書ヲ與ヘ

警視廳職務心得ヲ改正ス

十年十二月警視廳達第百二十四號ヲ以テ改正ス

九年九月警視廳第八十三號ヲ以テ第二條第七項中へ追加ス
九年九月警視廳第八十三號ヲ以テ第八項ヲ追加ス

其由ヲ該署長へ通知ス可シ

但成規ノ期日ヲ經過スト雖モ重症ニシテ死ニ瀕スル者ハ此限ニアラス

第六 患者危篤ノ者ハ速ニ其親族或ハ受人へ報告スヘシ

第七 教師診療ノ患者後日ノ考按ニ備フヘキモノハ其病症ノ經過及ヒ處方等精細筆記シテ治驗録ニ編ムヘシ

第三條 取締ノ外別ニ月給四十圓以上ノ者ヲ置クトキハ院長ノ指圖ニ從ヒ取締ト協議シ專ラ治療上ノ事ヲ擔任シ且本廳巡查志願人ノ體格検査ヲナスヘシ

第四條 廻診掛 月給三十圓以下十五圓以上ノ者ヲ以テ之レニ充ツ

第一 院長及ヒ取締等ノ指揮ヲ受ケ内外ノ病者診察ノ事ヲ掌ル
但病院構内ニ居住スヘシ

第二 入院患者ノ藥食攝生ヲ説諭シ及ヒ看護人ノ勤惰ヲ督シ及ヒ藥局病室等ニ注意スヘシ

第三 各署ヨリ入院ノ患者ハ其送狀ヲ檢シ病室規則ヲ示シ而シテ方面署等級氏名病室ノ番號入院ノ年月等ヲ病名簿ニ記シ處方録ニハ病因病名病症經過及ヒ年齡等ヲ詳記スヘシ
但外來ノ患者ハ其大小區村町番地等ヲ記スルコト本條ニ同シ

第四 院長等不在中入院ノ患者アレハ之ヲ診察シ適宜ノ藥方ヲ處シ其來院ヲ待テ更ニ診斷ヲ請フヘシ

第五條 調藥掛 月給二十圓以下六圓以上ノ者ヲ以テ之レニ充ツ

第一 醫員ヨリ付スル處方ヲ調劑スルヲ掌ル
但藥名分量用法等誤寫ノ疑惑アラハ直ニ審問シ毫釐ノ差違ナキヲ要ス

第二 處方録ニハ病人ノ氏名藥名分量用法及ヒ年月日ヲ記シ而シテ調劑ノ都度其月日ノ下ニ押印スヘシ

第三 藥品器械ヲ點檢シ闕乏ノ品ハ醫員ノ檢印ヲ得テ用度掛ヘ付スヘシ

警視病院職務心得申へ追加ス

十二年十二月警視廳第八百二十四號ニ依テ消滅ス

警視廳達 九年九月十四日

本年八月達第七十六號病院職務心得第二條中左ノ通追加候條此旨相達候事

第二條

第七 治驗録ニ編ノ下(マシ)ノ二字ヲ加フ

第八 公務ノ都合ニ依リ變死傷等ノ檢視事ノ輕易ナル者ハ廻診掛ヲシテ代ラシムルコトアル可シ

警視廳達 九年十二月四日 各病院

各方面掛少警視病院巡視ノ儀ニ付別紙ノ通相達候條此旨相達候事

(別紙)

規第九十一號甲

各方面掛少警視

該方面病院近火ノ節ハ速ニ出張シ消防ハ勿論患者立退并救護方厚ク注意指揮可致此旨相達候事

各方面掛少警視

各方面病院視察ノ儀左ノ通可相心得此旨相達候事

第一條 少警視ハ各方面病院ヲ巡廻シ體裁及ヒ施爲ノ利弊醫員以下ノ勤惰其患者若クハ外來人ヲ接遇スルノ懇切ナルヤ否等病院ニ關スル一切ノ事ヲ視察シ異狀異聞アレハ之ヲ大警視ニ具狀スヘシ

但該方面病院ヲ以テ各自ノ擔當トスヘシ

第二條 少警視ハ病院ヲ視察スルニ止リ其事務執行ニ干預シ或ハ其當否ヲ主任者ニ對シ討論スルヲ得ス

第三條 入院ノ警部補巡查及ヒ外來患者ノ規則ヲ守ルヤ否ヲ視察シ若シ規則ニ違背スル者アルヲ見認

ルトキハ警部補巡查ハ直ニ詰責シ其他ハ之ヲ取締ニ知告スヘシ
 第四條 院中ノ掃除及ヒ患者ノ飲食物ニ注意シ不潔若クハ粗惡等ノ事アルトキハ其主任者ヲ訊問シ或
 ハ院長等ト協議スヘシ
 第五條 治療上ノ事ト雖モ患者ノ苦情アルヲ聞知スルトキハ主任者若クハ院長等ノ意見ヲ問フコトア
 ルヘシ

警視廳達 九年十二月六日
 達 第九百五十四號

本年八月達第七十三號入院規則中第十九條外來患者入院料ノ儀二等以下左ノ通改正增加候條此旨相達
 候事

- 第二等一日金五十錢
- 第三等一日金三十七錢五釐
- 第四等一日金三十一錢二釐五毛

警視本署達 十年二月二十五日
 達 第九百二十二號 各病院

各病院取締ヲ除ノ外廻診掛手傳生ニ至ル迄毎年一回學術試驗致候條爲心得此旨相達候事
 但試驗日限等ハ追テ可相達事

警視本署達 十年四月三十日
 達 第九百九十七號 警務廳 警務部 警務課 警務課長

今般第五病院内へ製藥所取設候條其製藥局ノ用品ハ悉皆同所ヨリ可請取此旨相達候事
 但本文代價ノ儀ハ月末同所へ送付可致候事

警視本署達 十年十二月二十四日
 達 第九百二十四號 各課各分署各病院

警視病院入院規則第十
 九條中改正増補ス
 十四年三月警視廳達第四
 十一號ニ依テ消滅ス

警視病院回診掛手傳生
 等ハ毎年一回學術試験
 ス
 十四年三月警視廳達第四
 十一號ヲ以テ警視病院ヲ
 廢ス

警視第五病院内へ製藥
 所ヲ設ケス
 十二年六月四日警視本署
 達第九百九十七號ヲ以テ
 本署所管

警視病院職務心得ヲ改
 正ス

十三年一月警視本署達第
 外ヲ以テ職務心得ヲ改正
 ス
 十二年六月警視本署達第
 九百九十七號ヲ以テ第一條ヲ刪除ス

警視病院職務心得左ノ通改正候條此旨相達候事
 警視病院職務心得

第一條 總長

- 第一 警視各病院及ヒ監獄ノ醫務ヲ總理シ院長以下醫員ノ勤怠ト治術ノ巧拙トヲ監査シ各其職ヲ盡
 サシムヘシ
- 第二 時々各病院ヲ巡廻シ重症ノ患者アラハ之ヲ診察シ其處法録ヲ檢シ適否ヲ審按スヘシ
- 第三 取締以下ノ進退ハ院長ノ申出テニヨリ意見ヲ大警視ニ具申シ黜陟ヲ乞フヘシ
- 第四 毎月一回或ハ二回各院長ヲ集合會議シ醫務ノ區々異同ヲキナ要スヘシ

第二條 院長 各院一員ヲ置ク

- 第一 該病院一切ノ醫務ヲ管掌シ取締以下各醫員ノ勤怠及ヒ治術ノ巧拙ヲ監視シ其黜陟スヘキハ總
 長ニ稟議スヘシ
- 第二 凡ソ參院ノ患者ハ懇切ニ治療ヲナシ入院者ノ診斷ハ勿論取締以下ナシテ病室内ヲ時々巡回シ
 不攝生ナキ様注意セシムヘシ
- 第三 重病又ハ難症ノ患者アル時ハ總長又ハ教師ノ來診ヲ乞フヘシ
- 第四 外國人ニ關係シ他日裁判ヲ求ムヘキ變死人及ヒ負傷者等アルトキハ取締ヲシテ直ニ教師ノ來
 診ヲ乞ヒ其事由ヲ大警視ヘ具申スヘシ
- 第五 警部補巡查病氣ニ付解職ヲ願フ者診斷證明シ其證書ヲ該署長ヘ送付スヘシ
 但診斷シ難キ病症ニ至テハ總長又ハ教師ノ診斷ヲ乞フコトアルヘシ且此診斷ハ進退ニ關スルモ
 ノニ付本人ニ示サス直チニ該署長ニ其事由ヲ通報スヘシ
- 第六 檢視上ニ係ル診斷ハ取締ノ專務タリト雖モ其決シ難キモノ及ヒ重要タル事件ハ臨時出張スル

コトアルヘシ

第七 各醫員進退ニ關係スル事件ヲ除クノ外諸願伺届等ヲ出ストキハ其可否ヲ考按シ異存ナキハ之レニ檢印ヲナシ第五課ヲ經由シテ大警視ヘ呈達スヘシ

但異存アルモノハ其趣ヲ副啓スヘシ

第八 凡ソ管内傳染病發起ノ兆候アラハ速ニ大警視ヘ具申シ且總長及ヒ各院長ト協議ノ上精々豫防ニ注意スヘシ

第二條

副院長

院長ヲ補助シ院長アラサルトキハ其事務ヲ代理ス

第四條

取締 各院一員ヲ置ク

第一 院長ノ命ヲ受ケ内外ノ庶務ヲ管掌シ醫員以下ノ勤怠ヲ視察シ異狀アラハ院長ニ具申スヘシ

第二 非常急遽ニ應スル爲メ毎子ニ院内官舎ニ居住スヘシ

第三 檢視上ニ關スル一切ノ診斷ヲ掌ル

第四 外國人ニ關涉シ他日裁判ヲ求ムヘキ變死人及ヒ負傷者等ハ一應檢診ノ上直チニ教師ノ來診ヲ乞ヒ其事由ヲ院長ニ具申スヘシ

第五 土曜日毎ニ各貸坐敷地ヘ出張シ微毒ノ檢査ヲナシ及ヒ各病院月々輪番ヲ以テ出張醫員ノ人數繰等ヲナスヘシ

但當直醫及ヒ副當直醫ヲシテ微毒檢査掛ヲ兼シメントスルトキハ其人名ヲ院長ヘ申出ヘシ

第六 常ニ院長ニ代リ専ラ警部并巡查ノ診斷ヲナシ入院又ハ引籠リ攝養スヘキ病患ノ者ハ證書ヲ附與シテ該署ニ報スヘシ

第七 警部補以下外出運動書ハ兼テ第一課ヨリ領置シ角袖筒袖ノ區別ヲナシ之ヲ附與シ然ル後第一

十一年三月警視本署第五ノ第五十五號ヲ以テ第二項ノ官舎ハ病院毎ニ四棟ヲ以テ之ニ充テシム
十二年六月警視本署第五ノ七十二號ヲ以テ第四項ノ通報方ヲ改正ス

課へ通知スヘシ

第八 入院患者ニ與フル三次ノ食ヲ點檢シ病患ノ健全ニ注意シ賄人ヨリ出ス處ノ日表帳ニ檢印スヘシ

第九 各醫員ノ進退ニ關スル事件ヲ除クノ外諸願伺届等ニ檢印ヲ押シ之ヲ院長ニ出スヘシ

第五條

當直醫 定員ナシ

第一 院長及ヒ取締ノ指揮ヲ受ケ患者ノ診察ヲナシ之ヲ懇切ニ取扱フヘシ

第二 非常急遽ニ應スル爲メ毎子ニ院内官舎ニ居住シ輪番ヲ以テ宿直ヲナスヘシ

第三 各署ヨリ變死人并負傷者アルノ通報アラハ取締ノ指揮ヲ受ケ直ニ該處ニ出張シ之ヲ診按スヘシ若シ診決シ難キモノハ速ニ取締ノ指揮ニ稟告スヘシ

第四 出火ノ節ハ直ニ其場處ニ出張シ警視警部ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條

副當直醫 定員ナシ

第一 職務當直醫ニ同シ

第二 看護掛ヲ置カサル病院ニアリテハ其事務ヲ兼任セシムルコトアルヘシ

第三 一名又ハ二名ヲ以テ該院貯藏ノ器械ヲ主管シ手術アルトキハ之レカ準備ヲナシ若シ破損等アルトキハ修理ノ手順ヲナスヘシ

第七條

看護掛

第一 院内官舎ニ居住シ輪番ヲ以テ宿直ヲナスヘシ

第二 時時病室ヲ巡視シ患者ヲ攝生ナキ様精々看護ニ注意スヘシ

第三 看護婦ノ勤怠ヲ監督スヘシ

十一年三月警視本署第五ノ第五十五號ヲ以テ第二項ノ官舎ハ病院毎ニ四棟ヲ以テ之ニ充テシム

第四 教師并總長院長等病室へ廻診スル時ハ隨從シテ病症經過及ヒ處方等ヲ詳細登錄スヘシ
 第五 入院患者アル時ハ其職名及ヒ族籍姓名等ヲ帳簿ニ登記スヘシ
 但シ警部巡查入院ノ節ハ其姓名等該署長へ通知スヘシ
 第六 入院患者變症ヲ發スル等總テ異狀アラハ速ニ宿直醫員ニ申告スヘシ
 第八條

調藥監

第一 調劑ニ係ル一切ノ事務ヲ管掌シ調藥掛ノ勤怠ヲ監視シ調劑上誤謬ナキ様注意スヘシ
 第二 醫員ヨリ送付スル處方ヲ受ケ之ニ檢印ヲナシ調藥掛へ附與シ調劑セシムヘシ
 第三 製藥所ヨリ受取ル藥品ノ精粗ヲ審査シ若シ不良ノ品アラハ直ニ其旨ヲ院長ニ稟シ交換ヲナスヘシ
 第四 一個月一回藥品ノ出納ヲ調査シ之ヲ帳簿ニ登記スヘシ
 第九條

調藥副監

調藥監闕席及ヒ不在ノ節ハ其事務ヲ代理執行スヘシ

第十條

調藥掛 定員ナシ

第一 調藥監ノ指揮ヲ受ケ調劑ヲナシ其都度處方箋月日ノ下ニ押印スヘシ
 第二 附與セラル、所ノ處方箋ヲ密按シ若シ疑難アラハ調藥監ニ質問シ些ノ事ト雖モ臆斷ヲ以テ調劑スヘカラス
 第三 藥品及ヒ器械等闕乏ナキ様日々調査シ若闕乏品アラハ院長及ヒ調藥監ノ檢印ヲ得テ受取方製藥所へ照會スヘシ
 第四 輪番ヲ以テ一名ツ、宿直ヲナスヘシ

警視病院病室内ハ脱靴セシム

十四年三月警視廳達第四十一號ヲ以テ警視病院ヲ廢ス

警視病院東總及當直醫ノ居住官舎ハ四棟ヲ以テ之ニ充ツ

十三年一月警視本署達第十號ニ依テ消滅ス

警視病院長委員會日

十四年三月警視廳達第四十一號ヲ以テ警視病院ヲ廢ス

十二年五月警視本署達第七十一號ヲ發布スヘシ

警視本署醫學校解剖場ヲ第五病院ニ移シシム

十三年八月警視本署達第八十七號ヲ以テ第五病院ヲ淺草病院ト改稱シ十四年三月警視廳達第四十一號ヲ以テ同院ヲ廢ス

警視本署醫死者檢視ノ醫師解剖ヲ要スルトキハ檢視官ノ指圖ヲ受ケシム

十四年三月警視廳達第四十一號ニ依テ消滅ス

警視本署達十一年一月十五日各病院六病院ヲ除ク

病室内ハ患者ノ安靜ニモ相關シ候間自今外國人ヲ除クノ外室内ニ於テハ必ス脱靴可爲致此旨相達候事

警視本署達十一年三月一日各病院

病院職務心得中取締及當直醫ハ非常急遽ニ應スル爲メ毎ニ官舎ニ居住スヘシト有之候處詮議ノ次第モ有之ニ付當分之内病院毎ニ官舎四棟ヲ以テ右ニ充テ候様可致此旨布達候事

但空舎有之病院ニ於テハ自費ヲ以テ造作ヲ加ヘ候ハ、拜借許可スヘク候條第五課へ願書可差出事

警視本署達十一年四月十七日各病院

自今月末火曜日ヲ以テ會日ト相定候條正午ヨリ本署へ參會可致此旨相達候事

但院長病氣等ノ節ハ取締代理可致事

警視本署達十一年四月二十日各病院

舊醫學校解剖場ノ儀自今其院ニ於テ主管可致此旨相達候事

警視本署達十一年六月二十六日

變死者有之節檢視ニ參會スル醫師ニ於テ其致命ノ原由ヲ詳ニスル能ハス解剖ヲ要スル時ハ檢視官ノ指圖ヲ受候儀ト可心得此旨相達候事

警視本署達 五ノ年七月三十一日第三方面各分署
第三病院ノ儀ハ是迄病室狹隘ニシテ娼妓而已入院爲致置候處今般右病室新築落成ニ付自今第三方面警
部補以下重患ノ者ハ該院へ入院治療爲致候條此旨相達候事

警視本署達 十一年十月二十一日
警視本署達 十一年十月二十一日
貸費生ヨリ當直醫勤務ノ者ニ限り一箇年一度外套支給候條請取方第五課へ可申出此旨相達候事

警視本署達 十一年十月二十二日
警視本署達 十一年十月二十二日
藥品出納ノ儀自今別紙雛形(ス)ニ準シ毎月月末本署第五課へ可差出此旨相達候事

警視本署達 十一年十一月十三日
警視本署達 十一年十一月十三日
是迄各病院患者差出方一定不致取調上差支候條自今前月分翌月五日限り本署第五課へ可差出此旨相
達候事

警視本署達 十一年十一月二十一日
警視本署達 十一年十一月二十一日
今般警視病院調藥掛罰則左之通制定候條若シ違犯ノ者アラハ其事實ヲ詳記シ本署第五課ヲ經由シ處分
方可伺出此旨相達候事

調藥掛罰則
第一 調劑上若シ疑惑ノ廉アリテ之ヲ調劑監ニ質サス臆斷ナシテ調劑スル者ハ月俸二十分ノ一ヲ科ス

第二 調劑セシ藥品調藥監ノ審査ニ據リ其誤劑タル事發覺シ未タ他人ニ交付セサルモノハ月俸五十分
ノ一ヲ科ス

第三 誤劑タルヲ知ラス既ニ患者ニ與ヘ害ナキモノハ月俸十分ノ一ヲ科ス

第四 前條ヲ犯スニ回ニ及フ者ハ月俸十分ノ二ヲ科シ三回以上ノ者ハ其犯狀ニ依リ月俸十分ノ三ヨリ
少カラサル罰金ヲ科ス或ハ過失ノ情ニ據リ免職スルコトアルヘシ

第五 誤劑ヲ與ヘ其患者輕微ナル者ハ月俸二分ノ一ヲ科シ或ハ過失ノ情狀ニ依リ免職ス
但本律ニ觸ル者ハ此限ニ非ス

内務省上申 十二年四月七日

當省警視局病院ノ儀ハ舊警視廳以來巡查施療ノ爲メ設置候處追々人民ヨリ治療方倚賴ノ向有之ニ付右
ハ相當ノ藥價ヲ收入シ其請願ニ應シ候條致シ來候間此段及上申置候也

警視本署達 十二年五月二十五日

今般淺草猿屋町十七番地へ本病院ヲ設置シ左ノ通職制假定候條爲心得此旨相達候事

本病院假職制
院長

第一 警察醫務及ヒ各病院百般ノ醫事ヲ統理シ各院長以下ノ勤怠能否ヲ監視ス

第二 總テ警察上ニ係ル重大ノ檢診ハ之ヲ主宰スト雖モ其現場ニ出張シ及ヒ裁判上ニ關シ答辨等
ヲナスハ專ラ副院長ニ任シ其決シ難キモノハ稟議ヲ待テ之ヲ裁決指示スヘシ

第三 警部補以下進退ニ關スル病症ニ罹リ各病院ニテ決シ難キモノヲ送り來リ時ハ反覆之ヲ診治
シ該署長へ通知ノ手續ヲナスヘシ

第四 總テ必用ノ藥劑ハ其藥性ノ良否時價ノ高低ヲ鑑定シ第二課長ノ認可ヲ得テ買上ヘシ

警視本署達 十三年八月
警視本署達 十三年八月
十三年八月警視本署達第
八十七號ヲ以テ第三病院
ヲ老警視病院第二分科ト
シ十四年三月警視本署達第
四十一號ニ依テ同局ヲ廢
ス

警視本署達 十三年五月
警視本署達 十三年五月
十三年五月三十日警視本
署達第百九號ヲ以テ老警
視病院外ヲ以テ老出方ヲ
改正ス

警視本署達 十四年三月
警視本署達 十四年三月
十四年三月警視本署達第
四十一號ヲ以テ警視病院ヲ
廢ス

警視本署達 十四年三月
警視本署達 十四年三月
十四年三月警視本署達第
四十一號ヲ以テ警視病院ヲ
廢ス

警視本署達 十四年三月
警視本署達 十四年三月
十四年三月警視本署達第
四十一號ヲ以テ警視病院ヲ
廢ス

警視本署達 十四年三月
警視本署達 十四年三月
十四年三月警視本署達第
四十一號ヲ以テ警視病院ヲ
廢ス

警視本署達 十四年三月
警視本署達 十四年三月
十四年三月警視本署達第
四十一號ヲ以テ警視病院ヲ
廢ス

警視病院ニ於テ人民ノ
請願ニ依リ治療ヲナサ
シム

警視本署達 十三年一月
警視本署達 十三年一月
十三年一月三十日警視本
署達第百九號ヲ以テ本病院ヲ
廢ス

- 第五 時々各病院ヲ巡廻シ重症ノ患者アラハ之ヲ診察シ且ツ處法録ヲ閱シ適否ヲ審案スヘシ
- 第六 各病院長以下ノ進退ハ大警視ニ意見ヲ具申シ黜陟ヲ乞フヘシ
- 第七 各病院ヨリ諸願伺届等ヲ出ストキハ其可否ヲ考案シ意見ナキハ之ニ檢印シ第二課衛生掛ヲ經由シテ大警視ヘ進呈スヘシ
- 第八 毎月一回或ハ二回各病院長ヲ集合會議シ醫務ノ區區異同ナキヲ要スヘシ

副院長

- 第一 院長ヲ補助シ警察醫務ニ從事シ各員進退ニ關スル上申ヲ除クノ外先規定例アル者ハ總テ院長ノ代理スルヲ得
- 第二 重大ノ檢診及ヒ外國人ニ關シ他日裁判ヲ求ムヘキ變死傷者アリテ各病院ヨリ通報アラハ速カニ該地ニ出張シ檢診ヲナスヘシ
- 第三 毎日一時間若シクハ二時間公務ノ餘暇ヲ以テ裁判醫學ヲ講スヘシ

幹事

- 第一 院内ノ庶務ヲ辦理シ病室ノ取締ヲナシ及ヒ金銀器械藥品ノ出納ヲ審査スルコトヲ掌ル
- 第二 副院長已ヲ得サル事故アリテ變死傷者アル地ヘ出張ナシ難キ時ハ代理出張スルコトヲ得然レトモ此場合ニ於テハ必ス該方面病院長ノ立會ヲ乞ヒ審議ノ上兩名ヲ以テ執行スヘシ

正當直醫

- 第一 院長及ヒ幹事ノ指揮ヲ受ケ警察醫務ニ從事ス
- 第二 該院貯藏ノ器械ヲ主管シ若シ舖闕等アラハ之ヲ磨補シ且ツ手術アルトキハ之カ準備ヲナスヘシ

調藥監

- 第三 輪番ヲ以テ一名或ハ二名宿直ヲナスヘシ
- 第一 總テ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑上ノ事ヲ主管シ調劑掛ノ勤怠ヲ監視シ調劑ノ誤謬ナキニ注意ス

ヘシ

- 第二 藥劑欠乏ナキ様時時調査シ欠乏品アラハ其調書ヲ院長ニ出シ購求ヲ乞フヘシ
- 第三 醫員ヨリ送付スル處方箋ニ檢印シ調劑掛ニ附與シテ調劑セシムヘシ
- 第四 日々藥品ノ出納ヲ調査シ之ヲ帳簿ニ登録シ月表ヲ製スヘシ

調劑掛

調劑掛 調劑掛 調劑掛

調劑掛

- 第一 院長及ヒ調劑掛ノ指揮ヲ受ケテ調劑シ其都度處方箋月日ノ下ニ押印スヘシ
- 第二 附與セラル、所ノ處方箋ヲ審按シ若シ疑團アラハ調劑掛ニ質問シ些ノ事ト雖モ臆斷ヲ以テ調劑スヘカラス
- 第三 輪番ヲ以テ一名或ハ二名宿直ヲナスヘシ

警視本署達

十二年五月三十日
 警視本署達 於テ日日取扱フ所ノ藥品出納ヲ調査シ日表ヲ製シ置全月分取纏メ月表ヲ編製シ翌月五日迄ニ衛生掛ヘ可差出此旨相達候事
 但調劑掛ノ儀ハ自今宿直ニ不及候事

警視本署達

十二年六月四日
 自今本病院所管ト心得フヘシ此旨相達候事
 警視本署達 自今其院ニテ管理スヘシ此旨相達候事

製藥所ノ儀ハ自今其院ニテ管理スヘシ此旨相達候事

警視病院藥品出納月表
 通達期限改正ス
 十四年三月警視院達第四
 十一號ヲ以テ警視病院ヲ
 廢ス
 警視病院製藥所ヲ本病
 院ノ所轄トス
 十三年一月三十一日警視
 本署達無誤ヲ以テ本病院
 ヲ廢シ製藥所ヲ第二課管
 理トス

警視病院職務心得第一條ヲ刪除ス

十三年一月警視本署達第
外ニ依テ消滅ス

警視本署達 十二年六月四日
警視病院職務心得第一條ヲ刪除シ從來總長ニテ取扱候事務ハ本病院長ニテ主管セシメ候事
但第四條中第四項ノ場合ニ於テハ本病院へ通報シ來診ヲ乞フヘシ
警視病院製藥所ノ儀ハ自今本病院ニテ管理セシメ候事
右相達候事

警視病院醫員等諸君掛
登ハ第二課長へ何出テ
シム

十四年三月警視本署達第
十一號ヲ以テ警視病院
廢ス

警視本署達 十二年八月二十三日
其院醫員并掛リ吏員進退黜陟ニ關スルノ外詰替掛替ノ儀ハ第二課長限リ指令可致答ニ付自今該課長宛
可伺出爲心得此旨相達候事

警視病院第一分局ヲ設
廢ス

警視本署達 十二年九月十八日
第一病院分局 日本橋區大傳 建築落成ニ付去月十八日ヨリ致開局候間其署詰警部補以下診察并檢視上ノ
事務等卸テ該局ニ於テ致施行候條此旨相達候事

十三年八月警視本署達第
八十七號ヲ以テ第一病院
ノ名稱ヲ改メ十四年三月
警視本署達第四十一號ヲ以
テ各警視病院ヲ廢ス

警視本署達 十二年十月二十八日

警部補巡查病氣入院候節ハ其當日ヨリ九十日間施藥給リ候旨明治九年二月一ノ第三十四號ヲ以テ相達
置候處以來醫員ニ於テ其病症快復シ職務ニ可堪ト診斷候者ハ假令右日限ヲ經過候トモ尙施藥給リ候條
此旨更ニ相達候事

十四年三月警視本署達第
十一號ヲ以テ官設治療ヲ
廢ス

警視本署達 十二年十一月七日

各病院ノ儀ハ醫務ノ都合モ有之候ニ付各年時季ノ別ナク午前第八時出頭午後第二時退散可致此旨相達
候事

警視病院職務心得第一
條ヲ刪除ス

十四年三月警視本署達第
十一號ヲ以テ警視病院
廢ス

警視病院入院規則第九
條但書へ追加ス

十四年三月警視本署達第
十一號ニ依テ消滅ス

警視本署達 十二年十一月十五日

明治九年八月達第七十三號入院規則第九條ノ但書外出運動ハノ下ニ四月一日ヨリ九月二十日マテ午後
第二時ヨリ同五時マテ十月一日ヨリ翌年三月三十一日マテノ四十一字ヲ挿入候條此旨相達候事

警視病院ニ於テ町村一
般患者ノ入院并治療ヲ
廢ス

警視本署達 十三年一月三十一日

警視各病院ニ於テ是迄町村一般ノ依頼ニ應シ患者治療又ハ入院差許來候處自今廢止候條爲心得此旨相
達候事

警視病院職務心得ヲ改
正ス

十四年三月警視本署達第
十一號ニ依テ消滅ス

警視本署達 十三年一月三十一日

是迄町村一般ノ患者依頼スル節ハ治療又ハ入院差許來候處自今相廢シ職務心得更ニ別紙ノ通改定候條
此旨相達候事

警視病院職務心得

第一條 院長 各院一員ヲ置ク

- 第一 該病院一切ノ醫務ヲ管掌シ幹事以下各醫員ノ勤怠及ヒ治術ノ巧拙ヲ監視シ其黜陟スヘキハ第
二課長ニ稟議スヘシ
- 第二 管内一切ノ警察醫事ヲ主宰シ及ヒ各分署警部補以下巡查ノ診斷治療ヲ施行ス可シ
- 第三 外國人ニ關涉シ他日裁判ヲ要ムヘキ變死人及ヒ負傷者アリテ其原因詳悉シ難ク外國教師ノ診
斷乞ハサルヲ得サル場合ニ於テハ其事由ヲ具申スヘシ
- 第四 警部補以下病氣ニ付解職ヲ願フ者ノ診斷ハ本人ニ示サス封書ニシテ直チニ該署長へ送付スヘ
シ

十三年九月警視本署第九
十號ヲ以テ警事ノ名稱ヲ
廢シ正副院長ニテ主管セ
シム

- 第五 検視上ニ係ル重大ノ診断ハ必自ラ之ヲナシ其他ハ幹事以下ヲシテ代理セシムル事アルヘシ
 - 第六 諸願伺届等ヲ出ス時ハ其可否ヲ考案シ異存ナキハ之レニ検印ヲ捺スヘシ
 - 第七 凡ソ管内傳染病發起ノ兆候アラハ速ニ其景狀ヲ具申シ各院長協議ノ上豫防方法ノ意見書ヲ差出スヘシ
 - 第八 警部補并巡查疾病ニ罹リ入院又ハ引籠リ攝養スヘキモノト確認スルトキハ成規ノ證書ヲ附與スヘシ
 - 第九 警部補以下入院ノ者ハ外出運動適應ト見認ムル時ハ方面掛ノ検印アル運動證書ヲ附與スヘシ
 - 第十 各分署ヨリ途上急病人又ハ負傷者等アルノ通報アラハ不取敢救急ノ方ヲ施ス可シ
但萬一分署ノ手ヲ經ルノ間合無之直チニ訴來ル節ハ一時施治ノ上該管轄分署ヘ照會スヘシ
 - 第十一 第四第八第九第十項ノ如キハ時機ニヨリ幹事ヲシテ代理セシムルヲ得
- 第二條
副院長 院長欠員ノトキ之ヲ置ク職務院長ニ同シ
- 第三條
幹事 各院一員ヲ置ク
- 第一 院長ノ命ヲ受ケ内外ノ庶務ヲ管掌シ當直醫以下ノ勤怠ヲ視察シ異狀アラハ院長ニ具申スヘシ
 - 第二 非常急遽ニ應スルカ爲メ常ニ院内官舎ニ居住スヘシ
 - 第三 検視上ニ係ル診断ハ院長ノ主務タリト雖モ不在或ハ事故アリテ出張シ難キ時又ハ事ノ重大ナラサルモノハ之ヲ代理スヘシ
 - 第四 各病院輪番ヲ以テ一名宛各貸坐敷地ヘ出張シ微毒検査ヲ主幹スヘシ
 - 第五 當直醫及ヒ副當直醫ヲシテ微毒検査掛ヲ兼テシメントスル時ハ人選ノ上院長ヘ申出ツヘシ
 - 第六 入院患者ニ與フル三次ノ食ヲ點檢シ賄人ヨリ出ス所ノ日表帳ニ検印スヘシ
 - 第七 時時病室内ヲ巡視シ不攝生又ハ不取締ナキ様注意ス可シ

- 第八 各醫員ノ進退ニ關スル事件ヲ除クノ外諸願伺届書ヲ作り之ヲ院長ニ出スヘシ
- 第四條
當直醫

- 第一 院長及ヒ幹事ノ指揮ヲ受ケ參院患者ノ代診ヲナスコトヲ得
 - 第二 非常急遽ニ應スル爲メ輪番ヲ以テ二名宿直ヲナスヘシ
 - 第三 各署ヨリ變死人并負傷者アルノ通報アラハ院長又ハ幹事ノ指揮ヲ受ケ直チニ該處ニ出張シ檢診ノ上診断書ヲ作り更ニ院長幹事ノ意見ヲ乞フヘシ
 - 第四 該方面出火ノ節ハ直チニ其場所ニ出張シ方面掛ヘ届出其指揮ヲ受クヘシ
但他ノ方面ノ出火タリトモ應援ノ信號アルトキハ本文之通心得可シ
- 第五條
副當直醫

- 第一 職務當直醫ニ亞ク
 - 第二 看護掛ヲ置カサル病院ニアリテハ其事務ヲ兼任セシムルコトアルヘシ
 - 第三 一名又ハ二名ヲ以テ該院貯藏ノ器械ヲ主管シ手術アルトキハ之レカ準備ヲナシ若シ破損等アルトキハ修理ノ手順ヲナスヘシ
- 第六條
看護掛

- 第一 輪番ヲ以テ宿直ヲナシ屢病室ヲ巡視シ患者不攝生ナキ様精密看護ニ注意スヘシ
- 第二 院長并幹事等病室ヘ廻診スル時ハ隨從シテ病症經過及ヒ處方等ヲ詳細登錄スヘシ
- 第三 看護婦ノ勤怠ヲ監督シ其罰陟スヘキハ會計掛協議ノ上幹事ヘ申出ヘシ
- 第四 警部補巡查入院スル節ハ其等級姓名ヲ詳細帳簿ニ記載スヘシ
- 第五 入院患者變症ヲ發スル等總テ異狀アラハ速ニ宿直醫員ニ申告スヘシ

第七條

調藥監

- 第一 調藥ニ係ル一切ノ事務ヲ管掌シ調藥掛ノ勤怠ヲ監視シ調劑上誤謬ナキ様注意スヘシ
- 第二 醫員ヨリ送付スル處方ヲ受ケ勘査ノ上檢印ヲナシ調藥掛ヘ附與シ調劑セシムヘシ
- 第三 製藥所ヨリ受取ル藥品ノ精粗ヲ審査シ若シ不良ノ品アラハ其旨ヲ院長ニ稟シ交換ヲナスヘシ
- 第四 一箇月一回藥品ノ出納ヲ調査シ之ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第八條

調藥副監 調藥監缺員及ヒ不在ノ節ハ其事務ヲ代理執行スヘシ

第九條

調藥掛

- 第一 調藥監ノ指揮ヲ受ケ調劑ヲナシ其都度處方箋月日ノ下ニ押印ヲナスヘシ
- 第二 附與セラルル所ノ處方箋ヲ審按シ若シ疑難アラハ調藥監ニ質問シ些ノ事タリト雖モ臆斷ヲ以テ調劑スヘカラス
- 第三 藥品及ヒ器械等闕乏ナキ様日日調査シ若シ闕乏品アラハ院長又ハ幹事及ヒ調藥監ノ檢印ヲ得テ受取方製藥所ヘ照會スヘシ
- 第四 輪番ヲ以テ一名宛宿直ヲナスヘシ
- 第五 日日出納スル藥品ハ藥品出納日表ヲ製シ詳記シ置クヘシ

警視本署達 十三年一月三十一日

警視本病院ヲ廢シ製藥所ヲ第二課ノ管理トス

今般警視病院職務心得改正候ニ付警視本病院相廢候條此旨相達候事
但製藥所ノ儀ハ第二課衛生掛ニテ管理セシメ候事

警視病院檢視月表

十四年三月警視廳達第四十一號ニ依テ消滅ス

警視本署達 十三年七月五日

警視病院檢視月表別紙之通相定候條爲心得此旨相達候事 表式

(別紙)

救助之部

毀傷 器械的毀傷即チ振盪傷、挫傷、突傷、打傷、銃傷、咬傷、爬傷、裂傷、骨傷等ニテ死ニ至ラサル者ヲ算入ス

但變死ノ部ニ記載セシ傷死ノ部ノ諸件ニ罹リ死ニ至ラサル者ヲ算入スヘシ

中毒 礦物性、植物性、動物性、酒類及ヒ瓦斯類等ノ中毒ニヨリ死ニ至ラサル者ヲ算入ス

窒息 變死ノ部ニ記載セシ窒息死ノ諸件ニ罹リ死ニ至ラサル者ヲ算入ス

壓扼 變死ノ部ニ記載セシ條件ニ關シ死ニ至ラサル者ヲ算入ス

燒傷 變死ノ部ニ記載セシ燒死ノ部ノ傷害ヲ受ケ死ニ至ラサル者ヲ算入ス

疾病 變死ノ部ニ記載セシ病死ノ條件ニ罹リ死ニ至ラサル者又ハ裁判上引立ノ際病ニ罹リ檢診ヲ要スル等ヲ算入ス

異常

妊娠中ノ婦人途上翻踏シ又ハ車馬等ニ駕シ非常ノ動作ヲ受ケ俄ニ分娩シ爲ニ救助ヲ受ケ死ニ至ラサル者及ヒ疾病或ハ身體虛弱ナル爲メニ半産シ又ハ人工墮胎術ヲ施シ爲ニ母子共ニ檢視ヲ受ケ死ニ至ラサル者ヲ算入ス

但尋常産出シタル兒ヲ殺害シ水中廁及ヒ途上ヘ投シタル等ハ其現狀ニヨリ變死部各死ノ中

ヘ適宜ニ算入シテ可ナリ

妊娠 妊娠裁判上ニ關シ其虛實ヲ檢診セシ者ヲ入ル

縊 變死ノ部中ノ縊死ニ記載セシ條件ニ關シ死ニ至ラサル者ヲ算入ス

強姦雜姦等總テ淫事ニ關シ檢診ヲ要シタル等ヲ算入ス

變死之部

傷死 器械的ノ毀傷即チ振盪傷、其傷ヲ受ケタルモ亦此部ニ算入ス、挫傷、突傷、打傷、銃傷、咬傷、裂傷、骨傷等ニテ死ニ至リシ者ヲ算入ス

中毒 礦物性、植物性、動物性、及ヒ酒精、瓦斯類等ノ中毒ニテ死ニ至リシ者ヲ算入ス

窒死 外物ニヨリ呼吸氣道閉塞セラレ即チ手巾等ヲ以テ口鼻ヲ塞キ單ニ窒息シテ死ニ至ル者ヲ算入シテ敢テ溺給以下瓦斯中毒等ノ爲メ窒息死ニ至ル者ヲ算入スルニ非ス

壓扼 手腕ヲ以テ咽喉ヲ壓搾セラレ又ハ人民群集中ニ在テ劇シク逼塞ヲ受ケ胸膈運動ヲ妨止セラレ死ニ至リシ者及ヒ家屋木材土石等ノ轉覆セシ際ニ押壓ヲ受ケ死ニ至リシ者ヲ算入ス

燒死 湯火傷及ヒ製造局等ニ在テ火藥又ハ化學的藥品等ノ爲メニ傷害ヲ受ケ死ニ至リシ者ヲ算入ス

病死 其原因不分明途上等ニ於テ俄然卒倒シ死ニ至リシ者及ヒ内科的諸病ニ罹リ死ニ至リシ者ヲ算入ス

縊死 自ラ縊レテ死ニ至リシ者又ハ他人ノ爲メニ縊殺サレタル者モ此部ニ算入スヘシ

警視本署達 第十三年八月二十六日

今般從前之警視病院ヲ廢シ更ニ警視病院并微毒病院左之通取設候條此旨相達候事

- 芝警視病院 元第二病院
- 淺草警視病院 元第五病院
- 芝警視病院第一分局 元第一病院
- 同 第二分局 元第二病院
- 淺草警視病院第一分局 元第六病院
- 同 第二分局 元第四病院
- 麴町微毒病院 元第三病院

警視本署從前ノ病院ヲ廢シ更ニ病院ヲ設ク

十四年三月警視院達第四十一號ヲ以テ芝淺草兩病院ヲ廢ス

十五年三月警視院達第三十二號ヲ以テ麴町微毒病院ヲ廢ス

本郷微毒病院

元第四病院

警視本署達 第十三年八月二十六日

今般警視病院更ニ取設候ニ付テハ警察上ニ係ル醫務及ヒ警部補已下ノ患者取扱方并受持左ノ通相定候條此旨相達候事

- 一 警部補已下入院治療ヲ要スル者及ヒ變死傷者檢診出火場出張等警察上ニ係ル一切ノ醫務ハ芝淺草兩病院ニ於テ管理スル事
- 一 警部補已下入院ヲ要セサル一時ノ疾病ハ各分局ニ於テ取扱フ事
- 一 第一方面第三方面ハ芝病院第四方面第五方面第六方面ハ淺草病院受持ノ事

警視本署達 第十三年九月四日

今般警視病院醫事取扱之儀達ニ及ヒ候處更ニ左ノ件各分局ニ於テ爲取扱候條此旨相達候事

- 一 途上ニ於テ急病ヲ發セシ者一時手當ノ事
- 一 變死傷者檢視立會ノ事
- 一 但事ノ重大ニ係ル者ハ院長ノ出張ヲ乞フヘシ
- 一 出火場出張ノ事

警視本署達 第十三年九月四日

今般警視病院幹事ノ名稱ヲ廢シ從前幹事ニ於テ取扱候事務ハ正副院長ニテ主管セシメ候條爲心得此旨相達候事

警視本署達 第十三年九月三十日

警視病院醫事ノ名稱ヲ廢シ正副院長ニテ主管セシム

警視病院入院規則第十條ヲ改正ス

警視病院ニ於テ警察上ニ係ル醫務及ヒ警部補已下ノ患者取扱方ヲ定ム

十四年三月警視院達第四十一號ニ依テ消滅ス

十三年九月警視本署達第八十九號ヲ以テ醫務取扱方ヘ追加ス

警視病院醫事取扱方ヘ追加ス

十四年三月警視院達第四十一號ニ依テ消滅ス

十四年三月警視廳達第四十一號ニ依テ消滅ス

警視病院第一局管理トス

十四年三月警視廳達第四十一號ヲ以テ芝淺草兩警視病院ヲ廢止ス

警視病院非巡查部長等官費治療ヲ廢止ス

警視廳監獄管理局ヲ監獄病院ト改稱シ職務心得ヲ定ム
十三年三月警視本署達第三十四號ヲ以テ改正ス
十二年十月警視本署達第百三十五號ヲ以テ位置ヲ移換ス

衛生門 病院

明治九年八月達第七十三號入院規則第十五條左之通改正候條此旨相達候事

入院規則

第十五條 入院患者外來ノ人ト應接ノ時限ハ午前第十一時ヨリ午後四時迄タルヘシ其他一切外人ト應接ヲ許サス

但公事ノ外已ムヲ得サル事情アルトキハ臨時醫局ヘ申出ヘシ

警視廳達 十四年二月八日

警視病院并徵毒病院ノ儀於其局管理可致此旨相達候事

警視廳達 十四年三月二十八日

芝淺草兩警視病院廢止候事

巡查部長并巡查尋常疾病ニヨリ官費治療之儀自今廢止候事

但職務ノ爲メ傳染病ニ罹ルノ類ハ此限ニアラス

右相達候事

警視廳達 十年十二月二十四日 各課 各分署 各病院

監獄警局ヲ監獄病院ト改稱シ職務心得左之通相定候條此旨相達候事

監獄病院職務心得

第一條

院長

職務總テ各病院長ニ同シ

第二條

副院長

職務各病院副院長ニ同シ

第二條

取締

第一 徵毒検査ヲ除クノ外職務總テ各病院取締ニ同シ

第二 病檻ノ患者危篤ノ狀アレハ速ニ看守所ヘ通知スヘシ

第四條

當直醫

第一 院長及ヒ取締ノ指揮ヲ受ケ檻内患者ノ診察ヲナシ之ヲ懇切ニ取扱フヘシ

第二 病檻ノ患者出入アルトキハ其監號役囚ノ年刑工作ノ番號姓名等遺漏ナク出入簿ニ記載シ押印ヲナスヘシ

第三 患者診察ノ上檻號姓名等配劑錄ニ詳記シ處方箋ハ藥室ニ付與スヘシ

第四 新タニ入ルノ囚徒及ヒ役囚ヘ差入レ物等ヲ精密ニ検査スヘシ

第五 囚徒病ニ罹リ親戚ヘ責付中ノ者アラハ時時其家ニ就キ診察シ診斷書ヲ添ヘ其事由ヲ院長ヘ申稟スヘシ

第六 變死人及ヒ負傷者アル旨通報アラハ取締ノ指揮ヲ受ケ直ニ出張シ之ヲ診按スヘシ若シ診決シ難キ者ハ速ニ取締ニ申告スヘシ

第五條

副當直醫

職務總テ當直醫ニ同シ

第六條

調藥監

職務總テ當直醫ニ同シ

第六條

調藥監

衛生門 病院

職務各病院調藥監ニ同シ

第七條

藥調副監

職務各病院調藥副監ニ同シ

第八條

調藥掛

職務各病院調藥掛ニ同シ

警視本署達 十二年二月三日

其院醫員進退ニ關涉スル事件ハ豫テ署長ヘ協議ヲ經然ル後上申可致儀ト可相心得此旨相達候事

警視本署監獄病院醫員進退ニ關スル事件上申方
十四年三月内務省達乙第十五號ニ依テ監獄病院ヲ廢止ス官廳門地方官制ノ目ニ載ス

警視本署達 十二年十月六日

監獄病院并該院出張所位置左之通移換候條此旨相達候事

警視本署監獄病院非出張所ヲ移換ス
十四年三月内務省達乙第十五號ニ依テ廢止ス官廳門地方官制ノ目ニ載ス

監獄署内

同第一出張所

同第二出張所

警視本署達 十三年三月二十七日

監獄病院職務心得別紙之通改正候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

監獄病院職務心得

第一條

院長 一員ヲ置ク

第一 該院并ニ出張所一切ノ醫務ヲ管掌シ幹事以下各醫員ノ勤怠及ヒ治術ノ巧拙ヲ監視シ其黜陟スヘキハ署長ト稟議シ第二課長ヘ具申スヘシ

第二 凡ソ入院ノ患者ハ懇切ニ治療ヲナシ幹事以下ナシテ病室内テ時時巡回セシメ不攝生ナキ様注意スヘシ

第三 監内一切ノ衛生并警察醫事ヲ主宰スヘシ

第四 監内ニ重症又ハ難症ノ患者アリテ廢篤疾或ハ不治症ト認ルトキハ警部立會ノ上診斷スヘシ

第五 檢視上ニ係ル重大ノ診斷ハ必自之ヲナシ其他ハ幹事以下ナシテ代理セシムルコトアルヘシ

第六 諸願伺届等ヲ出ストキハ其可否ヲ考案シ異存ナキハ之ニ檢印スヘシ

第七 凡ソ監内傳染病發起ノ兆候アラハ速ニ其景狀ヲ第二課長ニ具申シ署長ト協議ノ上精精豫防ニ注意スヘシ

第二條

副院長

院長ヲ補助シ院長在ラサルトキハ其事務ヲ代理スヘシ

第三條

幹事 該院并出張所共一員宛ヲ置ク

第一 院長ノ命ヲ受ケ内外ノ庶務ヲ管掌シ當直醫以下ノ勤怠ヲ視察シ異狀アラハ院長ニ申告スヘシ

第二 院長不在中ハ各醫員ノ進退ニ關スル事件ヲ除ク外之ヲ代理スルコトヲ得

第三 懲治未決已決拘留留禁獄苦使ノ患者ヲ調査シ月表ヲ編製シテ署長并院長ヘ申稟スヘシ

第四 檢視上ニ係ル診斷ハ院長ノ主務タリト雖モ不在或ハ事故アリテ出張シ難キトキ又ハ事ノ重大

- ナラサルモノハ之ヲ代理スヘシ
- 第五 常ニ各監内工作場等ヲ巡視シ各囚衛生上ニ注意スヘシ
- 第六 毎朝入院患者ノ診察ヲ懇切ニナスヘシ
但患者危篤症ト見認ルトキハ直ニ診斷書ヲ以テ署長ヘ通知スヘシ
- 第七 病囚死亡ノ節ハ看守警部立會ノ上診斷書ヲ以テ申稟スヘシ
- 第八 監内傳染病ノ兆候發起スルトキハ直ニ檢診シ院長ヘ稟議シ當直醫以下ヲ指揮シテ豫防并治療法ヲ專擔スヘシ
- 第九 時時病室内ヲ巡視シ不攝生不取締等ヲキ様注意スヘシ
- 第十 各醫員ノ進退ニ關スル事件ヲ除クノ外諸願伺届書ヲ作り之ヲ院長ニ出スヘシ

當直醫

- 第一 院長及ヒ幹事ノ指揮ヲ受ケ監内患者ノ診察ヲナシ之ヲ懇切ニ取扱フヘシ
- 第二 入院患者出入アルトキハ其監號役囚ノ年刑工作ノ番號姓名等遺漏ナク出入簿ニ記載シ押印スヘシ
- 第三 患者診察ノ上監號姓名年齢病名原因經過等配劑錄ニ詳記シ處方箋ハ藥室ニ附與スヘシ
- 第四 入院患者ニ與フル三次ノ食ヲ檢査シ及ヒ囚徒ヘノ差入食物等ニ注意スヘシ
- 第五 囚徒重病ニ罹リ親戚ヘ責附中ノ者アラハ時時其家ニ就キ診察シ診斷書ヲ添エ幹事ヘ申稟スヘシ
- 第六 監内變死人及ヒ負傷者アル旨通報アラハ院長又ハ幹事ノ指揮ヲ受ケ直ニ該所ヘ出張シ檢診ノ上診斷書ヲ作り更ニ院長幹事ノ意見ヲ乞フヘシ
- 第七 非常急劇ニ應スルタメ輪番ヲ以テ一名宛宿直スヘシ
- 第八 新入ノ囚徒ハ直ニ其體格ヲ檢査シ其強弱ニ應シ就役ノ輕重ヲ區分スヘシ

但帶患ノ者ハ其病症ニ應シテ直ニ處置スヘシ

- 第九 夜中急病ノ報知アラハ其監ニ就キ警部立會ニテ診察シ相當ノ處置ヲナスヘシ
- 第十 宿直醫員ハ毎朝開監直ニ就役シ難キ者ヲ診察シ病ノ輕重ニヨリ入院或ハ居監引籠或ハ輕役力役等ノ區別ヲナスヘシ
- 第十一 外科器械并書籍等ハ其名稱員數等ヲ詳記シ簿冊二様ヲ製シ之ニ幹事ノ捺印ヲ受ケ置クヘシ

副當直醫

- 第一 職務當直醫ニ亞ク
- 第二 内外患者ノ藥餌攝生ヲ説諭シ看護人ノ勤怠ヲ注意スヘシ
- 第三 一名又ハ二名ヲ以テ該院貯藏ノ器械ヲ主管シ手術アルトキハ之カ準備ヲナシ若破損等アルトキハ修理ノ手順ヲナスヘシ
- 第四 院長及ヒ幹事等病室ノ回診アルトキハ隨從シテ其病症經過處方等ヲ登錄シ藥劑ノ用方用量ヲ看護人又ハ患者ニ懇諭スヘシ

第六條

調藥監

- 第一 調藥ニ係ル一切ノ事務ヲ管掌シ調藥掛ノ勤怠ヲ監視シ若異狀アラハ幹事ニ申出ヘシ
- 第二 醫員ヨリ送附スル處方箋ヲ受ケ勘査ノ上檢印シ調藥掛ヘ付與シ誤謬ヲキ様調劑セシムヘシ
- 第三 藥品ノ眞贋及ヒ精粗ヲ密査シ若不良品アラハ直ニ其旨ヲ幹事ニ申稟シ交換ヲナスヘシ
- 第四 一箇月一回藥品ノ出納ヲ調査シ之ヲ帳簿ニ登記シ月表ヲ編製シ幹事ヘ差出スヘシ
- 第五 調藥掛ヨリ差出セシ諸願伺届書等ハ總テ之ニ檢印シ幹事ヘ差出スヘシ

第七條

調藥副監

調藥監關員及不在ノ節ハ其事務ヲ代理執行スヘシ
第八條 調藥係

- 第一 調藥監ノ指揮ヲ受ケ調劑ヲナシ其都度處方箋月日ノ下ニ押印スヘシ
- 第二 付與セラルル處方箋ヲ密按シ若疑難アラハ調藥監ニ質問シ些ノ事タリト雖臆斷ヲ以テ調劑スヘカラス
- 第三 藥品及ヒ器械等闕乏ナキ様日日調査シ若闕乏品アラハ院長又ハ幹事及ヒ調藥監ノ檢印ヲ得テ受取ヘシ
- 第四 藥劑ヲ調製スルトキハ其秤量等誤謬ナキ様注意スヘシ
- 第五 毎日一名ツツ輪番ヲ以テ宿直スヘシ
- 第六 日日藥品ノ出納ヲ帳簿ニ詳記シ置クヘシ
- 第七 諸願伺届書等ハ總テ調藥監ニ差出スヘシ

開拓使達 二十一年一月二日

別紙ノ通今般病院規則相立候ニ付官員始從者市在旅人ニ至迄醫療相願者ハ夫夫願出可申出候事

病院規則

- 一 諸官員病氣ノ節ハ醫師診察ノ上其次第ニヨリ入院療養可被致從僕ノ者ハ其主人ノ斷ヲ以テ入院ノ上診察治療可請尤モ藥品料ハ可被相納事
 - 一 入院治療ノ儀ハ御救恤第一ノ儀ニ付貧民御藥御賄共被下置候得共自今相應ノ者ハ爲冥加日日金百疋相納可申且諸國船方ノ者入院願出候節モ右同斷ノ事
- 入院治療奉願候書付

何町

右ハ今般病院御治療奉願候然ル上ハ難症ニテ其驗無御坐相果候共聊カ異論申間敷候以上

何 某 或ハ粹妻娘

請人 何 某印

名主 何 某印

月日

書面之通相違無御坐候以上

開拓使事業報告抄録

小樽病院 後志國小樽郡小樽港

石狩病院 石狩國石狩郡

明治三年四月札幌病院ニ屬シ小樽、石狩病院ト稱ス

(參考)

開拓使事業報告抄録

明治二年九月大學二等醫一名札幌在勤ヲ命シ後志國小樽郡錢函村開拓使假應ニ遣リ當時小樽石狩二郡瀕海地兵部省管轄アリ患者ヲ治療ス三年四月小樽石狩兩所兵部省設立ノ病院ヲ引受ク

開拓使札幌本廳達 四年八月二十五日

自今使部以下附屬迄病氣ノ節ハ病院ニ於テ官費治療候條此旨相達候事

開拓使事業報告抄録

岩内石炭山病院 後志國岩内郡茅沼

明治五年六月設置礦夫及外來患者ヲ療ス

開拓使病院規則
五年十一月十一日札幌本廳達無誤ヲ以テ改正ス

札幌本廳兵部省設立ノ小樽石狩兩病院ヲ引受ク札幌病院ニ屬ス

十五年一月札幌本廳達所テ第四號ヲ以テ小樽出張所ヲ設ス

十年一月二十四日札幌本廳達無誤ヲ以テ石狩出張所ヲ病院包納トス

七年一月札幌本廳達一ノ第十六號ヲ以テ名稱ヲ定ム

札幌本廳使部以下ノモノ病氣ノ節治療方

九年十月札幌本廳達乙第百二十二號ヲ以テ官費治療ヲ廢ス

札幌本廳後志國岩内郡茅沼村石炭山ニ病院ヲ設ケス

六年九月日開拓使病院ニ合併ス

開拓使事業報告抄録

明治五年九月後志國余市郡川村、岩内郡御銚内村、古平郡濱中村、古宇郡神惠内村、忍路郡忍路村、積丹郡日司村、石狩國濱益郡茂生村、厚田郡厚田村、膽振國勇拂郡苦小牧村、白老郡白老村ニ病院ヲ設ク

札幌本廳後志國余市郡川村外九箇所ニ病院ヲ設ケル
七年二月札幌本廳達ニ
第二號ヲ以テ積丹病院ヲ設ケル
六年五月日調忍路白老病院ヲ設ケル
七年十二月日調厚田出張病院ヲ設ケル
十年一月二十四日札幌本廳達無號ヲ以テ濱益出張所ヲ病院包録トス
十年一月二十四日札幌本廳達無號ヲ以テ古平古宇勇拂三病院出張所ヲ設ケル
十五年一月札幌本廳達丙第四號ヲ以テ岩内余市兩出張所ヲ設ケル
七年一月札幌本廳達一ノ第十六號ヲ以テ名稱ヲ改

札幌本廳病院入院患者并藥劑定價其他規則
五年十一月十六日札幌本廳達無號ヲ以テ各郡病院藥劑取立非患者名前書等取扱官員ヲ設ケ

開拓使札幌本廳達 五年十一月十一日
別紙ノ通病院御決定ニ相成候上ハ各郡出張ノ病院ニ於テモ右同様御心得有之度此段申進候也
第一條 入院患者并藥劑定價其他御規則
上等 一日 金一步二朱
中等 一日 金一步
下等 一日 金三朱
第二條 藥劑代價左ノ通相定候事
水藥 一日分 銀三匁
丸藥 一日分 銀二匁

散藥	同	銀二匁	煎藥	同	銀二匁
眼藥	一瓶	銀一匁	膏藥	一匁	銀一匁
外布藥	一瓶	金一朱			

第三條 是迄等外附屬并移住民請負諸職人士方ノ者共藥劑申受候節ハ被下切相成居候處向後相廢止藥劑定價ノ通可相納事
第四條 官費生徒并土人ノ分ハ藥劑賄共被下候事
第五條 市在困窮ノ者共自費ヲ以テ治療難致分ハ戸長伍長ノ内ニテ取調ノ上印紙ヲ以テ願出候得ハ藥劑御賄共被下候事
第六條 御扶助被下候移住民入院中ハ御扶助米并摺摺料爲相納藥劑御賄共被下候事
但藥劑ノミ相乞候者ハ御施藥ノ事
第七條 御賄被下候患者一日玄米五合五勺銀六匁ツッ御入費ト定候事
右之通確定候事

開拓使札幌本廳達 五年十一月十六日
別紙ノ通各郡藥價取立ノ儀ニ付伺ノ上御附紙通御達相成候條寫相副及御回達候可被得其意候右回章各御承知之上順那次渡留ヨリ返納可有之候此段及御達候也
(別紙)

來酉年正月ヨリ於各郡モ藥價取立候様御定則相成候ニ付テハ月月藥價取立并患者名前書等取調候事
務官員被差置候様被仰付度尤小郡ハ出張所官員ノ内ヨリ兼務被仰付可然哉此段相伺候也
壬申十一月
各郡病院藥價取立方ハ地方官員兼務ノ儀可申達事

札幌本廳各郡病院藥價取立并患者名前書等取扱官員ヲ設ケ

七年四月札幌本廳達四ノ第九號ヲ以テ第七條中ヲ改正ス

七年七月札幌本廳達七ノ第十九號ヲ以テ第五條ニ但書ヲ追加ス

札幌本廳各郡病院藥價取立并患者名前書等取扱官員ヲ設ケ

札幌本廳札幌病院休職日ヲ定ム

六年九月札幌本廳第九ノ第二號ヲ發シテスヘシ

開拓使札幌本廳達 六年三月二十四日
別紙寫ノ通病院ヨリ申出候間爲御心得及御達候也
(別紙)

當院ノ儀ハ是迄休暇ナク總テ出勤ノ處以來廳中休暇日ハ醫局藥局事務係共一名ツツ出勤
但醫局藥局ハ副直一名ツツ午前十二時迄相詰候事
右之通休暇相定候ニ付此段御届申上候也

開拓使事業報告抄録

室蘭病院

札幌本廳室蘭郡室蘭村ニ病院ヲ設置ス
七年一月札幌本廳達一ノ第十六號ヲ以テ名稱ヲ改ム

明治六年三月室蘭郡舊室蘭村ニ設置ス六月新室蘭港ニ移轉室蘭病院ト稱ス

開拓使事業報告抄録

札幌本廳白老病院ヲ勇拂病院ニ併シ忍路病院ヲ小樽病院ニ併ス

六年五月白老病院ヲ勇拂病院ニ併シ忍路病院ヲ小樽病院ニ併ス

開拓使事業報告抄録

札幌本廳札幌病院ニ事務主治教授ノ三課ヲ置

明治六年六月札幌病院ニ事務主治教授三課ヲ置ク

十七年七月二十八日札幌本廳達無効ヲ以テ職制ヲ定ム

八年三月札幌本廳達乙第四十一號ヲ以テ教授課ヲ置ス

開拓使札幌本廳達 六年八月二十八日 各局校院 各出張所
醫員各郡詰場所ノ儀是迄病院出張所ト稱來候處自今何郡病院ト相稱候事

一各郡病院ヨリ藥品及醫療器械等ノ儀ハ本院直往復其他ノ事務諸願伺届等總テ各郡病院ヨリ其地方官

へ申立地方官之ヲ庶務局へ宛往復致來候處自今其地方官ヨリ本院ヲ宛往復可致尤其事件各局ノ内へ
關涉スルハ其届及ヒ本院ト相評ニテ可申立事
右ノ通相達候事

開拓使札幌本廳達 六年九月四日 各出張所

今般病院造營落成來ル六日開院ニ付別紙規則相達候條爲心得其地病院并郡民へモ可相觸事

札幌本廳札幌病院規則ヲ改正ス
十七年七月二十八日札幌本廳達無効ヲ以テ札幌病院規則ヲ定ム

病院規則

一 病院ハ疾病ヲ治シ蒼生ヲシテ健康ヲ保タシムル所以ナリ今ヤ北海ノ地新ニ開ケ生齒ノ數一月一月ヨリ多シ然シテ其未タ風土ニ習慣セサルヲ以テ疾病亦少シトセス依之 御愛恤ノ餘今般新ニ病院御創立ニ相成候深ク御趣意ヲ奉戴シ攝生法ハ勿論治療法行届キ殃天非命ノ死無之様貴賤貧富ヲ問ハス取扱可致事

一出頭ハ朝第八時退出ハ午後第三時ノ事

一 官醫ハ一般自分療治不相成事

一 主治課一人司藥掛一人護長掛一人宿直ノ事

一 病院ハ休日ナシ然シ開隙ヲ以テ休暇ト可爲事

一 規則ハ其時宜ニ依テ相立候間不便ノ事有之候節ハ會議ノ上改正可致事

入院患者規則

一 入院ヲ願フ者ハ診察ノ上證人同道事務課へ届ケ免許ノ證書ヲ持シ當直へ届ケ病室等可受指圖書

一 入院中衣服飲食等萬事醫官ノ指圖書ニ隨ヒ自儘ラシキ事有之間敷事

一 無據事故アリテ外出ヲ願フ者ハ其段當直へ申出許可ノ證書ヲ以テ事務課へ相達候上外出可致歸院ノ上ハ其證書可差返事

一 入院ノ節金銀其外事務課へ預ケ置退院ノ節可受取事

一看病人ハ病院ヨリ差出候得共急劇ノ患者ハ近親ノ者一人ツツ可附添事
一入院中猥リニ飲食等院中へ取入レ間敷事
外來患者規則

一診察ヲ乞フ者ハ朝第八時ヨリ午後第二時迄可罷出事
但急病ハ此例ニアラス

一診察ヲ乞フ者ハ取次所へ届ケ出小使ヨリ當直へ可達事

一藥劑ハ處方書ヲ以テ事務ノ印章ヲ取り藥局ヨリ可乞受事

娼妓微毒検査規則

一娼妓免許ノ者速ニ微毒有無検査ヲ受ケ當院鑑札ヲ請ケ渡世可致事

一微毒検査毎月五日目遺漏ナク検査可受事

但無據事故有之欠席スル者ハ其旨申出翌日検査可受事

一微毒症輕重ハ検査醫員ノ考定ニ有之事ニ付入院治療或ハ日通ヒ治療等申渡猥リニ苦情申間敷事

一微毒ニ付封客セシメ候日ヨリ髪飾リ化粧等禁止候事

一娼妓ト貸座敷主等ノ間ニ於テ何條ノ事故アリ御趣意ニ相悖リ候儀ハ無忌憚可申出事

開拓使事業報告抄録

六年九月岩内石炭山病院ヲ岩内病院ニ併ス

札幌本廳岩内石炭山病院ヲ岩内病院ニ合併ス
附醫員旅費渡方制限

開拓使札幌本廳達 十一年十月十四日 各出張所 石炭山係

病院其餘場所詰醫員旅費ノ儀函館支廳ヨリ伺濟ニ付別紙規則寫ノ通決議相成施行候條此段相達候事

病院其餘場所詰醫員旅費渡方制限

第一條 市在貧究者或ハ不得已事故有之官費治療願出候者ハ正副戸長ニテ篤ト取調願書與印ノ上申立

候節長官ヨリ長官旅出等ノ節ハ次官醫員へ看病出張申付候節ハ藥價モ官費ニ被相立候ニ付旅費其出張所程ノ遠近一泊等ノ無區別變則ニ照準シ給與スヘキ事

第二條 東西各郡及近傍出張所等醫員被差置候場所其所轄内貧窮ノ者或ハ不得已事故有之官費治療願出候者ハ第一條手續ノ通其出張所へ願出候ハハ請合全權ノ官員ニテ醫員へ出張ヲ命シ其段委細本廳へ可申立藥價及出張ノ旅費共官費支給スヘキ事

第三條 御雇或ハ徵募等ノ者ニシテ官費治療可相成規有之ハ診察ノ爲メ出張ノ醫員旅費モ前同様官費ヲ以テ支給スヘキ事

第四條 右ノ外總テ自己相對頼ト見做旅費ハ不支給藥價兼テ成規ノ通爲相納可申事

第五條 自己相對頼病者ノ爲メニ醫員出張ノ節御備馬借用相願候節官ノ差支無之ハ時宜次第貸渡候事

右ノ通確定候事

明治六年八月

藥價定

一水藥	一日分	五錢
一丸藥	同	四錢
一散藥	同	同
一泡劑	同	三錢
一外敷藥	同	同
一點眼水	一瓶	二錢
一膏藥	一頁	一錢

右御藥價每月月末上納可致候事

開拓使札幌本廳達 七年一月二十日 各出張所

札幌本廳各郡病院ヲ何郡出張病院ト改稱ス

九年四月札幌本廳達乙第
五十三號ヲ以テ名稱ヲ改

各郡病院自今何郡出張病院ト改稱候條爲心得此旨相達候事
但事務取扱方ハ從前之通ト可相心得事
追テ其郡郡病院へハ出張所ヨリ可相達候事

札幌本廳發付郡出張病
院ヲ廢止ス

開拓使札幌本廳達 七年二月十三日
積丹郡出張病院當分廢止候條爲心得此旨相達候事

札幌本廳病院規則第七
條ヲ改正ス

開拓使札幌本廳達 七年四月二十九日
病院患者賄料壬申十一月中相達置候處今般別紙ノ通改正本年五月十六日ヨリ施行ノ筈ニ付各所出張病
院へ可申達此旨相達候事
明治七年五月十六日ヨリ改正

入院患者一日分賄料

一日 金九錢 但一賄 金三錢
米五合一勺 米一合七勺

右之通

札幌本廳病院規則第五
條へ但書ヲ追加ス

開拓使札幌本廳達 七年七月十五日
壬申年中施行患者取扱規則第五條中別紙ノ通但書追補候條此旨相達候事
(別紙)

但當地并各郡病院アル地ニ於テ管轄自他ヲ不問寄留ノ者困難ニテ施藥治療願出候節ハ其代價等身元
引受人ヨリ償還可爲致ハ勿論ニ候得共引受人ニ於テ償還能ハサル節ハ被下切若シ入院セスシテ不叶
患者ハ毎日賄料相納ムヘシ

札幌本廳濱益出張病院
ヲ石狩出張病院派出所
トス

開拓使札幌本廳達 七年十一月十七日
今般其出張所相廢候ニ付テハ其出張病院自今石狩出張病院派出所ト可相心得事

札幌本廳古宇出張病院
ヲ岩内出張病院派出所
トス

開拓使事業報告抄錄
七年十一月古宇出張病院ヲ岩内出張病院古宇派出所ト改稱ス

札幌本廳厚田出張病院
ヲ濱益出張病院ニ合併
ス

開拓使事業報告抄錄
七年十二月厚田出張病院ヲ濱益派出所病院ニ併ス

浦河支廳廢止ニヨリ靜
内外四病院ヲ札幌病院
ニ屬シ其名稱ヲ改ム

開拓使事業報告抄錄
明治七年十二月日高國靜内郡下下方村沙流郡柳別村浦河郡浦河村幌泉郡幌泉村十勝國廣尾郡茂寄村五
病院皆本廳ニ屬ス(浦河支廳廢止ニ由ル)

(参考)

開拓使事業報告抄錄
靜内病院 明治四年稻田郡植設置ス七年十二月札幌病院ニ隸シ靜内出張病院ト稱ス
沙流病院 明治五年二月創設七年十二月札幌病院所轄トナリ靜内出張病院沙流派出所ト稱ス
浦河病院 明治五年二月創設七年十二月札幌病院ニ屬シ浦河出張病院ト稱ス
幌泉病院 明治五年二月設置七年十二月札幌病院所轄トナリ浦河出張病院幌泉派出所ト稱ス
廣尾病院 明治五年二月設置七年十二月札幌病院所轄トナリ浦河出張病院廣尾派出所ト稱ス

札幌本廳札幌病院ニ司
藥醫長ノ兩係ヲ設ケ
十七年七月二十八日札幌
本廳達無量ヲ以テ札幌病院
職制ヲ定ム

開拓使札幌本廳達 八年一月十八日
其院中自今司藥護長ノ兩係ヲ設候條此旨相達候事

札幌本廳出張病院規則
ヲ更正ス

八年四月札幌本廳達第百
五十七號ヲ以テ藥價ヲ更
正ス

開拓使札幌本廳達 第八年一月二十二日
出張病院規則書別紙之通更正候條其筋達方可取計此旨相達候事
(別紙)

札幌管内各郡病院更規則

病院ハ疾病ヲ治シ蒼生ヲシテ健康ヲ保タシムル所以ナリ今ヤ北海ノ地移住ノ人民一月一月多クシテ
其未タ風土ニ習慣セサルヲ以テ疾病亦タ少シトセス依之各郡ニ出張病院ヲ設ケ其職ヲ盡サシム宜上
意ヲ奉シ攝生法ハ勿論治療法及シ殃夭非命ノ死無之様賤貧富ヲ問ハス懇切ニ取扱可キ事
一配劑錄ニ病症全快死亡等詳載シ半年毎ニ本院ヘ可差出事
一大患者有之治療難決節ハ其最寄ノ同僚ヘ相談致スヘキ事
一痘ハ小兒ノ大厄ナルヲ以テ懇々説諭シ漏ナキ様種痘施行スヘキ事
但種痘人員本院ヘ届ヘキ事

一娼妓微毒有無五日毎ニ遺漏ナク検査可致事

但無據事故有之闕席スル者ハ其旨聞届ケ翌日検査スヘキ事

附

一娼妓免許ノ者速ニ微毒有無検査ヲ遂ケ病院鑑札下渡スヘキ事

一微毒症輕重ハ検査官醫ノ鑑定ニ有之事ニ付入院治療或ハ日通ヒ治療等申付ヘキ事

一微毒ニ付禁客セシメ候日ヨリ髮髻リ化粧等禁止ノ事

一藥劑價左之通

一水藥 一日分 金五錢

一丸藥 一日分 金三錢三釐

一散藥 一日分 同

一煎藥 一日分 同

九年十月札幌本廳達第
百二十二號ヲ以テ入院料
藥價等官費ノ廉ヲ廢ス

一眼藥 一瓶 但シ一日分金一錢七釐

一膏藥 大 一日分 金五錢一釐
中 一日分 金四錢七釐
小 一日分 金三錢七釐

一外布藥 一瓶 但一日分金六錢二釐

一入院料左ノ通但藥劑價共

一上等 一日 金三十七錢五釐

一中等 一日 金二十五錢

一下等 一日 金十八錢七釐五毛

但三等ノ取扱ハ患者ノ數ト看病人トナテ區分シ上等三人中等五人下等十人ノ患者員數ニ付

看病人各一人ツツトス

一邏卒及ヒ士人ハ藥劑賄料共官費ノ事

一囚獄患者藥劑官費ノ事

一寄留ノ外市在加籍困窮ノ者共自費ヲ以テ治療難受分ハ區戸長ノ内ニテ取調地方官長聞届ノ上ハ藥

劑及賄共官費ノ事

但寄留ノ者ハ身元引受人ヨリ可相納ト雖モ貧困ニシテ止ムテ得サル者或ハ旅人行倒等ノ如キハ

醫員検査地方官聞届ノ上官費タルヘシ

一御扶助有之移住民藥劑官費ノ事

但入院ノ者ハ御扶助米并摺摺料相納ヘキ事

一御雇外國人賄官費ノ者ハ藥劑共官費自分賄ノ者ハ旅行滯留共自費ノ事

一患者賄料一人ニ付一日玄米五合一勺金九錢ツツト相定請負ノ者ヘ下ケ渡スヘキ事

一藥劑價并入院料一箇月ツツ取纏上納スヘキ事

但本院ヘハ明細表ノミ差出スヘキ事

前條之通確定候事

明治八年

札幌本廳勇拂石狩出張病院并濱益派出所ヲ札幌病院ニ直管ス

札幌本廳札幌病院教授課ヲ廢止ス

開拓使札幌本廳達 八年二月二十五日
番外民部局
勇拂石狩出張病院并濱益派出名稱ヲ廢シ自今本廳病院直管ト相定候條爲心得此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 八年三月三十一日
無號病院
其院中教授課廢止候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 八年三月三十一日
第四十二號各局校院
今般御詮議ノ次第有之當病院教授課被廢候條爲心得此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 八年三月三十一日
第三十八號各出張所
今般御詮議ノ次第有之當病院教授課被廢候條爲心得此旨相達候事

開拓使事業報告抄錄
室蘭出張病院有珠派出病院 廳振國有珠郡 紋館村ニアリ
明治八年三月創設室蘭出張病院有珠派出病院ト稱ス

札幌本廳開拓使國有珠郡 紋館村ニ室蘭出張病院 派出所ヲ設置ス
十年一月二十四日札幌本 廳達無號ヲ以テ廢止ス

開拓使札幌本廳達 八年四月二十九日
第五十七號各出張所
病院ニ於テ拂下ケ藥劑價更正候ニ付別紙之通當市在ヘ布達候條其所轄ニ於テモ同様施行可致此旨相達 候事

札幌本廳病院拂下ケ藥 劑價ヲ更正ス

開拓使札幌本廳達 八年四月二十九日
無號(市)市在區戸長總代
病院ニ於テ拂下ケ藥劑價別記之通更正來ル五月一日ヨリ施行候條爲心得此旨相達候事

(別記)

更正藥劑價

水藥	一日分	金三錢
丸藥	同	同同斷
散藥	同	同同斷
外用藥	同	同同斷
煎藥	同	同一錢
服藥	同	同同斷
膏藥	同	同同斷
右之通		同同斷

開拓使事業報告抄錄

明治八年六月天鹽國留萌郡留萌村増毛郡増毛村 苫前郡苫前村 北見國宗谷郡宗谷村利尻郡字「オシトマ」
五病院皆本廳ニ屬ス(留萌支廳廢止ニ由ル)

(參考)

留萌病院	明治五年四月設立	八年四月札幌病院所轄トシ留萌出張病院ト稱ス
増毛病院	明治五年四月創設	八年四月札幌病院ニ屬シ留萌出張病院増毛派出病院ト稱ス
苫前病院	明治五年四月創設	八年四月札幌病院ニ屬シ留萌出張病院苫前派出病院ト稱ス
宗谷病院	明治二年十一月創設	八年六月札幌病院ニ屬シ宗谷出張病院ト稱ス
利尻病院	明治七年七月創設	八年六月札幌病院ニ屬シ宗谷出張病院利尻派出病院ト稱ス

開拓使札幌本廳達 八年六月二十日
無號増毛 苫前出張病院
其出張病院自今留萌出張病院派出病院ト相定候事
開拓使札幌本廳達 八年六月二十日
無號留萌出張病院

留萌支廳廢止ニヨリ留 萌外四病院ヲ札幌病院 ニ屬シ其名稱ヲ改ム
十年一月二十四日札幌本 廳達無號ヲ以テ増毛病院 出張所ヲ廢ス
九年四月札幌本廳達乙第 五十三號ヲ以テ名稱ヲ改 ム
留萌支廳廢止ハ開拓使八 年三月十三日無號ヲ以テ 達スル所ナリ官廳門地方 官制ノ日ニ載ス

札幌本廳若毛 苫前兩出 張所ヲ留萌出張病院派 出張院トス

增毛苦前兩出張病院自今其出張病院派出病院ト相定候事

札幌本廳利尻禮文兩出張所ヲ宗谷出張病院派出病院トス

八年七月札幌本廳達第百六號ヲ以テ禮文派出病院ヲ廢ス

札幌本廳積丹出張病院ヲ古平出張病院ニ併ス

開拓使事業報告抄錄
八年六月積丹出張病院ヲ古平郡出張病院ニ併ス

開拓使事業報告抄錄

札幌本廳小樽病院ヲ札幌病院派出所トス

八年六月小樽出張病院ヲ小樽病院派出所ト改稱ス

十五年一月札幌本廳達第百四號ヲ以テ廢ス

開拓使札幌本廳達 第八年七月二十四日
禮文郡へ派出病院設置候處以來廢止候條此旨相達候事

札幌本廳余市古平兩出張病院ヲ札幌病院派出所トナス

開拓使札幌本廳達 第八年八月三十一日
今般余市古平兩出張所相廢同地方民事局所轄相成候ニ付兩所出張病院相廢其病院出張所ト相定候條此旨可相心得事

十年一月二十四日札幌本廳達第百號ヲ以テ古平出張所ヲ廢ス

余市古平兩病院ハ五年九月日開設置スル所ナリ

札幌本廳室蘭出張病院ヲ札幌病院出張所ト改稱ス

開拓使事業報告抄錄
八年九月室蘭出張病院ヲ室蘭病院出張所ト改稱ス

札幌本廳石狩國札幌郡琴似村ニ札幌病院派出所ヲ設置ス

開拓使事業報告抄錄
琴似病院派出所 石狩國札幌郡琴似村ニアリ
明治八年十一月設置琴似病院派出所ト稱シ專ラ屯田兵患者ヲ治療ス

十年一月二十四日札幌本廳達第百號ヲ以テ廢止ス

九年四月札幌本廳達第百五十三號ヲ以テ名稱ヲ改稱ス

札幌本廳出張病院派出病院ヲ札幌出張所ト改稱ス
九年九月札幌本廳達第百十三號ヲ以テ改稱ス
九年五月札幌本廳達第百六十四號ヲ以テ事務權裁ノ關テ改正ス

開拓使札幌本廳達 乙第九年四月十九日
今般章程頒布ニ付各出張所請所病院等名稱其他別紙兩表朱書之通改定候條此旨相達候事

此線以下朱書

名	稱	所在地	名	稱	事務ノ牀裁
靜内	出張病院	靜内郡	靜内	出張所	醫務ハ醫官ハ事務兼取ノ者其他ノ事務ハ該分署ニテ擔當取扱該院ニ付テノ伺届上申ハ分署及病院出張所主任官苗字名ヲ連署シ本廳在勤長官宛其他ハ病院出張所名ヲ以テ病院及ヒ該主務課各局ノ名ヲ宛公文ハ凡テ受付課ヲ經差出スヘシ
沙流	出張病院	沙流郡	沙流	出張所	
浦河	出張病院	浦河郡	浦河	出張所	
幌泉	出張病院	幌泉郡	幌泉	出張所	
廣尾	出張病院	廣尾郡	廣尾	出張所	

本 應 病 院							宗 谷 持		留 萌 持			岩 内 持	
室蘭病院出張所	勇拂病院出張所	古平病院出張所	余市病院出張所	小樽病院出張所	石狩病院出張所	濱益病院出張所	利尻派出病院	宗谷出張病院	苦前派出病院	増毛派出病院	留萌出張病院	古宇派出病院	岩内出張病院
室蘭 函館 港郡	勇拂 小拂 牧郡	濱古 中平 村郡	黒余 川市 村郡	沙小 見樽 登郡	辨石 天狩 町郡	茂濱 生益 村郡	泊利 尻 郡	宗宗 谷谷 郡	苦苦 前前 村郡	増増 毛毛 村郡	留留 萌萌 村郡	神古 茂宇 恵内 村郡	御岩 録内 町郡
病 院 主 管													
室蘭病院出張所	勇拂病院出張所	古平病院出張所	余市病院出張所	小樽病院出張所	石狩病院出張所	濱益病院出張所	利尻病院出張所	宗谷病院出張所	苦前病院出張所	増毛病院出張所	留萌病院出張所	古宇病院出張所	岩内病院出張所

札幌本廳病院名稱改正
 表中ヲ改正ス
 九年九月札幌本廳達乙第
 百十三號ヲ以テ名稱ヲ改

開拓使札幌本廳達乙九年五月八日各局校院分署
 本年四月十九日乙第五十三號ヲ以テ各出張所其他改稱等ノ儀相達候處各所病院ノ分詮議ノ次第有之別
 紙表朱書之通更正候條此旨相達候事

表中△印ハ朱書

本 應							改 定	
岩 内 括 包		浦 河 括 包			靜 内 括 包		名 稱	事 務 體 裁
古宇病院出張所	岩内病院出張所	廣尾病院出張所	幌泉病院出張所	浦河病院出張所	沙流病院出張所	靜内病院出張所		
△醫務ハ主治課者ハ事務兼勤ノ事務ハ分署ニテ取扱該院 ニ付テノ公文ハ廳庭上ニテ其手続ヲトスハ本病院出張 所ノ名ヲ署シ本廳病院ヲ宛凡テ受付課ヲ經差出スヘ シ								

衛生門 病院													
管 直 院 病													
留 萌 病 院 出 張 所		增 毛 病 院 出 張 所		苦 前 病 院 出 張 所		宗 谷 病 院 出 張 所		利 尻 病 院 出 張 所		石 狩 病 院 出 張 所		濱 益 病 院 出 張 所	
小 樽 病 院 出 張 所		余 市 病 院 出 張 所		古 平 病 院 出 張 所		勇 拂 病 院 出 張 所		室 蘭 病 院 出 張 所		有 珠 病 院 出 張 所		琴 似 病 院 出 張 所	
總て是迄ノ如シ													

札幌本廳各部病院出張所藥劑價及肥料等ノ取立金取扱方

札幌本廳山鼻村へ病院假出張所ヲ設置ス

九年八月札幌本廳達得第百十八號ヲ以テ廢ス

札幌本廳山鼻村病院假出張所ヲ廢ス

札幌本廳札幌空知通ニ札幌病院附屬傳染病室ヲ設ク

札幌本廳病院名稱ヲ改正ス

開拓使札幌本廳達一九一九年五月十四日
各郡病院出張所藥劑價及肥料等取立金は迄當病院へ差越猶當院ヨリ會計掛へ爲相納來候得共遠隔往復且納方區區ニ相成候テハ混雜不少ニ付向後ハ其地方出張所へ爲相納同所ヨリ本廳會計局へ上納可致事

開拓使札幌本廳達一九一九年五月二十三日
山鼻村へ當分病院假出張所設置候條此旨爲心得相達候事

開拓使札幌本廳達一九一九年五月二十三日
山鼻村へ當分其院假出張所設置候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達一九一九年八月十七日
山鼻村病院假出張所詮議ノ次第有之相廢候條今後兵員發病報告ノ節ハ其時時醫員出張診察候儀ト可相心得此旨相達候事

開拓使事業報告抄錄

明治九年八月札幌空知通官舎二棟ヲ札幌病院附屬傳染病室トス是ヨリ先キ札幌病院附屬傳染病室ヲ石狩ニ置ク此ニ至テ廢ス

開拓使札幌本廳達一九一九年九月十二日
本年八月乙第六十四號病院名稱ノ儀相達候處詮議ノ次第有之更ニ別記ノ通改稱候條此旨相達候事
(別記)

札幌病院靜内出張所
 札幌病院幌泉出張所
 札幌病院古宇出張所
 札幌病院苫前出張所
 札幌病院濱益出張所
 札幌病院余市出張所
 札幌病院室蘭出張所
 札幌病院沙流出張所
 札幌病院廣尾出張所
 札幌病院留萌出張所
 札幌病院宗谷出張所
 札幌病院石狩出張所
 札幌病院古平出張所
 札幌病院有珠出張所
 札幌病院浦河出張所
 札幌病院岩内出張所
 札幌病院増毛出張所
 札幌病院利尻出張所
 札幌病院小樽出張所
 札幌病院勇拂出張所
 札幌病院琴似出張所

開拓使札幌本廳達 乙第九十月二十九日 各局分署
 病院規則中入院料藥劑價官費ノ廉詮議ノ次第有之相廢シ候條來ル十一月一日ヨリ關係ノ各局課ニ於テ
 經費ニ組込仕拂相立月月病院係へ戻入可取計此旨相達候事
 但本文ニ係ル金額ハ病院豫算中ニ調製有之候事

札幌本廳勇拂琴似病院
出張所ヲ本廳病院所轄
トシ石狩濱益出張所ヲ
包轄ス

開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 其出張所相廢シ自今本院所轄ト相定候條此旨相達候事
 開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 其出張所自今本院ノ包轄ト可相心得此旨相達候事
 開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 勇拂琴似病院出張所相廢シ其院所轄ト相定及ヒ石狩濱益病院出張所其包轄ト可相心得此旨相達候事
 開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 其出張所相廢シ自今室蘭病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳有珠病院出張
所ヲ廢ス

札幌本廳沙流病院出張
所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 有珠病院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事
 開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 其出張所相廢シ自今靜内病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事
 開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 沙流病院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌病院廣尾病院出張
所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 其出張所相廢シ自今幌泉病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事
 開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 廣尾病院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳增毛病院出張
所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 其出張所相廢シ自今留萌病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事
 開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 增毛病院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳古平病院出張
所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 其出張所相廢シ自今余市病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事
 開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
 古平病院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳古宇洞院出張所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
其出張所相廢シ自今岩内病院出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

開拓使札幌本廳達 十年一月二十四日
古宇洞院出張所相廢シ自今其出張所所轄ト相定候條此旨相達候事

札幌本廳靜内病院ヲ札幌病院包摂トス

開拓使本廳達 十年三月六日
其出張所自今本院ニ於テ包轄候條此旨相達候事

開拓使本廳達 十年三月六日
靜内病院出張所自今其院ニ於テ包轄可致此旨相達候事

札幌本廳石狩國札幌郡對雁村ニ札幌病院派出所ヲ設置ス

開拓使事業報告抄録
札幌病院對雁派出所 石狩國札幌郡對雁村ニアリ
明治十年十二月設立札幌病院對雁派出所ト稱ス

開拓使事業報告抄録

小樽入船町派出所 後志國小樽郡入船町ニアリ

明治十三年十二月設置札幌病院小樽出張所入船町派出所ト稱シ入院ヲ許ス

札幌本廳後志國小樽郡入船町ニ小樽出張所派出所ヲ設置ス
十五年一月札幌本廳達丙第四號ヲ以テ小樽出張所ヲ廢ス

開拓使札幌本廳達 丙十五年一月十九日
札幌病院小樽余市岩内三出張所二月二十八日限り廢止候條此旨相達候事
開拓使札幌本廳達 丁十五年一月十九日
丁第八號小樽郡役所各通

札幌縣札幌病院職制

十九年四月北海道廳達丙第四號ヲ以テ廢止ス
十七年七月二十八日札幌縣達無號ヲ以テ札幌病院院則ヲ定ム

其部内札幌病院 小樽并余市岩内 出張所本年二月二十八日限り廢止候條公立或ハ私立病院設置ノ維持方法相定至急可申出此旨相達候事

札幌縣達 十七年七月二十八日
無號縣立札幌病院

其院院長以下職制章程別紙ノ通相定明治十五年五月一日無號衛生課ヘノ達ハ廢止候條此旨相達候事
札幌病院職制

院長 一人

第一 院務ヲ總理シ專ラ患者ノ診斷治療ヲ掌ル

第二 院中諸員ノ能否勤怠ヲ查察シ進退黜陟ヲ衛生課長ニ協議ノ上縣令ニ具申スルヲ得

第三 衛生事項ニ付意見ヲ縣令ニ開申スルヲ得

副院長 一人

職掌院長ニ亞ク

主治部長 一人

部中ノ事務ヲ主宰シ患者ノ診斷治療ノ事ヲ擔任ス

當直醫 無定員

患者ノ診察治療ヲ分擔ス

藥劑部長 一人

部中ノ事務ヲ主宰シ藥物試驗ノ事ヲ擔任ス

調劑員 無定員

藥劑調合ノ事ヲ分擔ス

理事部長 一人

第一 院中ノ常務會計ヲ管理ス

- 第二 部員ノ能否勤怠ヲ查察シ進退黜陟ヲ院長ニ協議スルヲ得
- 第三 院中ノ經濟ヲ審案シテ縣令ニ開申スルヲ得
- 事務係 無定員
- 院中常務會計ヲ處辨ス

札幌縣札幌病院規則

札幌縣達 無號 縣立札幌病院 十七年七月二十八日

其院規則別冊ノ通相定候條此旨相違候事

縣立札幌病院院則

第一編 職務心得

第一章 總則

- 第一條 本院ハ專ラ患者ノ診察治療ヲ掌リ兼テ醫術ノ改良ヲ圖リ衆庶殃夭ノ患ヲカラシムルヲ要ス
- 第二條 内外患者ニ接スルハ勿論總テ懇篤丁寧ニ攝生法ヲ示諭スヘシ
- 第三條 院內ニ主治部藥劑部理事部ヲ置キ諸務ヲ分掌ス
- 第四條 院中ノ諸務ハ職制章程ニ從ヒ之ヲ調理シ勉テ權限規程ヲ愆ルヘカラス
- 第五條 病室ハ當分傳染病諸病娼妓及救療ノ四部ニ區分ス
- 第六條 外來患者ヲ診察スルハ診察所ニ於テシ入院患者ハ其病床ニ於テスヘシ
- 第七條 參退院時限及休日ハ本縣ニ準ス
- 第八條 施治ノ患者ハ姓名年齡病症全愈死亡等ヲ處方錄及ヒ病床日誌ニ詳記シ置クモノトス
- 第九條 藥價及入院料ハ明治十七年一月廣告ノ通り徴收スヘシ
- 第十條 入院ヲ願フ者ハ第七十六條ニ定ムル所ノ入院證書ヲ差出サセ不都合ナキ者ハ之ヲ許可スヘシ
- 但官署ノ照會ニ依テ入院セシムルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 院長副院長醫員ハ自宅治療スルヲ許サス

但急病等ニテ患者ノ請ニ應シ一時之ヲ診察スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ處方箋ハ必ス本院ニ送ルモノトス

- 第十二條 醫事ニ關スル統計諸表ハ各其成規ニ從ヒ精密注意ヲ加ヘ期限ヲ愆ラサル様調製スルモノトス

第二章 正副院長

- 第十三條 院長ハ午前ニ入院患者ヲ回診シ午後ハ外來患者ヲ診察スヘシ
- 第十四條 正副院長ハ大患劇症ニシテ出院スルコト能ハサル者ハ道ノ遠近ヲ問ハス其病家又ハ公私立病院及院醫ノ請ニ應シ往診スヘシ
- 第十五條 院長ハ主治部長以下醫員ノ往診等ハ都合ヲ計リ之ヲ命スヘシ

第三章 院長附書記

- 第十六條 正副院長ノ指揮ヲ受ケ醫事ニ係ル一切ノ筆記ヲ掌ルヘシ
- 第十七條 奇疾異病將來ノ參考ニ供スヘキモノハ正副院長ノ指揮ヲ受ケ體質症候原因經過豫後等詳細ニ治驗錄ヘ記載シ置クヘシ
- 第十八條 醫事ニ關スル一切ノ往復文ヲ草シ院長ノ決ヲ取り處辨スヘシ
- 第十九條 院有ノ圖書ヲ管守シ毎月之ヲ調査シ新調ヲ要スルカ或ハ破損等アルトキハ其由ヲ理事部ニ申出ヘシ

第四章 主治部長

- 第二十條 院長ノ指揮ヲ受ケ部中ニ關スル一切ノ諸務ヲ主宰シ併テ部員ヲ督勵スヘシ
- 第二十一條 毎日外來患者ノ診察ヲ負擔シ當直及外來患者ノ往診ニ從事スヘシ
- 第二十二條 正副院長事故アリテ參院セサルトキハ入院患者ヲ代診スヘシ
- 第二十三條 醫員ヨリ毎月出ス所ノ諸表ヲ調査シ翌月七日限り院長ニ差出スヘシ

第五章 當直醫

第二十四條 主治部長ヲ輔佐シ外來患者ヲ診察シ兼テ當直往診ニ從事スヘシ

第二十五條 主治部長事故アリテ參院セサルトキハ首座ノ者代理シテ諸務ヲ處辨スヘシ

第二十六條 内外患者ノ處方錄及處方箋ヲ專掌シ毎月各自負擔スル所ノ患者表ヲ製シ翌月五日限り主治部長ニ差出スヘシ

第六章 藥劑部長

第二十七條 部中ニ關スル一切ノ事務ヲ擔任シ併テ部員ノ勤惰ヲ監督スヘシ

第二十八條 調劑員ヲ指揮シ專ラ配劑ニ注意シ過誤ナカラシムルヲ要ス

第二十九條 藥品ノ良否ヲ覈査シ及製藥ニ從事スヘシ

第三十條 部中ノ器械原簿ヲ製シ置キ購入又ハ毀損ノ都度其増減ヲ明記シ置クヘシ

第三十一條 藥品及ヒ器械購入又ハ修繕ヲ要スルトキハ其品目數量ヲ記載シ理事部ヘ差出スヘシ

第三十二條 緩劑ハ普通ノ棚上ニ安置シ妨ケナシト雖モ劇劑ハ棚ヲ異ニシ鎖鑰ヲ嚴ニシ出納ノ際尤モ注意ヲ要スヘシ

第三十三條 藥品ノ増減ハ各品種ヲ分チ月表ヲ製シ翌月七日限り院長ニ差出スヘシ

第七章 調劑員

第三十四條 藥劑部長ノ指揮ヲ受ケ調劑ニ從事スヘシ

第三十五條 調劑ノ節ハ能ク處方箋ヲ點檢シ毫モ品物秤量ヲ誤ラサル様慎密ニ注意スヘシ

第三十六條 調劑了ラハ其處方箋ヲ再檢シ藥品并秤量ニ誤錯ナキヲ認メ其處方箋ニ捺印シ然後之ヲ患者ニ附與スヘシ

第三十七條 處方ノ藥品配合用量ニ不審ノ廉アルトキハ藥劑部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十八條 患者ニ與フル劇藥ハ其服法等ヲ懇示シ誤用ナカラシムルヲ要スヘシ

第三十九條 處方箋ニ筆記者及ヒ藥價領收濟ノ檢印ナキモノハ調劑スヘカラス

第八章 理事部長

第四十條 金銀出納順序等ハ本縣ノ成規ニ從フヘシ

第四十一條 院内事務ノ利害得失ニ付テハ直ニ之ヲ縣令ニ具陳スルコトヲ得

第九章 事務係

第四十二條 院務ニ係ル諸申牒及往復ノ文書ヲ掌ルヘシ

第四十三條 本院ノ印章ヲ監守スヘシ

第四十四條 職員錄及ヒ履歷簿ヲ調製スヘシ

第四十五條 諸帳簿及諸表ヲ整理スヘシ

第四十六條 院中諸員ノ諸願伺届ヲ調理スヘシ

第四十七條 掃除夫ヲ使役シ内外不潔ナラサル様注意スヘシ

第四十八條 各病室ヲ巡視シ之レカ取締ヲナスヘシ

第四十九條 患者處方箋ヲ指出ストキハ藥價ヲ收入シ藥價收入簿ト藥價濟ノ割印ヲ捺押スヘシ

第五十條 入院患者ヨリ其入院料ヲ納付スルトキハ帳簿ニ記入シ本人ヘ領收證ヲ渡スヘシ

第五十一條 受付差立ノ二簿ヲ製シ置キ往復文書ノ表書又ハ頭書ヲ洩レナク登記スヘシ

第五十二條 公布公達及ヒ本縣布達廣告等ノ類ハ回達又ハ保存スヘシ

第五十三條 各所ヨリ到達ノ文書ハ其主任ニ回付シ受付簿ニ認印ヲ取ルヘシ

第五十四條 本院ヨリ發遣ノ文書ハ各課署及ヒ札幌市内ハ小使ヲ以テシ各地ノ分ハ郵送スヘシ

第五十五條 應接ハ總テ丁寧ヲ旨トシ且ツ速ニ諸務ヲ處辨スルヲ要ス

第十章 看護人心得

第五十六條 入院患者アルトキハ當直醫員ヨリ處方箋ヲ受ケ患者ノ爲メニ調劑ヲ請フヘシ

但退院患者ノ處方箋ハ即日當直醫員ヘ返付スヘシ

第五十七條 患者ノ衣服寢具及療用器械藥瓶等ニ注意シ不潔ナカラシムヘシ

第五十八條 室内浴室便所等ハ清潔掃除ヲ加ヘ汚穢ノ繻帶等ハ洗滌スヘシ

第五十九條 時々窓戸ヲ開キ空氣ノ流通ヲナスヘシ
 第六十條 病室所屬ノ物品ハ凡テ記帳シ置キ毎月末主治部ノ検査ヲ受クヘシ
 第六十一條 入室見舞人ヨリ受ケタル證票ハ毎夕當直醫員ニ還付スヘシ
 第六十二條 毎朝夕患者ノ員數ヲ調ヘ當直醫員ニ申出ツヘシ
 第六十三條 交互徹夜シ火ノ元ハ勿論患者ノ安否ヲ巡視シ異狀アラハ速ニ當直醫員ヘ申告スヘシ
 第六十四條 非番ノ者外出セントスルトキハ當直醫員ノ許可ヲ受クヘシ

第二編 雜例

第一章 當直心得

第六十五條 毎日退散時限ヨリ翌日參院時間迄及休日トモ左ノ人員當直スヘシ
 當直醫 二名
 調劑員 一名
 事務係 一名

第六十六條 日誌ヲ製シ置キ當直中ノ事件ヲ記載シ交代ノ節引繼クヘシ
 第六十七條 當直中醫員ノ職掌ヲ二類ニ分チ一名ハ一類ノ係リニ當リ一名ハ二類ノ係リニ當ルモノトス

第一類 外來患者係

第一項 各醫員退散後及ヒ休日ノ外來患者ヲ負擔シ并急往診ニ當ルモノトス
 第二項 定員當直ノ外外來患者往診ノ爲メ豫備員ヲ定メ置キ急往診ヲ請フモノ一時ニ二名以上アルトキニ際シ其豫備員ニ急報シテ臨時之レカ處置ヲナスヘシ

第二類 病室係

第一項 病室内ヲ巡視シ患者ノ病狀ヲ診査スルモノトス
 第二項 院長入院患者ヲ回診スルトキハ隨從シテ前日ノ病狀ヲ具陳スヘシ

第三項 院長退院ノ後入院患者ニ異狀アルトキハ外來患者係ト協議ヲ遂ケ適應ノ手當ヲ爲シ置キ翌日院長出頭ノ節速ニ具陳スヘシ

第四項 患者危篤ニ迫ルトキハ速ニ院長并理事部ニ報告スヘシ

第五項 每次入院患者ノ食餌ヲ検査スヘシ

第六項 患者ノ見舞トシテ飲食物ヲ持參スルモノアルトキハ點檢ノ上無害品ハ之ヲ許シ有害品ハ之ヲ斥クヘシ

第七項 入院患者退院ヲ請フトキハ其病症ヲ點檢シ院長ノ指揮ヲ受ケ理事部ヘ通牒ノ上退院證ヲ付與スヘシ

第八項 入院患者已チ得サル事故アリテ外出ヲ請フトキハ其病症ニヨリ之ヲ許否スヘシ

第六十八條 當直者ハ鍵箱及用度品ヲ管守スヘシ

第六十九條 當直者ハ看護人及小使掃除夫等ノ勤怠ヲ視察シ且ツ院ノ内外ヲ間ハス其取締ニ注意スヘシ

第七十條 院中非常ノ事故アルトキ小事ハ當直者協議ノ上臨時之ヲ處分シ大事ハ院長又ハ理事部長ニ急報シテ指揮ヲ乞フヘシ

第二章 器械取扱心得

第七十一條 當直醫ノ内數名ヲ以テ器械取扱係ト定メ治療器械ノ臺帳ヲ調製シ現在器械ノ數ヲ登錄シ置クモノトス

第七十二條 器械ハ少ナクモ毎月一回以上調査シ丁寧淨拭スヘシ若シ錆蝕毀損等アルトキハ補理ノ手續ヲナシ其増減ヲ明記シ置クモノトス

第七十三條 器械取扱係ハ手術執行ノ節院長ノ指揮ヲ受ケ需用ノ諸器械ヲ取揃フヘシ但執行終ル後能ク淨拭シ置クモノトス

第七十四條 器械取扱係ハ器械ノ購入ヲ要スルトキハ其品名數量ヲ明記シ之ヲ理事部ニ差出スヘシ

第七十五條 諸器械ハ往診醫員携帶ノ外一切院外ニ出スヘカラス

第三章 入院患者心得

第七十六條 入院治療ヲ請ハント欲スルモノハ札幌市街在住ノ戸主タル者ヲ保證人トシ左ノ書式證書ヲ理事部ヘ差出スヘシ

入院證 (印紙貼用)

札幌縣何部何町番地(居住)(借家)(同居)(寄留)
寄留ノ者ハ其本籍ヲモ記載スヘシ

身分職業

何

年 誰

右今般^{上等}入院御治療相願候ニ付本人身元ノ儀ハ保證人ニ於テ一切引受御規則爲相守候ハ勿論入院料等十日毎ニ可相納萬一本人相滞リ候節ハ保證人ニ於テ屹度辨償可仕候依之證狀如件

右願人

何

年 誰

札幌區^北何條^東何町目何番地

身分職業

保證人

何

年 誰

縣立札幌病院

御 中

寄留ノ者ハ保證人二名以上タルヘシ

第七十七條 保證人トナリタル者ハ札幌市外ニ轉籍又ハ寄寓スル時ハ更ニ保證人ヲ立テ前條ノ例ニ依ルヘシ

第七十八條 外科手術ヲ請フ者ハ左ノ書式ノ證書ヲ差出スヘシ
外科手術依託證 (印紙貼用)

肩書第七十六條ニ同シ

何

年

誰

右ハ何病ニ罹リ手術治療御依託候ニ付テハ御手術中ハ勿論以後何様ノ變症相出候共聊カ遺憾無之候依テ保證人連署證狀如件

右手術願人

何

年

誰

肩書前ニ同シ

保證人

何

年

誰

縣立札幌病院

御 中

第七十九條 入院料ハ毎月十ノ日之ヲ理事部ニ納ムヘシ

第八十條 入院中禁忌攝生運動靜息等ハ總テ醫員ノ指揮ニ從フヘシ

第八十一條 入院中患者ハ勿論保護人等ハ病室内ニ於テ放歌又ハ高聲ノ談話ヲナスヲ許サス

第八十二條 入院患者ノ回診ハ午前九時ヨリ午後三時マテトス此時間ハ在室スヘシ

第八十三條 正副院長回診ノ後變症アルトキハ直ニ當直醫員ヘ申立ツヘシ

第八十四條 已チ得サル事故アリテ外出セント欲スルトキハ其事由ヲ當直醫員ニ告ケ許可ヲ受クヘシ但歸院ハ午後十時限リトス

第八十五條 門限後猥リニ出入ヲ禁ス若シ已チ得サル事故アルモノハ當直醫員ノ許可ヲ受クヘシ

第八十六條 休日ハ電機療法及諸手術ハ總テ休止スヘシ

但大患急症ハ此限ニアラス

第八十七條 不得已事故アリテ一時外宿セントスル者ハ保證人ヨリ願出許可ヲ受クヘシ

第八十八條 退院セントスル者ハ午前八時ヨリ正午十二時迄ヲ限リ當直醫員ニ申出其證書ヲ受ケ入院

料ヲ納ムヘシ

但至急事故アリ退院ノ節時間ニ限ラスト雖モ必ス本條ノ手續ヲ踐ムヘシ

第八十九條 浴湯ハ看護人ノ通知ヲ得混雜セサル様入浴スヘシ

第九十條 看護者ヲ備入ルカ又ハ家族親戚等ノ看護ヲ願フ者ハ其意ニ任スヘシト雖モ二人以上在室セシムルヲ許サス

但不得已事故アル者ハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第九十一條 當直醫員ノ許可ヲ得シテ飲食物ヲ供用スルコトヲ許サス

第九十二條 入院中相互ニ金品ヲ貸借スルコトヲ禁ス

第九十三條 看護人及小使等へ贈遺ヲナスヘカラス

第九十四條 出火及非常ノ節ハ當直吏員ノ指揮ヲ受クヘシ

第九十五條 入院中金錢及重要ノ物品ハ成ルヘク理事部ニ預ケ置クヘシ

第九十六條 此章ニ定メタル規則ヲ遵守セサル者ハ退院ヲ命スルコトアルヘシ

第四章 外來患者心得

第九十七條 診察時間ハ五月一日ヨリ七月十日迄午前八時ヨリ午後二時迄七月十一日ヨリ九月十日迄午前八時ヨリ正午十二時迄九月十一日ヨリ十月三十一日迄午前八時ヨリ午後二時迄十一月一日ヨリ翌年四月三十日迄午前九時ヨリ午後三時迄トス

但時間前後及休日ハ當直醫員ニ於テ診察スヘシ

第九十八條 診察順序ハ參院ノ前後ヲ以テス

但急症ハ此限ニアラス

第九十九條 急症ニシテ參院シ難キモノハ往診治療ヲ乞フコトヲ得ヘシ

第五章 見舞人心得

第一百條 患者ニ面會セント欲スル者ハ主治部ニ申立ツヘシ

但入室ヲ許ストキハ證票ヲ與フヘキニ付入室ノ際ハ之ヲ看護人ニ渡スヘシ

札幌縣病院庶務課方録保存方

札幌縣達 十七年十月二十四日

處方録保存ノ儀ニ付別紙乙第二百五十四號ノ通郡區役所へ相達候條其院ニ於テモ同様可相心得此旨相達候事

札幌縣達 乙十七年十月二十四日 郡區役所

公私立病院并開業醫師ニ於テ取扱タル患者ノ處方録ハ必ス三十六箇月間保存可致置旨達方可取計此旨相達候事

北海道廳札幌函館根室病院職制

北海道廳達 十九年四月十三日

札幌函館根室病院職制左ノ通制定ス

右相達ス

病院職制

第一條 病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 一人

副院長 一人

當直醫 若干員

藥劑監督 一人

藥劑員 若干員

書記 若干員

第二條 各病院ニ院長アレハ副院長ヲ置カス副院長アレハ院長ヲ置カサルコトアルヘシ

第三條 院長ハ院務ヲ總理シ兼テ診察治療ノ事ヲ掌ル

第四條 院長ハ院中職員ノ能否勤怠ヲ查察シ其進退ヲ具狀スルヲ得

- 第五條 院長ハ衛生事項ニ付意見ヲ具狀スル事ヲ得
- 第六條 副院長ハ院長ノ職務ヲ佐ク若シ院長ナキトキ又ハ院長事項アルキハ院長ノ職務ヲ代理ス
- 第七條 當直醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ診察治療ニ從事ス
- 第八條 藥劑監督ハ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑及藥物試驗ノコトヲ監督ス
- 第九條 藥劑員ハ調劑監督ノ指揮ヲ受ケ調劑及藥物試驗ニ從事ス
- 第十條 書記ハ院長ノ指揮ヲ受ケ書記帳簿計算ニ從事ス

北海道廳令 第二十六號 第六十八號

北海道廳令 第二十六號 第六十八號

明治十九年四月丙第四號病院職制第一條當直醫ヲ醫員ト改ム

北海道廳令 第二十八號 第八十二號

北海道廳令 第二十八號 第八十二號

改正ス

札幌病院職制左ノ通定ム

二十年十月北海道廳令

札幌病院職制

二十年九月北海道廳令 第八十四號ヲ以テ札幌病院事務員職制ヲ定ム

第一條 札幌病院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 院長
- 副院長
- 醫局長
- 醫員
- 藥局長
- 藥劑員
- 第二條 院長ハ院中ノ醫務ヲ總理ス
- 第三條 院長ハ所屬職員ヲ指揮監督シ其能否勤怠ヲ具狀スルコトヲ得

- 第四條 院長ハ藥品器械其他患者ノ施治保護ニ關スル事物ニシテ創始若クハ改良ヲ要スヘキモノアルトキハ具狀スルコトヲ得
- 第五條 副院長ハ院長ノ職務ヲ佐ク院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
- 第六條 醫局長ハ院長ノ命ヲ承ケ患者施治ノ事ヲ掌リ醫局ヲ整理ス
- 第七條 醫員ハ院長及ヒ局長ノ指揮ヲ承ケ診察治療ニ從事ス
- 第八條 藥局長ハ院長ノ命ヲ承ケ調劑及ヒ藥物試驗ノ事ヲ掌リ藥局ヲ整理ス
- 第九條 藥劑員ハ院長及ヒ局長ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

北海道廳令 第二十八號 第八十四號

北海道廳令 第二十八號 第八十四號

札幌病院事務員職制左ノ通定ム

- 札幌病院事務員職制
- 第一條 札幌病院庶務會計ノ事務ヲ管理スル爲メ左ノ職員ヲ置ク
- 事務長
- 書記
- 第二條 事務長ハ命ヲ本廳第一部長ニ承ケ庶務會計ノ事務ヲ掌理ス
- 第三條 書記ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ書記簿記及計算ニ從事ス

北海道廳令 第二十九號 第九十六號

北海道廳令 第二十九號 第九十六號

其院則左ノ通定ム

札幌病院院則

第一章 汎則

第一條 本院ノ病室ヲ別テ左ノ五種ト爲ス

衛生門 病院

- 第一 内科病室
- 第二 外科病室
- 第三 婦人病室
- 第四 眼科病室
- 第五 傳染病室
- 第二條 患者診察及ヒ院長以下參退院時限ハ必要ニ應シ其時時本院ニ於テ之ヲ廣告ス可シ
- 第三條 入院及外來患者ハ其輕重難易ニ從ヒ院長自ラ之ヲ診察治療シ又ハ醫局長醫員ニ指示シ之カ診察治療ヲ爲サシムヘシ
- 第四條 藥品器械ノ購求等醫局長又ハ藥局長ノ申立ニヨリ院長ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ之ヲ事務長ニ通牒シ購入ノ手續ヲ爲ス可シ
- 第五條 一切ノ診斷書及死亡證書ハ院長ニ於テ認許ノ上之ヲ發付スヘシ
- 第六條 施治患者諸表ハ醫局長之ヲ調製シ院長ノ調査ヲ受ク可シ
- 第七條 入院患者ノ病狀ハ院長ノ回診ニ陪從シタル醫局長若クハ醫員ニ於テ詳細病床日誌ニ登錄シ患者ノ外床ニ備ヘ置ク可シ
- 第八條 院長手術ノ際使用スル所ノ器械物品等ハ手術ノ介補ニ當レル醫局長若クハ醫員ニ於テ之ヲ處置スヘシ
- 第九條 醫療器械ノ保管ハ院長ノ指定シタル醫員之ヲ擔當スヘシ
- 第十條 患者退院ヲ請フ者アルトキハ醫局長又ハ醫員ニ於テ能ク其病狀ニ注意シ倘ホ途中急變ノ虞アリト思料スルトキハ保證人又ハ親戚ニ示諭シテ退院セシムルコトヲ得
- 第十一條 受持患者ノ診斷書又ハ死亡證書醫局長又ハ醫員ニ於テ作ルトキハ自ラ之ニ記名認印シ後チ之ヲ院長ニ差出可シ
- 第十二條 處方箋ノ筆記ハ醫局長又ハ醫員ニ於テ掌リ筆記者之ニ認印シ又藥劑服用ノ方法等懇篤患者

- ニ指示ス可シ
- 第十三條 藥品ノ眞價良否及調劑適否ハ藥局長ニ於テ鑑別検査シ努メテ過誤ナキヲ要ス可シ
- 第十四條 藥品ノ所在ハ藥局長ニ於テ之ヲ定メ標紙ヲ付シ分類錯雜ナキヲ要スヘシ
- 第十五條 調劑器械ノ保管ハ院長ノ指定シタル藥劑員之ヲ擔當スヘシ
- 第十六條 藥品配伍ノ秤量ハ常ニ注意シ苟モ過誤ナキヲ要スヘシ
- 第十七條 患者ニ與フル藥瓶ノ標紙ハ内服用其色ヲ異ニシ用法ヲ明記シ誤用ナカラシムルヲ要ス可シ
- 但毒劇藥ナルトキハ特ニ注意ス可シ
- 第十八條 處方ノ藥品配伍ノ分量藥劑員ニ於テ不審ノ廉アリト思料スルトキハ藥局長ノ指揮ヲ受ク可シ
- 第十九條 處方箋ヲ藥價領收濟ノ檢印ナキモノハ之ヲ調劑スヘカラス
- 第二十條 調劑了リタルトキハ藥劑員其處方箋ニ認印スヘシ
- 第二章 藥品器械取扱
- 第二十一條 醫療器械及調劑器械保管者ノ取扱事項ノ概要ハ左ノ如シ
 - 一 諸器械ハ原簿ヲ備ヘ置キ増減出納ノ都度之ヲ明記シ置ク可シ
 - 二 藥品器械ノ購求又ハ修復ヲ要スルトキハ品數ヲ記載シ醫局長又ハ藥局長ニ差出ス可シ
 - 一 諸器械ハ紛雜及毀損セサル様注意シ常ニ器械ノ利鈍及良否ヲ檢シ若シ闕損等アルトキハ之ヲ醫局長又ハ藥局長ニ申告ス可シ
 - 一 手術ニ供セシ器械ハ能ク淨拭保存スルモノトス
- 第三章 當直
- 第二十二條 毎日院長以下退散ヨリ翌日參院時限マテ左ノ人員順次當直スヘシ
 - 醫員 一名

藥劑員 一名

第二十三條 院中ニ當直日誌ヲ備ヘ置キ當直中一切ノ事故ヲ記載シ翌日交替ノ節引繼クヘシ

第二十四條 當直醫員ハ各醫員退散後内外患者ヲ負擔シ并ニ往診ニ當ル者トス若シ一時夥多ノ外來患者アルトキハ在宅ノ醫員ニ急報シテ臨時之カ處置ヲ爲ス可シ

第二十五條 院長退散後入院患者異狀アルトキハ適應ノ手當ヲ爲シ緩急ヲ量リ院長ニ告知ス可シ若シ患者危篤ニ迫ルトキハ速ニ院長及患者ノ親族若クハ保證人ニ報告ス可シ

第二十六條 每次入院患者ノ食餌ヲ検査シ兼テ患者ノ見舞トシテ飲食物ヲ持參スル者アルトキハ點檢ノ上許否ス可シ

第二十七條 入院患者止ムヲ得サル事故アリテ外出チケフトキハ其病症ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第二十八條 院中非常ノ事故アルトキハ官廳ニ急報シテ指揮ヲ請フ可シ但事急遽ニシテ指揮ヲ請フノ邊チキ場合ニ於テハ當直者協議臨機處分ノ上院長及事務長ニ開申スヘシ

第四章 藥價及入院料

第二十九條 本院藥價ハ都テ即納トス

第三十條 藥價及入院料ハ左ノ通徴收ス可シ

藥價

水藥	一日分	金五錢
丸藥	一日分	金五錢
散藥	一日分	金五錢
外布藥	一日分	金三錢
點眼藥	一日分	金二錢
泡劑	一日分	金二錢

膏藥	大 一 具	金三錢
	中 一 具	金二錢
	小 一 具	金一錢

洗滌劑	一劑	金六錢
含嗽劑	一劑	金六錢
灌腸劑	一劑	金四錢
頓服藥	一劑	金二錢
輪篤布	一尺	金三錢
繃帶	一本	金八錢

入院料	上等	金一圓
	中等	金四十錢
	下等	金三十錢

第五章 看病人心得

第三十一條 看病人病者ノ看護上ニ就テハ都テ醫局ノ命令ニ從フ可シ

第三十二條 看病人ハ入院患者アルトキハ醫員ヨリ處方箋ヲ受ケテ調劑ヲ乞ヒ患者退院スルトキハ其處方箋ヲ即日醫局ニ返付スヘシ

第三十三條 看病人ハ交代徹夜シ火ノ元ハ勿論患者ノ安否ニ注意シ異狀アラハ速ニ當直醫ニ申告スヘシ

第三十四條 看病人非番ノトキハ事務局ノ許可ヲ得テ外出スルコトヲ得

第三十五條 看病人ハ患者ノ衣服寢具療用器械藥瓶浴室等ヲ清潔ニシ時々窓戶ヲ開キ空氣ヲ流通セシムヘシ

第三十六條 事務局ノ許可ヲ受クルニ非レハ患者ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第六章 患者心得

第三十七條 外來患者ノ診察ハ急患劇症ヲ除ク外總テ患者參院ノ順序ヲ以テス

第三十八條 入院治療ヲ願フ者ハ札幌市街ニ居住シ相當ノ資力アル者ヲ保證人トシテ左ノ書式ノ證書

ヲ差出サシム

但願人ノ便宜ニ依リ入院料ヲ前納スルモ妨ケナシ

(用紙半紙)

入院證 貼用紙

北海道廳下何郡何村何番地
(居住)借家(寄留)寄留ハ其本籍ヲモ記入ス可シ

身分職業

何ノ誰

年 齡

右ハ今般^{上等}入院御治療相願候ニ付本人身元ノ義ハ保證人ニ於テ一切引受御規則可相守ハ勿論入院料

等十日毎ニ可相納萬一本人相滞候節ハ保證人ニ於テ屹度辨償可仕候仍テ證狀如件

右願人

何ノ誰印

年月日

保證人

何ノ誰印

肩書前ニ同シ

何ノ誰印

札幌病院 御中

第三十九條 入院治療ヲ請フ者官署ノ照會ニ係ルトキハ前條ノ證書ヲ要セスシテ入院セシムルコトアル可シ

第四十條 外科手術ヲ願フ者ハ左ノ書式ノ證書ヲ差出サシム

外科手術依託書 貼用紙

北海道廳下何郡何村何番地居住

(借家)同居(寄留)寄留者ハ其本籍ヲモ記載スヘシ

何ノ誰

年 齡

右ハ何病ニ罹リ手術治療御依託候ニ付テハ御手術中ハ勿論以後何様ノ變症相生候共聊カ遺憾無之候

依テ保證人連署狀如件

右願人

何ノ誰印

年月日

保證人

何ノ誰印

肩書前ニ同シ

札幌病院

御中

第四十一條 入院患者ハ左ノ條項確守スヘシ

一 院長回診ノ節ハ最モ靜肅ヲ要スルヲ以テ患者互ニ私語シ或ハ喫烟ス可カラス

一 院長回診前ハ病室外ノ運動ヲ爲ス可カラス

一 入院中ハ攝生禁忌運動靜息等總テ醫員ノ指示ニ從フ可シ

一 入院患者若シ止ヲ得サル事故アリテ外出セント欲スルトキハ事務局ノ許可ヲ受クヘシ

一 別ニ看護人ヲ雇入レ又ハ親戚等ノ看護ヲ要スルトキハ事務局ノ許可ヲ受クヘシ

一 醫員ノ許可ナクシテ三食ノ外飲食物ヲ供用ス可カラス

一 入院中所持ノ金錢及重要ノ物品ハ事務局ニ依託ス可シ

一 事務局ノ許可ナクシテ互ニ金錢ヲ貸借ス可カラス

第四十二條 前條ノ規程ニ違フ者ハ退院ヲ命スルコトアル可シ

函館支廳渡島國龜田郡
函館二病院ヲ置ク

三年四月九日達ヲ以テ
大學管轄トナス

六年三月六日札幌本廳達
無效ヲ以テ病院規則ヲ定
ム

十七年九月函館縣布達甲
第三十三號ヲ以テ懸立ト
ス

大學東校ニ函館病院ヲ
管轄セシム

四年十一月四日大學ノ所
轄ヲ止ム

開拓使事業報告抄録

函館病院 渡島國龜田郡函
館天神町ニアリ

明治二年九月本院ヲ函館府ヨリ請取函館病院ト名ク

(備考)

開拓使事業報告抄録
按ニ安政六年露西亞國岡士「ゴスケウ」井「ト」函館ニ病院ヲ設ク我人民ノ病ヲ救治セントス函館醫票本館
鹿鹽田順庵等以爲ク荷モ鎮靈ヲ置クノ地ニシテ病院ノ設ナキハ國ノ闕典ナリ宜ク一病院ヲ興スニ如カ
スト乃チ市中衆醫ニ議シ募金法ヲ設ク設立ヲ企ツ萬延元年十一月函館山ノ上町ニ病院建築ノ工ヲ起シ
文久元年六月成ル醫學所ト稱ス醫學講習規則ヲ定ム明治元年五月函館醫學所ヲ更メテ民政方病院トス
幾モナクシテ又舊ニ復ス

大學東校へ達 三年四月九日

函館病院自今其校管轄被仰付候事

開拓使へ達 三年四月九日

函館病院自今大學東校管轄ニ被仰付候條此旨相達候事

開拓使何 三年十月四日

函館病院其外北海道諸醫官ノ儀去秋大學東校へ示談中助敷比等以下ノ醫生ヲ當使へ引受所管ノ官員ニ
シテ萬般取賄病院規則藥器械等迄當使限ニテ夫夫和盤來候然ル處函館病院ノ儀ハ開港場ニモ有之殊
更隆精ニ無之ヲ不相叶第一疾病ヲ治療シ人命ヲ保持スルノ儀ハ開拓ノ最緊要タル筋ニシテ須臾モ有之殊
ニ難仕既ニ去冬來樺太ヲ始根室宋也杯へ入込候農工民等ノ内瘴瀉返寒ノ風土ニ不慣多及殞命候段實
以憫然ノ次第其豫防セシムルノ道又充分精調ノ域ニ至兼候段ハ何レモ恐懼ノ至畢竟中助敷比等以下ノ
醫官ヲ當使へ引受病院等ノ事委託仕置候テハ治療物理ノ節ヲ始其精研ヲ不盡備ハ勿論函館病院ノ儀外
國人居留ノ場所ニモ有之長崎橫濱等一貫スルノ處置無之ヲ不叶ニ付更ニ北海道醫官ノ進退病院規則ヲ
始ノ藥器械ニ至迄悉ク大學東校ノ取扱ニイテシ尙業術相應ノ醫官彼地へ差向ク後來治療筋ハ勿論物
理精究其地ニシテ藥草藥石ヲ採製スルノ儀ヲモ相開キ衆民保全ノ道相盡シ候様仕度候間其旨大學東校
へ御沙汰被下候様奉存候申
指令 三年四月九日
可爲何ノ通最費用ノ儀ハ其使定額ヲ以テ可相充事

開拓使事業報告抄録

壽都病院 後志國壽都郡
中歌村ニアリ

明治四年四月札幌本廳假病院ヲ置キ大學東校所管トス十一月本使所轄ニ復ス五年二月函館支廳管轄ニ
歸ス

開拓使事業報告抄録

明治四年十一月大學東校所轄ヲ止メ本使直轄ニ復ス

開拓使事業報告抄録

久遠假病院 後志國久遠郡一
艘洞村ニアリ

明治五年二月福岡藩支配地上地ノ際受取假病院ト爲ス

瀨棚假病院 後志國瀨棚郡 歌棄假病院 後志國歌棄郡
瀨棚ニアリ

明治五年二月斗南藩支配地上地ノ際受取假病院ト爲ス

開拓使事業報告抄録

福山假病院 渡島國津輕郡福
山松城町ニアリ

明治六年二月假病院ヲ置ク

江差假病院 渡島國檜山郡江
差切石町ニアリ

函館支廳病院規則

九年五月函館支廳達第六
十四號ヲ以テ名稱ヲ改ム

九年五月函館支廳達第六
十四號ヲ以テ名稱ヲ改ム

十二年三月函館支廳達第
十六號ヲ以テ江差山松所
ヲ廢ス

十一年十二月函館山出
張所ヲ廢ス

函館支廳渡島國津輕郡
福山外一箇所ニ假病院
ヲ置ク

十七年九月前館縣送乙第
五十一號ヲ以テ縣立病院
規則ヲ定ム

病院規則別紙ノ通相定候條此旨相違候事

入院患者規則

一患者入院差許候節ハ藥價賄料共併テ一日二十錢二十五錢三十錢ノ三等ニ區別シ本人ノ望ニ任セ代金
月末ニ可相納事
但官員初從者ノ分ハ都テ其主人ヨリ願出管内士族以下平民ニ至迄入院ノ節ハ親戚等ノ内ヲ以テ證
人相立證書差出候上ニテ入院差許難症ニテ若死去候共聊故障ノ筋申出間敷事
外來患者規則

一外來患者ノ儀ハ藥價定表ノ通月末ニ必フ上納可致事
救助患者規則

一救助患者入院并施藥ノ儀ハ公務上ヨリ病ニ罹ル者ハ其主宰ノ局局ヘ市在窮民ハ民事掛ヘ願出候ハハ
其局局ニ於テ事情取糺ノ上申越次第入院施藥共聞届候事

救助患者入院規則
救助患者費用一切病院定額金ヨリ拂出候ニ付入院ノ人員毎月凡五人ト定ムヘク且右患者人員每度庶務
掛ヘ病院ヨリ達置ヘキ事

藥價定表

藥名	水	藥	丸藥	散藥	泡劑	外敷藥	點眼水	一瓶	膏藥	一具
一日分	五	錢	各	四	錢	各	三	錢	二	錢
										一
										錢

右藥價每月末上納可致候事

開拓使事業報告抄錄

森假病院 波島國茅郡 森村ニアリ

島牧假病院 後志國島牧郡 永豐村ニアリ

十年四月前館支廳送第三
十四號ヲ以テ四假病院ヲ
廢ス九年五月前館支廳送
第六十四號ヲ以テ名稱ヲ
改ム

函館支廳管内新醫員旅
費渡方制限

十七年九月前館縣送乙第
五十一號ニ依テ消滅ス

山越假病院 膽振國山越郡 山越村ニアリ 長萬部假病院 膽振國山越郡長
萬部村ニアリ

明治六年五月函館支廳出張所ヲ置キ假病院ヲ設ク

開拓使函館支廳送 第六年十月二日

醫員病用ニ付出行旅費渡方制限別紙之通相定明治六年九月二十二日ヨリ改正候條此段相違候事
右之趣爲心得相違候也

函館支廳并同管内詰醫員病用ニ付出行旅費渡方制限

第一條

一函館支廳直轄ノ市在貧窮者或ハ不得止事故有之官費治療願出候者ハ正副戸長ニテ篤ト取調願書與印
之上申立候節支廳長官ヨリ 長官旅出等ノ節ハ次官 醫員看病出張申付候節ハ藥價モ官費ニ相立候ニ付
旅費其出張道路之遠近一泊等ノ無區別變則ニ照準シ給與スヘキ事

第二條

一東西各郡及近傍出張所等醫員被差置候場所其所轄内貧窮之者或ハ不得止事故有之官員治療願出候者
ハ第一條手續之通其出張所ヘ願出候ハハ詰合之主權之官員ニテ醫員ヘ出張ヲ命シ其段委細支廳ヘ可
申立藥價及出張之旅費共支給スヘキ事

第三條

一御雇或ハ徵募等之者ニテ官費治療可相成規有之者診察之爲出張之醫員旅費モ前同様官費ヲ以テ支
給スヘキ事

第四條

一右之外總テ自己相對願ト見做シ旅費ハ不支給藥價兼テ成規之通爲相納可申事

第五條

一自己相對願病者之爲ニ醫員出張之節御備品借用相願候節官ノ差支無之者時宜次第貸渡候事

右之通確定候事

藥價定

一水藥	一日分	四錢
一丸藥	同	四錢
一散藥	同	同
一泡藥	同	三錢
一外敷藥	同	同
一點眼水	一瓶	二錢
一膏藥	一貝	一錢

右御藥價每月月末上納可致候事

開拓使事業報告抄錄

戸井假病院 波島國茅郡 戸井村ニアリ

明治七年四月函館支廳出張所ヲ設ケ假病院ヲ置ク

開拓使事業報告抄錄

八年八月歌棄假病院ヲ廢ス

開拓使函館支廳達

乙第九年六月一日 各局校院分署

函館支廳管内各出張所病院等別紙第五十一號第六十四號達ノ通改稱候旨申越候條爲心得此旨相達候事

開拓使函館支廳達 第九年五月二十五日

當廳管内病院假病院改稱ノ儀ニ付別紙ノ通民事課へ相達候條爲心得此旨相達候事

函館支廳波島國茅郡 戸井村ニ假病院ヲ設ケ 十年四月函館支廳達第三 十四號ヲ以テ廢ス 九年五月函館支廳達第六 十四號ヲ以テ名稱ヲ改ム

函館支廳歌棄假病院ヲ 廢ス

函館支廳假病院ノ名稱 ヲ改ム

九年十一月函館支廳達第 八十八號ヲ以テ改稱ス

函館支廳病院出張所ノ 名稱ヲ改ム

開拓使函館支廳達 第九年五月二十五日 當廳管内病院假病院共函館病院ニテ管理シ左ノ通改稱候條此旨相達候事

福山病院	出張所
江差病院	出張所
戸井病院	出張所
森病院	出張所
山越内病院	出張所
長萬部病院	出張所
壽都病院	出張所
鳴牧病院	出張所
久遠病院	出張所
瀬棚病院	出張所

開拓使函館支廳達 第九年十一月一日

當廳管内病院出張所稱呼改正之儀ニ付別紙之通民事課へ相達候條爲心得此旨相達候事

開拓使函館支廳達 第九年十一月一日

當廳管内病院出張所稱呼左之通改正候條此旨相達候事

函館病院	出張所
函館病院	出張所
函館病院	出張所
函館病院	出張所
函館病院	出張所
函館病院	出張所
函館病院	出張所
函館病院	出張所
函館病院	出張所
函館病院	出張所

函館病院 瀨棚出張所
 函館病院 森出出張所
 函館病院 山越内出張所
 函館病院 長萬部出張所
 函館病院 戸井出張所

開拓使函館支廳達 十年四月五日

當廳管内病院出張所廢置之儀ニ付別紙ノ通民事課へ相達候條爲心得此旨相達候事

開拓使函館支廳達 十年四月五日

當廳管内病院出張所左之四箇所ヲ存シ其他相廢シ候條此旨相達候事

函館病院 福山出張所
 函館病院 江差出張所
 函館病院 壽都出張所
 函館病院 瀨棚出張所

開拓使事業報告抄録

函館病院奥尻出張所 後志國奥尻郡 釣掛村ニアリ

明治十一年七月醫員一名ヲ遣リ假ニ函館病院奥尻出張所ト稱ス

開拓使事業報告抄録

十一年十二月公立病院建設ニ及テ函館病院福山出張所ヲ廢ス

函館支廳鷗牧久遠森山 越内長萬部戸井出張所

十一年七月日開後志國奥 尻郡釣掛村ニ病院出張所

ヲ假シ

十一年十二月日開福山出 張所ヲ廢ス

十二年三月函館支廳達第 十六號ヲ以テ江差出張所

ヲ廢ス

十四年十一月日開壽都出 張所ヲ廢ス

同年十二月日開瀨棚出張 所ヲ廢ス

函館支廳後志國奥尻郡 釣掛村ニ病院出張所ヲ

假設ス

函館支廳福山出張所ヲ

廢ス

函館支廳江差出張所ヲ

廢ス

函館支廳壽都出張所ヲ

廢ス

函館支廳瀨棚出張所ヲ

廢ス

函館縣函館區立病院ヲ

設立トス

十七年九月函館縣達乙第

五十一號ヲ以テ病院規則

ヲ定ム

函館縣立病院規則及

職員俸給月俸旅費支給

方

十七年九月函館縣告示第

四十一號ヲ以テ縣立病院

入院患者心得ヲ定ム

開拓使函館支廳達 十二年三月六日

函館病院江差出張所來ル八日限リ相廢候條爲心得此旨相達候事

開拓使事業報告抄録

十四年十一月公立病院ヲ設クルニ及テ函館病院壽都出張所ヲ廢ス

開拓使事業報告抄録

十四年十二月公立病院ヲ設クルニ及テ函館病院瀨棚出張所ヲ廢ス

函館縣布達 十七年九月十三日

函館區立函館病院ヲ縣立トナシ縣立函館病院ト稱シ候條此旨布達候事

函館縣達 十七年九月十三日

縣立函館病院規則及職員俸給額月俸旅費支給法相定別紙ノ通函館病院へ相達候條爲心得此旨相達候事

別紙

函館縣達 十七年九月十三日

其院規則及職員俸給額月俸旅費支給法別紙ノ通相定候條此旨相達候事

縣立病院規則

第一條 本院ハ人民ノ健康ヲ保護シ醫事ノ開進ヲ圖リ患者ヲ診察治療ス

第二條 院中醫局藥局事務局ヲ置キ庶務ヲ分掌ス

第三條 昇降時限ハ午前九時參院午後三時退院トス

但日ノ長短ニヨリ之ヲ伸縮スルコトヲ得
第四條 年中休暇左ノ如シ

一月一日ヨリ 一月三日迄

紀元節 神武天皇祭

天長節 札幌神社祭

春季皇靈祭 秋季皇靈祭

神嘗祭 新嘗祭

日曜日 十二月二十九日ヨリ十二月三十一日マテ

第五條 外來患者ハ第三條ノ時限ニ診察ス
但急患者ハ此限リニアラス

第六條 患者中歩行困難ナル者ハ往診ス
第七條 藥價ハ左ノ區別ニ依リテ其額ヲ徴收ス

水藥一日分 金七錢 丸藥一日分 甲金七錢 乙金五錢

散藥一日分 甲金七錢 乙金五錢 頓服藥一劑 甲金五錢 乙金三錢

外布藥一劑 甲金五錢 乙金三錢 點眼水 金四錢

膏藥大貝 甲金六錢 乙金三錢 同中貝 甲金四錢 乙金二錢

同小貝 甲金二錢 乙金一錢

第八條 入院治療ヲ請フ者ハ函館區内ニ住居スル者ヲ以テ保證人トナシ入院中ノ費用ヲ辨償スヘキ證
書ヲ出サシムヘシ

第九條 入院患者藥價賄料ハ左ノ金額ヲ徴收ス
入院藥價 一日分 金十錢

十七年十月函館縣達乙第
五十五號ヲ以テ第十條ヲ
改正ス

第十條 入院薪炭油費 一日分 金六錢
入院賄料 一日分 上金二十二錢 中金十八錢 下金十五錢

院長 一名 (一等醫ヲ以テ)

一 院長ハ縣令ノ命ヲ奉シ院務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

二 院長ハ監事以下各職員ノ進退黜陟ヲ具狀スルコトヲ得

三 院長ハ院務ノ繁閑ヲ計リ管内ヲ巡回シ地方ノ患者ヲ診察シ及醫術ノ改良衛生普及ノ方法ヲ計ル

監事 一名 (二等醫ヲ以テ)

一 監事ハ院長ノ職掌ヲ補佐シ院長事故アレハ代理スルヲ得

當直醫 定員ナシ (以テ之ニ充ツ)

一 當直醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ内外患者ノ治療ニ從事ス

二 院長監事事故アレハ首坐ノ醫員其代理タルヲ得

副當直醫定員ナシ (三等醫ヲ以テ)

一 副當直醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ當直醫ヲ補助シ局務ニ從事ス

司藥長 一名

一 司藥長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑製藥ヲ主掌シ及藥品器械ノ眞價精粗ヲ監別ス

司藥 定員ナシ

一 司藥ハ院長或ハ司藥長ノ指揮ヲ受ケ調劑又ハ製藥ニ從事ス

書記 定員ナシ

一 書記ハ院長ノ指揮ヲ受ケ常務會計ヲ掌ル

函館病院職員俸給

函館病院	長	監	事	書	記
月 俸	三百四十圓以上	四百五十圓以上	四百五十圓以上	二百五十圓以上	二百五十圓以上
函館病院	一等 醫	二等 醫	三等 醫	司 藥 長	司 藥
月 俸	二百四十圓以上	二十五圓以上	二十五圓以上	二十五圓以上	二十五圓以上

月俸旅費支給法

第一條 月俸ハ毎月十七日支給スルヲ定メトス

第二條 免職又ハ奉職中病死ノ者ニハ其節ノ月俸半額ヲ以テ勤続一箇年ニ充テ拜命以來ノ年數ニ乘シ手當トシテ之ヲ給スヘシ

第三條 旅費ハ一日十里詰ヲ以テ表面ノ通り日當ヲ支給スヘシ

旅費 日當表

並 旅 行	赴任旅行	晝夜急行	滯	留	管内並旅行	同上滯留
金二圓七十錢	金 三 圓	金 三 圓	金六十錢	金一圓五十錢	金五十錢	

第四條 前各條ノ外月俸及旅費支給法ハ一般ノ月俸及旅費規則ニ據リ之ヲ支給ス

函館縣立病院入院患者心得

函館縣告示 第十七号 九月十三日

縣立函館病院入院及外來患者心得別紙ノ通候條此旨告示候事

入院患者心得

第一條 入院治療ヲ乞フモノハ函館住居ノ者ヲ保證人トナシ左ノ書式ノ證書ヲ事務局ヘ差出スヘシ但戶長ノ證書ヲ持參スルモノハ此限ニアラス

入院 證

縣國郡區町村番地住居借家(寄留)

(寄留)ナレハ其本籍ヲ記載スヘシ

族籍職業

姓 名

年 齡

右今般入院治療相願候ニ付本人身元ノ儀ハ保證人ニ於テ一切引受御規則爲相守候ハ勿論藥價等十五日毎ニ可相納萬一相滯候節ハ保證人ニ於テ屹度辨償可仕候依之證狀如件

年號月日

願 人 姓 名

縣國郡區町村番地住居借家(寄留)

(寄留)ノモノハ其本籍ヲ記載スヘシ

保 證 人 姓 名

姓 名

第二條 保證人トナリタル者函館區外ニ轉居スルトキハ更ニ證人ヲ立テ前條ノ證書差出スヘシ

外療手術依託證

縣國郡區町村番地住居借家(寄留)

族籍職業

姓 名

年 齡

右ハ何々病ニ罹リ手術治療御依託ニ付テハ御手術中ハ勿論以後何様ノ變症相出候共聊カ迷惑無之依テ保證人連署證狀如件

年號月日

手術願人 姓 名

縣國郡區町村番地住居借家(寄留)

(寄留)ノモノハ其本籍ヲ記載スヘシ

保 證 人 姓 名

姓 名

函館病院宛

第四條 藥價賄料雜費ハ毎月十五日三十日ノ兩度ニ事務局ヘ納ムヘシ

但退院スルトキハ退院ノ節還納スヘシ

第五條 入院中禁忌攝生運動靜息等ハ總テ醫員ノ指揮ニ從フヘシ

第六條 入院中ハ左ノ所爲ヲ許サス

第一項 病室内ニテ放歌又ハ高聲談話ノコト

第二項 看病人ノ通知ヲ待スシテ入浴スルコト

第三項 入院中相互金錢衣服ヲ貸借スルコト

第四項 諸商人ヲ室内ニ呼入物品賣買ヲナスコト

第五項 看病人小使等ヘ贈遺ヲナスコト

第六項 病室ニ金錢及貴重ノ物品ヲ所持スルコト

第七條 正副院長退出ノ後變症アルトキハ直ニ當直醫ニ通知スヘシ

第八條 外出セントスルトキハ其事由ヲ當直醫ニ告ケ許可ヲ受クヘシト雖トモ歸院ハ午後十時ヲ限リトス

但不得止宿スルトキハ保證人ヨリ其由ヲ届出スヘシ

第九條 退院セントスル者ハ當直醫ニ申出其證書ヲ受クヘシ

第十條 看病者ヲ傭入ルルカ又ハ家族親戚ニテ看病ヲ請フ者ハ其意ニ任スト雖トモ二人以上在室スルヲ許サス

但二人以上ヲ要スルモノハ其事由ヲ告ケ許可ヲ受クヘシ

外來患者心得

第一條 新ニ診察ヲ乞フ者ハ先ツ事務局ニ至リ族籍姓名ヲ述ヘ番號札ヲ受ケ醫局ニ至リ診察ヲ受ク可シ

但第二回目ヨリハ番號札ヲ携ヘ直ニ醫局ニ至ルヘシ

第二條 前條診察終レハ處方箋ヲ事務局ニ携帶シ藥價ヲ收メ然ル後藥局ニ至リ調劑ヲ乞フヘシ

第三條 患者重症ニシテ歩行シカタクモノハ其事由ヲ事務局ニ述ヘ回診ヲ乞フヘシ

第四條 聾啞癲狂老幼ノ患者ニハ父兄又ハ親類ノモノ附添ヒ來院スヘシ

函館縣立函館病院規則
則中ヲ改正ス

函館縣達 十七年十月六日
乙第五十五號 郡區役所 局長 役 爲

縣立函館病院規則第十條改正ノ儀別紙ノ通函館病院ヘ相達候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

函館縣達 十七年十月六日
番外函館病院

其院規則第十條別紙ノ通改正候條此旨相達候事

函館病院規則

第十條 局員職制左ノ如シ

院長 一名

一 院長ハ縣令ノ命ヲ奉シ院務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

二 院長ハ監事以下各職員ノ進退黜陟ヲ具狀スルコトヲ得

三 院長ハ院務ノ繁閑ヲ計リ管内ヲ巡回シ地方ノ患者ヲ診察シ及醫術ノ改良ヲ計ル

監事 一名

一 監事ハ院長ノ職掌ヲ補佐シ院長事故アレハ代理スルヲ得

二等醫 定員ナシ

一 一等醫 二等醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ内外患者ノ治療ニ從事ス

二 院長監事故アレハ首座ノ醫員其代理タルヲ得

三等醫 定員ナシ

- 一 二等醫ハ院長ノ指揮ヲ受ケ一等醫二等醫ヲ補助シ局務ニ從事ス
司藥長 一名
- 一 司藥長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ調劑製藥ヲ主掌シ及藥品器械ノ眞實精粗ヲ監別ス
司藥 定員ナシ
- 一 司藥ハ院長或ハ司藥長ノ指揮ヲ受ケ調劑又ハ製藥ニ從事ス
書記 定員ナシ
- 一 書記ハ院長ノ指揮ヲ受ケ常務會計ヲ掌ル

開拓使事業報告抄録

根室支廳根室國後郡根室ニ病院ヲ設置ス

十五年六月根室縣達丙第

十號ヲ以テ病院臨時非營務章程ヲ定ム

開拓使事業報告抄録

根室支廳釧路國厚岸郡厚岸外七箇所ニ病院ヲ設置ス

七年八月日國後別出張病院ヲ網走出張病院ニ合併ス

十年三月日國後後出張所ヲ廢ス

開拓使事業報告抄録

十二年一月日國釧路出張所ヲ公立ニ改ム

十三年十一月日國厚岸出張所ヲ公立ニ改ム

十五年一月日國抄那出張所ヲ公立ニ改ム

七年三月日國各郡病院ヲ出張病院ト改稱ス

明治五年九月在來ノ官舎ヲ以テ假病院トナシ厚岸濱中、釧路網走紋別國後振別抄那病院ト稱ス

明治五年九月釧路國厚岸郡厚岸、同郡濱中、釧路郡釧路、北見國網走郡網走、紋別郡紋別、千島國國後、振別郡振別抄那郡抄那八箇所ニ官立病院ヲ設置ス

(備考)

開拓使事業報告抄録

開拓使事業報告抄録
別海病院 根室國野付郡別海村ニアリ
明治六年十月官舎ヲ以テ病院トス

(備考)

開拓使事業報告抄録
明治二年九月民家ヲ借シ患者ヲ治療ス支廳創設ノ際東京ニ於テ醫師二名ヲ任用シ十月一名ヲ別海ニ遣リ一名ヲ根室ニ留メ患者ヲ治療ス

開拓使事業報告抄録

明治七年二月各郡病院ヲ某出張病院ト改稱ス

開拓使事業報告抄録

七年八月紋別出張病院ヲ網走出張病院ニ併ス

開拓使根室支廳布達

八年四月二十日
病院ニ於テ拂下藥劑價左ノ通更正來五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

藥名	水	藥丸	藥散	藥外	藥煎	藥藥	眼藥	藥膏	藥藥
從前一日分	五	錢	各三錢五釐	各三錢五釐	三錢三釐	一錢七釐	同	同	同
更正一日分	三	錢	同	同	一	錢	同	同	同

開拓使根室支廳達 八年五月日 無號 月長

根室支廳根室國野付郡別海村ニ病院ヲ設置ス

七年三月日國出張病院ト改稱ス

根室支廳各郡病院ヲ出張病院ト改稱ス

九年六月根室支廳達第八十一號ヲ以テ病院出張所ト改稱ス

根室支廳紋別出張病院ヲ網走出張病院ニ併ス

根室支廳根室國後郡根室ニ病院ヲ設置ス

八年五月日國根室支廳達無號ヲ以テ更正ス

根室支廳根室國後郡根室ニ病院ヲ設置ス

八年五月日國根室支廳達無號ヲ以テ更正ス

根室支廳根室國後郡根室ニ病院ヲ設置ス

八年五月日國根室支廳達無號ヲ以テ更正ス

根室支廳根室國後郡根室ニ病院ヲ設置ス

八年五月日國根室支廳達無號ヲ以テ更正ス

十一年一月根室支廳達ヲ以テ更正ス

藥劑價別紙ノ通五月一日更正施行候條市在へ可相達候也

更正藥劑價從前ノ代價

- 一 水藥一日分 金三錢 金五錢
- 一 丸藥同 同斷 金三錢三釐
- 一 散藥同 同斷 同斷
- 一 外用藥同 同斷 金六錢三釐
- 一 煎藥同 金一錢 金三錢三釐
- 一 眼藥同 同斷 金一錢七釐
- 一 膏藥同 同斷 同斷
- 以上

根室支廳山根病院ヲ病院出張所ト改稱ス

開拓使根室支廳達 九年六月九日 第八十一號

本年五月八日付ヲ以テ各出張所其他改稱等ノ儀相達候處各所病院ノ分詮議ノ次第有之別表ノ通更正候條此旨相達候事

院 病 應 支 室 根	轉 包 岸 厚				名 稱	事 務 ノ 體 裁
	網 野 濱 釧	走 付 中 路	病 病 病 病	院 院 院 院		
網走病院出張所	野付病院出張所	濱中病院出張所	釧路病院出張所	厚岸病院出張所	事務ハ主治掛者ハ事務兼勤ノ事務ハ分署ニテ取扱該院ニ付テノ公文ハ何届上申等ニ係ルキテ手續根病院出張所ノ名ヲ署シ支廳病院ヲ宛凡ク記録課ヲ經差出スヘシ	

改 定

根室支廳國後出張所ヲ廢ス

根室支廳管内病院藥價ヲ更正ス

十五年六月根室廳達丙第十號ヲ以テ更正ス

開拓使事業報告抄録

明治十年三月費用節略ノ爲メ國後出張所ヲ閉院シ時時根室病院醫員ヲ派ス

開拓使根室支廳達 十一年一月二十五日 第七號 第二十五大區各區區總代

當廳管内各病院ニ於テ各人民診察ヲ請ヒ候者ニハ夫夫診斷ノ上藥劑價取立來候處本年二月一日ヨリ別紙甲號ノ通更正藥價取立候條若シ貧窮ニシテ其價上納不能者ヘハ戶長總代等ニテ實情篤ト取調別記乙號ノ通半額施藥二種ニ區別ヲナセシ券證ヲ可下渡答ニ付戶長總代ニ兼テ右二種ノ證券下付致シ置候條夫夫可願出爲心得此旨相達候事

(別紙)

直 轄	國 後 病 院 出 張 所
振 別 病 院 出 張 所	
別 病 院 出 張 所	
紗 那 病 院 出 張 所	

御拂下藥價

甲 號	從 前 藥 價	更 正 藥 價
一 水 藥 一 日 分	金 三 錢	同
一 丸 藥 同	同	同
一 散 藥 同	同	同
一 外 用 同	同	同
一 煎 藥 同	同	同
一 眼 藥 同	同	同
一 膏 藥 同	同	同

一煎藥	同	同一錢	合嗽藥	同	同
一眼藥	同	同	點眼水	同	同
一付藥	同	同	同	同一員	大金一三錢
右ノ通					

乙號

表面

用紙西ノ内

施藥券證

願人何郡何町村
何 誰

根室
病院印

裏面

何年何月何日

同

半額券證

願人何郡何町村
何 誰

根室
病院印

裏

何年何月何日

開拓使事業報告抄錄

明治十二年一月釧路出張所火災ニ罹ル後公立病院ニ改ム

開拓使事業報告抄錄

根室支廳厚田出張所ヲ
公立ニ改ム

根室支廳釧路出張所ヲ
公立ニ改ム

明治十三年十一月人民ノ請願ニ由リ厚岸出張所ヲ公立ニ更ム

根室支廳病院部下ノ患者部外病院醫員ノ來診手續ヲ定ム

開拓使根室支廳達 十四年三月二十六日
管内各病院部下患病者ニ於テ更ニ部外病院醫員ノ來診ヲ請フ者ハ自今別紙手續書ニ照準可爲願出此旨
相達候事

(別紙)

- 第一條 管内各病院部下ニ於テ患者ノ冀望ニ依リ部外病院醫員ノ來診ヲ請ハントスルモノハ左ノ手續ニ隨フヘシ
- 第二條 部外病院醫員ノ來診ヲ乞フ者ハ所在病院ノ診斷書ヲ添へ願書ヲ郡役所又ハ戸長役場へ差出シ郡役所戸長役場ニ於テハ實際ヲ承認シ直ニ之レヲ該病院ニ送致スヘシ
- 第三條 部外病院ニ於テハ院務ノ繁閑ニ依リ請願ニ應スヘシト雖モ診斷書ヲ閱シ所在病院ノ治療適症ト認ムルトキハ出張セス其旨該病院ヨリ郡役所又ハ戸長役場へ通知スヘシ
- 第四條 出張醫員往復旅費其他滞在日當ハ願主ニ於テ支辨スヘシ
- 第五條 旅費及ヒ滞在日當ハ官給日當ノ金額ヲ支辨スヘシ
但シ里數ハ十里ヲ以テ一日ノ行程トナス
- 第六條 前條金額ハ所在郡役所或ハ戸長役場へ出シ該所ニ於テハ精算ノ上醫員へ渡シ證書ニ通テ取り一通ハ願主へ渡シ一通ハ該所ノ控トナスヘシ
- 第七條 部外病院ニ於テハ出張ノ都度患者ノ願書及該地病院ノ診斷書郡役所又ハ戸長役場ノ照會書ヲ束テ支廳へ届出ヘシ

開拓使事業報告抄録

明治十五年一月人民ノ請願ニ由リ紗那出張所ヲ公立病院ニ改ム

根室支廳紗那出張所ヲ公立ニ改ム

二十年五月北海道廳第五十六號ヲ以テ公立ニ改ム

根室縣公立病院職制及ヒ醫務章程

根室縣達 十五年六月二十三日 根室縣院出張病院公立病院

今般根室縣立病院職制及ヒ醫務章程別冊之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行候條此旨相達候事
但各出張病院并ニ公立病院ニ於テモ可成別冊職制等ニ據リ醫務調理可致儀ト可相心得事

(別冊)

根室縣病院職制及ヒ醫務章程

總則

- 一 病院ハ人民ノ疾病ヲ治療シ貧困患者ヲ救治シ產婆志望ノ者ヲ教授シ每週娼妓ノ微毒検査ヲ執行シ傳染病アルトキハ之レカ豫防法及治療ヲ施ス等人民ノ健康ヲ保護スルニアリ
- 一 根室病院ヲ根室縣ノ本病院ト定メ其他ノ縣立病院ヲ根室本病院何所出張所トナシ公立病院ヲ併セ本病院ニ於テ之レヲ所轄セシム
- 一 本病院ニ左ノ擔任ノ科ヲ定メ院務一切ノ事ヲ分掌セシム

- 院長 當直醫
- 副當直醫 看護長
- 司藥官 調藥係
- 理事係

職制

- 院長一人
- 第一 事ヲ長官ニ承ケ病院一切ノ醫務ヲ調理ス
- 第二 常ニ當直醫以下ノ勤惰及治術ノ功拙ヲ監視シ意見アルトキハ之レヲ長官ニ具申スヘシ
- 第三 院員ノ分掌及派出等ハ長官之ヲ命スヘシト雖モ十里以内ノ派出ハ時宜ニ因リ處分シテ後具狀スルコトヲ得

十九年四月北海道廳達第四號ヲ以テ職制ヲ改正ス

- 第四 豫メ看護婦ノ人員ヲ定メ之ヲ長官ニ具狀シ其進退黜陟ヲ專行ス
當直醫
- 第一 院長ヲ佐ケ患者ニ關スル一切ノ醫務ヲ擔任ス
- 第二 院長不在ノトキハ事務ヲ衛生課ニ商議シ院務ヲ調理スヘシ
副當直醫
- 第一 職當直醫ニ亞ク
- 第二 看護長關員ノトキハ之レヲ兼務スルコトアルヘシ
看護長
- 第一 病室一切ノ事ヲ管シ看護婦ノ勤怠ヲ監督シ其黜陟スヘキハ之レヲ院長及理事ニ商議スヘシ
- 第二 屢病室ヲ巡視シ患者不攝生ナキ様精密注意スヘシ
司藥監
- 第一 調藥上ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス
- 第二 藥品ノ眞價精粗ノ検査製煉及其貯藏等ヲ擔任シ調藥分量ノ差否ヲ監督シ苟モ調劑ニ過誤ナカラシムヘシ
調藥係
- 第一 處方箋ニ因リ調劑スルコトヲ擔任ス
理事係
- 第一 事ヲ院長ニ議シ院内金錢ノ出納及其他一切ノ雜務ヲ擔任シ役夫ノ勤怠ヲ監視スヘシ
事務章程
- 院長
- 第一 毎日入院患者及外來患者ヲ診察治療スヘシ
- 第二 來診ヲ乞フモノアラハ可成之レヲ往診スヘシ

- 第三 檢視上ニ係ル診斷ハ必ス自ラ之ヲ行フト雖モ其事ノ輕キモノハ當直醫ヲシテ診斷セシムルコトヲ得ヘシ
- 第四 部内外傳染病發起ノ兆候アルトキハ速ニ其景狀ヲ具申シ豫防法ノ意見書ヲ差出スヘシ
- 第五 微毒検査所ニ親炙シ検査法ノ適否ヲ監視スヘシ
- 第六 部外各病院ニ於テ重症ノ患者若クハ檢視上ニ係リ診斷ヲ要スルトキハ之ヲ長官ニ稟議スヘシ
- 第七 各病院在勤醫關員等ニテ醫務支障ノ場合於テハ之ヲ衛生課ニ商リ一時醫員ノ出張ヲ長官ニ稟議シ醫務ヲシテ濫帶勿ラシムヘシ
- 第八 當直醫ヨリ檢微員二名ヲ撰定シ其一名ヲシテ毎土曜日該所ニ派出檢微セシメ其一名ニ入院娼妓ノ治療ヲ管掌セシムヘシ
- 第九 當直醫ヨリ一名ヲ撰ヒ司藥監ノ事務ヲ兼掌セシムヘシ
當直醫
- 第一 院長ノ議ヲ承ケ入院及外來患者ノ代診ヲ爲スヘシ
- 第二 重症及變病ノ患者アルトキハ臨機救治ノ法ヲ施シ之ヲ院長ニ報告スヘシ
- 第三 檢視上ニ係ル診斷院長不在又ハ事故アリ往診シ難キトキハ事ノ輕重ニ依リ之ヲ代診スヘシ
- 第四 非常急遽ニ應スル爲メ一名宛輪番宿直スヘシ
- 第五 患者ニ與フル診斷書及ヒ死亡届死體檢按書等一應院長ニ出シ意見ヲ請フヘシ
- 第六 患者年月表ヲ製シ院長ニ出スヘシ
- 第七 患者ノ食物ヲ検査シ若シ障害ト認ムルモノハ代品ヲ出サシムヘシ
副當直醫
- 第一 院内常備ノ書籍及ヒ器械ヲ主管シ手術アルトキハ之レカ準備ヲ爲シ破損物アルトキハ修理ノ手續ヲナスヘシ
- 第二 患者入院願其他死亡届等渾テ左ノ病室規則ニ依リ看護長ニ商議シ處分スヘシ

病室規則

第一 病室ヲ二部ニ分ツ

平病室(男室女室)ヲ區別ス
娼妓室

第二 入院料ヲ二等ニ分ツ

一等金五十錢 二等金三十五錢

但物價ノ昂低ニ依リ金額ヲ上下スヘシ

第三 平病人ノ入院ヲ乞フ者ハ左ノ書式ニ倣ヒ保證人ヨリ證書ヲ出サシム

但證人ハ根室住居ノ戸主ニ限ルヘシ

證書式(用紙美濃證券界紙)

證

何府縣何國何郡何町村

何番地族籍何ノ誰父母

兄弟姉妹

姓

名

年 齡

右者今般入院治療相願候上ハ本人身分引受御規則相守可申ハ勿論藥餌料等上納ハ毎月三回^{十五}日及^{廿五}日
退院之節ハ當人ヨリ相納萬一滞リ候節ハ證人ヨリ速ニ辨償可仕候爲後證如件

根室縣根室郡何町村

何番地族籍職業

證人

姓

各印

但寄留ナラハ其生國明瞭ニ
記載スヘシ以下同シ

年月日

根室病院

御 中

追テ私轉居旅行等ノ節ハ速ニ御届申上身元引受ノ儀ニ付テハ少シモ差支無之様取計可申候也
前書之通相違無之候也

年月日

何郡何町村戸長

姓

名 印

第四 無代價入院ヲ乞フ者ハ施藥券取扱手續ニ照ラシ郡役所或ハ戸長役場ニ於テ下付スル所ノ施藥券

ヲ添ヘ左ノ書式ニ從ヒ保證人ヨリ證書出サシムヘシ

證書式(用紙美濃證券界紙)

證

何府縣何國何郡何町村

何番地族籍何ノ誰父母

兄弟姉妹

姓

名

年 齡

右者今般無代價入院治療御許可相成難有奉存候然ル上ハ御規則堅ク相守可申ハ勿論御都合ニヨリ
退院御申付相成候節ハ私引受聊御迷惑相掛申間敷候爲後證如件

根室縣何郡何町村

何番地族籍職業

證人 姓

名 印

伍長或ハ組頭姓名印

年月日

根室病院

御 中

追テ私轉居旅行等ノ節ハ速カニ御届申上身元引受ノ儀ニ付テハ少シモ差支無之様取計可申候也

前書之通相違無之候也

年月日

何郡何町村戸長

姓

名印

第五 入院患者ニシテ死後病部解剖ヲ生前ニ請フモノハ左ノ證書ヲ出サシムヘシ

何府縣何國何郡何町村
何番地族籍何ノ誰父母
兄弟姉妹

姓

名實印

年 齡

右之者入院罷在候處萬一不幸ニシテ病死候節ハ病部解剖御検査相願度本人志願ニ付兼テ此段相願置候也

年月日

根室縣何郡何町村何番地
族籍何ノ誰父母兄弟姉妹

姓

名印

根室病院

御 中

第六 検査ノ上有毒娼妓ヲ入院セシムルトキハ左ノ書式ニ從ヒ願書ヲ差出サシムヘシ
入院願

根室縣根室郡何町村何
番地何某方出稼娼妓

姓

名印

年 齡

右者今般御検査ノ上入院治療相願候上ハ本人身分引受ケ御規則相守可申ハ勿論食料上納ハ毎月三度十五日前無滞相納可申爲後證如件

年月日

根室病院

御 中

第七 入院及外來患者死亡證或ハ診斷書ヲ乞フトキハ左ノ證書ヲ附與スヘシ
死亡届

右貸坐敷主

姓

名印

三業取締

姓

名印

何府縣何國何郡何町村
何番地族籍何ノ誰父母
兄弟姉妹
職業

姓

名

年 齡

(寄留ナラハ其居所記載スヘシ以下同シ)

病名
經過
死因

右者當院施治ノ患者ニ候處前書ノ通相違無之候也

年月日

診斷書

根室病院醫院

姓

名印

何府縣何國何郡何町村
何番地族籍何ノ誰父母
兄弟姉妹
職業

姓

名

年 齡

右者何病ニテ何月日ヨリ入院 治療候處未タ全癒ニ不至候間轉地温療養可然診斷候也

年月日

根室病院醫員

姓名印

第八 死體檢按ヲ乞フ者アルトキハ仔細ニ死體ヲ檢査シ左ノ書式ニ從ヒ檢按書ヲ與フヘシ

書式

何府縣何郡何町村何番地
族籍職業

姓名

年 齡

病名及死亡ニ至ル所以ヲ知り得ヘキ丈ヲ記スヘシ
年月日死亡

右之者死體檢按致候處頭書之通り相違無之候也

年月日

根室病院醫員

姓名印

地方長官宛

第九 變死人或ハ毆鬪負傷セシ者及疾病有無等ノコトニ付警察署ヨリ檢診ヲ乞ヒ診斷書ヲ要スルトキハ篤ト檢査シテ左ノ書式ニ從ヒ差出スヘシ

檢視診斷書式

根室縣何郡何町村何番地
族籍

姓名

年 齡

右者本日何日前後第何時何町村何番地ニ於テ警部某檢視ニ立會ノコトヲ記ス其死體發現ノ異狀及致命ノ因ハ何ニシテ他人ノ所業ニ出テタル者ヤ或ハ自殺ナルヤヲ詳記スヘシ

年月日

根室病院醫員

姓名印

負傷者(但死ニ至ラサル者)診斷書

右者本月何日前後第何時何町村何番地ニ於テ警部某立會ノコトヲ記シ其被傷ノ部位景狀即チ切創カ挫傷カ打傷ニシテ又他傷カ自傷ナルカ輕重并ニ豫後等ヲ詳記スヘシ

第十 外國人若シ入院ヲ乞フトキハ其族籍ヲ記シタル證書ト別ニ外國人若クハ內國人ノ中ニテ根室居

住儘カナルモノ但シ本人身分引受證書ヲ出サシメ且ツ左ノ規則ヲ指示シテ入院ヲ許スヘシ

一入院中ハ渾テ醫院并ニ理事ノ指圖ニ從フヘシ

二入院ヲ乞フ者ハ必ス通辨人ヲ伴フヘシ

三藥餌ハ一切本院ヨリ支辨ス其他ノ食物モ醫員ノ許可ナクシテ用ユルヲ許サス

四入院料ヲ三等ニ分ツ

一等一日 金四圓

二等一日 金二圓五十錢

三等一日 金一圓五十錢

但三等ハ日本上等ノ食餌タルヘシ

但物價ノ昂低ニヨリ金額ヲ上下スヘシ以下第六モ倣之

五入院料ハ毎月三度^{十五日}ニ納ムヘシ

六通辯人及附添人賄料ハ金二十三錢ヲ納ムヘシ

七外出散步ハ午後四時ヲ限リトス

但不得止事故アリ外泊スルトキハ豫メ其理由ヲ醫員ニ申出許可ヲ得ヘシ

身元引受人證書式(用紙美濃證券界紙)

何國^{身分或ハ官省府縣ノ雇カ日本何地何番商社中カ何官何職從者カノ類詳記スヘシ}

右入院御許可相成候上ハ院中ノ諸規則爲相守入院料相拂候ハ勿論本人身上ニ關係スル事件ハ一切引請可申候也

年月日

日本何地在留外國人若クハ内國人何何

證人 姓 名 印

根室病院

御 中

追テ私轉居旅行等ノ節ハ速ニ御届申上身元引受ノ義ニ付テハ少シモ差支無之様取計可申候也

看護長

- 第一 院長其他醫員ノ回診スルトキハ隨從シテ病症經過及處方等ヲ詳細登錄スヘシ
 - 第二 入院患者アルトキハ其住所族籍姓名年齢等ヲ詳細帳簿ニ記載スヘシ
 - 第三 入院患者變症ヲ發スル等都テ異狀アルトキハ速ニ宿直醫員ニ申告スヘシ
 - 第四 朝夕患者ノ體温及脈搏ヲ度リ法ノ如ク表式書ニ記載スヘシ
 - 第五 患者危險ニ陥リ或ハ死亡セシトキハ速ニ之ヲ副當直醫ニ移スヘシ
- 司 藥 監
- 第一 藥品ニ闕乏アルトキハ院長及理事ニ協議シ購求ノ手續ヲナスヘシ
 - 第二 毎月末一回藥品ノ出納ヲ調査之ヲ正算帳簿ニ登記シ藥品ヲ患者ノ員數ニ比較シ若シ消費過多ト認ムルトキハ其異見ヲ附箋スヘシ
 - 第三 診察醫員ヨリ送附スル處方箋ヲ受ケ調査ノ上檢印ヲ捺シ調藥係ヘ附與スヘシ
 - 第四 處方箋中ノ藥量若シ過分ト認ムルトキハ直ニ之レヲ診察醫員ニ詰問シ事實明了ナルニアラサレハ調査ノ手續ヲナスヘカラス

- 第五 毎朝肉糞汁ヲ製スル牛肉ト牛乳ノ良否ヲ検査スヘシ
 - 第六 毒藥及劇藥ヲ筐中ニ收メ粗忽ニ放置スヘカラス
- 調 藥 係

- 第一 調劑ヲナシテラハ其處方箋ヲ再檢シ藥品并ニ秤量ニ誤錯ナキトキハ其處方箋月日ノ下ニ檢印ヲ捺シ然ル後司藥監ノ検査ヲ受ケ之レヲ患者或ハ其代人ニ附與スヘシ
- 第二 處方箋疑團アラハ司藥監ニ質問シ些少ノ事タリトモ臆斷ヲ以テ調劑スヘカラス
- 第三 患者ニ與フル藥瓶ノ標紙ニハ内服用其他用法ヲ詳記シ務メテ誤用ヲ防キ殊ニ峻劇ノ藥品ヲ與フルトキハ其服法等ヲ懇示スヘシ
- 第四 處方箋ニ司藥監ノ印ヲキトキハ調査スヘカラス殊ニ外來患者處方箋ニハ其檢印ト理事係代價濟ノ印アルニアラサレハ調査スルヲ得ス
- 第五 卸テ製劑ハ藥名分量時日及製藥者ノ姓名ヲ製藥原簿及藥器ニ詳記スヘシ
- 第六 製藥及調劑諸器ヲ務メテ清潔ニスヘシ
- 第七 藥瓶藥筐ニハ明白ニ記標ヲ貼シ其所在ヲ定メ分類シテ并列スヘシ
- 第八 一名宛輪番宿直スヘシ
- 第九 日日出納スル藥品ハ出納表ヲ製シ之レヲ詳記シ置クヘシ

理 事 係

- 第一 院中需用ノ物品ヲ調査勉メテ經費節減ニ注意シ金銀出納等ノ帳簿ヲ明瞭ニスヘシ
 - 第二 藥品器械其他諸物品購求ノ節ハ其手續ヲナスヘシ
 - 第三 收入ノ金額ヲ毎日調査シテ之レヲ日計簿ニ登錄シ日日院長ノ檢閱ヲ受ケ毎月二十五日限り現金取纏メ收入表ト共ニ縣廳ヘ差出スヘシ
 - 第四 病院收入金額并ニ收入表ヲ三箇月毎ニ取纏メ三月六月九月十二月院長ノ檢閱ヲ受ケ縣廳ヘ差出スヘシ
- 但公立病院ハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ差出スモノトス

- 第五 一時ノ差繰ト雖モ收入藥價ヲ以テ他ノ費用ニ仕拂フヘカラス
- 第六 藥餌料ハ毎月三度^{十五日}入院患者賄料ハ月末ニ可徵收ト雖モ退院スル者ハ其都度徵收スヘシ其他賄方ヨリ差出シタル明細書ハ院長ノ檢印ヲ受ケテ金員仕拂フヘシ
但前月分入院患者表并ニ賄方受取明細書ヲ毎月三日迄ニ縣廳へ上申スヘシ
- 第七 毎月定日本院及管内各病院ノ職員月俸旅費及宿直料等ノ明細書ヲ製シ院長ノ檢閱ヲ受ケ縣廳衛生課ニ出シ既ニ受領ノ金額ハ本院ヨリ配當スヘシ
但各郡役所へ委託ノ分ハ此限ニアラス
- 第八 毎月諸仕拂明細書ヲ製シ之ヲ縣廳ニ上申スヘシ
- 第九 毎月二十五日限り同月購求諸物品等賣上證書正副二綴ヲ取纏メ精細之ヲ調査シ院長ノ檢閱ヲ受ケ其一綴リ縣廳へ出シ該金額受領ノ上金員受取證書ヲ徵シ本院ニ於テ之ヲ仕拂フヘシ
- 第十 每半期精算表ヲ調製スヘシ
- 第十一 施藥券ヲ持來ル患者ノ處方箋ヲ調査シ其姓名ヲ簿册ニ登記シ患者ノ員數及藥價表ヲ製シ毎月縣廳へ差出スヘシ
- 第十二 院内破損所アルトキハ院長ニ議シ必ス縣廳ノ裁可ヲ經テ修繕スヘシト雖モ其五圓以内ニシテ一時難差置モノハ修繕着手ノ上其事由ヲ具狀スヘシ
- 第十三 各所ヨリノ移文ヲ受理シ又ハ發遣スル公書等渾テ院長ノ檢閱ヲ經テ施行スヘシ
- 第十四 醫員其他ヨリ差出シタル諸願伺届等ハ院長ノ檢印ヲ受ケ縣廳衛生課へ差出スヘシ
- 第十五 時時院内及病室ヲ巡視シ看護人及ヒ役夫ヲ指揮シ務メテ灑掃清潔ナラシムヘシ
- 第十六 浴室及ヒ火爐ニ注意シ務メテ非常ヲ警戒スヘシ
- 第十七 入院患者藥餌料定日上納遲滯スルトキハ證人ヲ呼出シ督促スヘシ
- 第十八 患者ノ親戚友人等看護ノ爲メ院内ニ宿泊ヲ願出ツルトキハ醫員へ協議シテ之ヲ許否スヘシ
- 第十九 入院患者危險ニ陥リ或ハ死亡ノ旨醫員若クハ看護人ヨリ通知スルトキハ速ニ之ヲ證人親戚等

へ報知スヘシ

- 第二十 一名宛輪番宿直スヘシ
- 第二十一 外來患者處方箋ヲ持チ來ラハ其藥價ヲ記シ其金圓ヲ收受ノ後領收證書ヲ附與シ且ツ諸事溫柔ニ取扱フヘシ
但其藥價左ノ如シ
- 水藥一日分 金六錢
- 丸藥同 金六錢
- 散藥同 金六錢
- 頓服水藥一日分 金三錢
- 同丸藥同 金三錢
- 同散藥同 金三錢
- 含嗽藥同 金五錢
- 點眼水一瓶 金五錢
- 外用藥同 金五錢
- 坐藥 一個 金一錢五釐
- 膏藥^{中大} 金二錢
- 絆創膏^小 方一寸 金一錢
- 灌腸藥 一劑 金七錢
- カスチル石礮一個 金三錢
- 泡劑 一個 金二錢
- 巴布 一劑 金五錢
- 布貼膏藥方二寸以上 金三錢

同 方二寸以下 金一錢五釐

リント 五寸方 金三錢

此他繙帶散糸等拂下代價ハ購求價直ニ二割ヲ加フ

第二十二 毎日午後外來患者散スルノ後藥價記簿ト現入金ト突合セ違算ナキトキハ其帳簿へ檢印シテ金額ハ三井銀行へ預ケ置キ苟モ不取締アルヘカラス

根室縣布達 十五年九月十六日

縣立病院醫員管内出張旅費ハ揮テ官費支給致來候處自今施藥患者及ヒ種痘等ニ關シ成規アルモノヲ除キ公立病院同様民費支辨可致此旨布達候事

北海道廳根室支廳達 十九年二月二十八日 根室郡 在勤員

追テ何分ノ儀相達候迄從前ノ通病院事務可取扱此旨相達候事

北海道廳令 二十年五月二十五日

千嶋國紗那郡紗那病院ヲ廳立トシ根室病院所屬留別出張病院及ヒ内保派出所藥取派出所ヲ紗那病院ノ所屬トス

北海道廳訓令 二十年五月二十五日

其院職制ハ明治十九年四月當廳丙第四號達札幌函館根室病院ノ職制ニ依ル但當分職制第一條職員ノ幾分ヲ闕クコトアルヘシ

開拓使札幌本廳達 十四年九月二十八日 戸長役場

根室縣立病院醫員出張旅費支給方更正ス

根室支廳病院事務從前ノ取扱ハシム

北海道廳紗那病院ヲ廳立トシ留別出張所及内保派出所藥取派出所ヲ屬ス

二十年五月二十五日北海道廳訓令外ヲ以テ紗那病院職制ヲ定ム

北海道廳紗那病院職制

札幌本廳公立病院醫員以下月俸規則

十七年四月札幌廳達乙第百十一號ヲ以テ廢止ス

公立病院醫員以下月俸并旅費規則別冊ノ通相定候條此旨相達候事

公立病院醫員以下月俸規則

第一條 公立病院醫院等級及ヒ月俸ヲ定ムル左ノ如シ

一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
自四十六圓	自四十一圓	自三十六圓	自三十一圓	自二十六圓	自二十一圓	自十六圓	自十一圓	自九圓	自七圓
至五十四圓	至四十九圓	至四十四圓	至三十九圓	至三十四圓	至二十九圓	至二十四圓	至十九圓	至十四圓	至八圓

第二條 病院役員月俸ハ第一條中五等以下ヲ以テ給スヘシ

第三條 月俸ハ每月月末支給スルヲ定則トス

但雇止病死其他事故アルトキハ此限ニアラス

第四條 雇入雇止増俸等ノトキハ辭令請書ノ日附ヲ推シ端日數ハ日割ヲ以テ給スヘシ

第五條 歸省其他關勤日數ハ月給五分ノ一割合ヲ以テ給スヘシ尤モ犯罪實決罰刑ニ處セラルル者ハ一切支給セズ

但糾問ニ涉ルモノ無罪ニ歸スルトキハ本條五分ノ一割合ヲ以テ給スヘシ

第六條 病氣引籠三十日迄ハ月俸ノ全額ヲ給シ其後ハ三分一ノ割合ヲ以テ給スヘシ

第七條 滿一箇年已上雇續ノモノ雇止ノ節ハ其雇入年數ニ應シ滿一箇年ニ付月俸半額ヲ給スヘシ若シ破廉耻及懲役實決ノ刑ヲ受ケシモノ又同上ノ罪ヲ犯シ自首免罪ノ者糾問中雇止スルモノハ給セズ

公立病院醫員以下旅費規則

第一章

一旅中一切ノ費用トシテ一日十里詰ヲ以テ表面ノ日當ヲ給スヘシ(十里以上ノ端里數滿一里已上ハ日當一日分ヲ給シ一里未滿ハ切捨トス)

第一項 就職旅行ハ雇入ノ節該病院へ三里以上ヨリ(三里未滿ハ一切給セズ)之ヲ給ス

第二項 該院ヨリ片道六里未滿ノ旅行ハ凡テ近方派出トシテ片道三里以内ニシテ日歸リナレハ日當ヲ給セズ一泊スレハ滯留日當ヲ給ス但片道三里以上六里未滿ハ日歸一泊ノ別ナク往返ニテ並旅行

一日ヲ給シ滯留スレハ滯留日當ヲ給ス
 第二項 衛生事項ニ付巡回セシムルトキハ一般ノ旅費定則ニ因リ並旅行日當ヲ給ス
 第二章

一 地方出張ハ著翌日ヨリ滯留日當ヲ給スヘシ
 第一項 自己ノ便宜ニヨリ晝夜兼行スルカ或ハ便船等ニテ陸路日積ヨリ早著スルトモ本章ニ準シ滯留日當ヲ給ス

第二項 行旅中川留雪支或ハ病氣等ニテ延滞セシモノ川留雪支ハ其處戸長ノ證書病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ差出ストキハ増日數ノ分滯留日當ヲ給ス
 但十里詰ヲ以テ算出セシ日積中ニ到著スルモノハ此限ニアラス

第三章

一 雇止ノ者其日ヨリ三十日已内ニ歸郷申出ル者ハ表面ノ就職旅行日當ヲ歸郷旅費トシテ最初雇入ノ節居住セシ地迄ノ里程ヲ算シテ給スヘシ尤役員ニ限リ該院へ三里未滿ノ地ヨリ呼寄セシ向ハ給セス

第一項 雇止後歸郷セサル内ニ再ヒ雇入スル者ハ旅費悉皆返却スヘシ
 第二項 歸省養病ニテ他行中雇止又ハ死去ノ者モ本章ニ準シ歸郷旅費ノ手當トシテ給ス從事ノ地ニ於テ死去スルモ亦同シ

第三項 糺問中雇止ノ者及處決ノ上破廉耻又ハ私罪懲役實決ノ刑ヲ受ル者ハ又同上ノ罪ヲ犯シ自首免罪ノ者ヘハ歸郷旅費ヲ給セス

第四章

一 歸省其他養病等承諾ヲ得ルト雖モ一己ノ所用ニ涉ル旅行ハ一切給セサルヘシ
 但旅行中 就職及並旅行ノ如キ一 歸省等ノ承諾ヲ得迂路ヲ經ルト雖モ直路ノ路費ヲ増減スルコトナシ

第五章

小使ノ類ハ左ノ通給スヘシ

六十錢 並旅行日當
 三十錢 滯留日當

旅 費 日 當 表	
並 旅 行	就 職 旅 行
金 一 圓 四 十 錢	金 一 圓 九 十 錢
滯 留 日 當	滯 留 日 當
金 一 圓 四 十 錢	金 一 圓 四 十 五 錢
在	在

(参考)

開拓使事業報告抄録
 札幌本廳

古平病院 後志國古平郡濱町ニアリ明治十年一月官立病院廢止ニ由リ古平美國積丹三郡協議釀金ノ方法ヲ設ク從前ノ官立病院建家ヲ借リ設立ス是ヲ管内公立病院ノ嚆矢トス五月開院公立古平病院ト稱ス
 有珠病院 膽振國有珠郡紋甕村ニアリ明治十一年十一月創設有珠公立病院ト稱ス醫員月俸ハ當分官給シ其他總ヲ協議費藥價等ヲ以テ維持ス以下公立病院維持方概テ本院ニ同シ
 沙流病院 日高國沙流郡桐別村ニアリ明治十一年十一月創設沙流病院ト稱ス
 三石病院 日高國三石郡城布村ニアリ該郡寄留函館平民小林重吉寄附ニ係ル明治十一年創設三石病院ト稱ス
 勇拂病院 膽振國勇拂郡苦小牧村ニアリ明治十一年十二月創設勇拂病院ト稱ス
 古宇病院 後志國古宇郡神惠内村ニアリ明治十一年十二月創設古宇病院ト稱ス
 廣尾病院 十勝國廣尾郡茂寄村ニアリ明治十一年十二月創設廣尾病院ト稱ス
 増毛病院 天鹽國増毛郡増毛村ニアリ明治十二年一月設立増毛病院ト稱ス
 函館支廳 函館支廳
 公立 豐川病院 函館豐川町ニアリ初メ函館商渡邊熊四郎今井市右衛門平塚時藏平田兵五郎外三名盡力公立病院ヲ設クント各自金ヲ融シ且有志者ニ募リ忽チ金五千三百五十一圓九十錢ヲ得區長常野正義亦金ヲ捐シ幹旋ス是ヲ管内公立病院ノ始トス明治十一年十月設立第一公立病院ト稱シ醫員ハ官立函館病院ヨリ兼務ス十四年十月豐川病院ト改ム藥價賄料及諸規則概テ官立病院ニ同シ以下各公立病院規則藥價等皆倣之
 山越内病院 膽振國山越郡山越内村ニアリ明治十一年十一月設立第二公立病院ト稱ス初メ藥價及協議

事

札幌縣公立病院醫師辭令交付方

十七年四月札幌縣達乙第百一十一號ニ依リ消滅ス
十六年七月札幌縣達乙第百四號ヲ以テ辭令書式ヲ定ム

札幌縣公立病院醫師辭令書式

十七年四月札幌縣達乙第百一十一號ニ依テ消滅ス

札幌縣達 乙第七十四號 郡區役所
公立病院醫師辭令書之儀ハ是迄郡區役所限リ交付致來候處自今本縣ヨリ同付スヘク候條進退給額増減ノ都度申出候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

札幌縣達 乙第六年七月三日 郡區役所

本年六月乙第七十四號達ニ據リ公立病院醫師へ下付スヘキ辭令書式別紙ノ通相定メ候條爲心得此旨相達候事

新拜辭令

増俸辭令

罷免辭令

苗字名
公立何病院醫師申付候事
何等月俸金何圓
年月日
札幌縣

公立何病院醫師
苗字名
何等月俸金何圓給與候事
年月日
札幌縣

公立何病院醫師
苗字名
滿期ニ付或ハ何何依リ公立何病院醫師差免候事
年月日
札幌縣

札幌縣公立病院醫員備入備止及諸給與法

二十年六月北海道廳訓令第四十九號ヲ以テ廢止ス

十七年十二月札幌縣達乙第百九十一號ヲ以テ第三條ヲ改正ス

札幌縣達 乙十七年四月二十一日 戶長役場

公立病院醫員備入備止及諸給與法別紙ノ通相定候條此旨相達候事

但明治十四年九月開拓使本廳達丁第七十二號達ハ廢止シ同十六年六月乙第七十四號達及ヒ七月乙第百四號達ハ消滅ノ儀ト心得ヘシ

公立病院醫員備入備止及諸給與法

第一章 備入備止ノ事

第一條 郡區町村ニ於テ其公立病院長并院醫調藥員等ヲ備入又ハ備止ヲ爲ストキハ本章ノ條款ニ準據スヘシ

第二條 備入ノ時ハ其郡區町村ノ協議ヲ採リ備者ニ於テ本人ノ性行及ヒ履歷ヲ審査シ其備期限又ハ職名月俸等ヲ査定シ之ヲ郡區長ニ差出スヘシ

第三條 郡區長ハ其備入ヲ相當ナリト見認ルトキハ備者及被備者ヲシテ定約セシメ之ヲ縣廳ニ上申スルモノトス縣廳ニ於テ相當ト認ルトキハ書式ノ辭令ヲ交付ス

第四條 備期限內其勤惰ニ由リテ月俸ヲ増減シ又ハ備止ヲ要スルトキハ郡區長ニ申出ヘシ郡區長ハ之ヲ審査シテ縣廳ニ具申スルモノトス縣廳ニ於テハ増俸并減俸ハ辭令ヲ以テシ備止ハ第五條ノ例ニ從フモノトス

第五條 備止ノ時ハ其理由ヲ詳細郡區長ニ申出ツヘシ郡區長ハ之ヲ審査シ縣廳ニ具申スルモノトス縣廳ニ於テハ解職ノ辭令ヲ交付スヘシ

第六條 郡區町村ニ於テ院長并院醫等其人ヲ得難キ時ハ被備者ノ職名及月俸又ハ定約ノ方法ヲ豫定シ郡區長ヲ經申出ヘシ縣廳ニ於テハ相當ノ者ヲ撰ヒ之カ備入ノ便宜ヲ與フヘシ

第二章 月俸ノ事

第七條 月俸ハ罷免病死等ノ場合ヲ除キ毎月末日ヲ以テ支給スルナ例トス其支給ハ病院ニ於テスルト

戸長役場ニ於テスルトハ該郡區町村ノ便宜ニ任スヘシ

第八條 月俸ハ備入備止等辭令交付ノ日ヲ推シテ之ヲ給スルモノトス

第九條 歸省其他私事ノ旅行等闕勤日數ハ月俸五分ノ一日割ヲ以テ之ヲ給シ忌引中ハ全額ヲ給スルモノトス

第十條 病氣引籠三十日迄ハ全額ヲ給シ爾後三十日迄ハ三分ノ一其餘三十日迄ハ五分ノ一其後ハ給セサルモノトス

第十一條 院長ノ月俸ハ三十圓以上院醫ハ同シク三十圓以下調藥生ハ同シク十五圓以下該町村ノ便宜定ムル所ニ任スヘシ

第三章 旅費ノ事

第十二條 旅費ハ旅行一切ノ費用トシテ表面ノ日當ヲ給スヘシ

第十三條 陸路ハ一日十里詰又海路渡海ニアラサハ其里數六町九分七釐五毛陸路ニ直シ之ヲ給スヘシ

但十里以上ノ端里數六里以上ハ一日分一里以上六里未滿ハ半日分ヲ給シ一里未滿ハ切捨トス

第十四條 片道三里以上六里未滿ノ旅費ハ日歸一泊ノ別ナク往返ニテ並旅行日當一日分ヲ給シ片道三里未滿ハ日歸ナレハ日當ヲ給セス一泊スレハ往返ニテ滞在日當一日分ヲ給スヘシ

第十五條 出張滞在中指懸病用アリテ猶派出スレハ滞在ノ地ヨリ起算シテ第十三條及第十四條ニ據リ旅費ヲ給シ又ハ給セサルヘシ

第十六條 滞在日當ハ他方出張著翌日ヨリ給スヘシ 但自己ノ便宜ヲ以テ日積ヨリ早著延著スルトモ本條ニ據リ又川支雪支等ニテ延滞スレハ其所戸長役場ノ證書ヲ指出ストキハ滞在日當ヲ給スヘシ

第十七條 行旅中病氣ニ罹リ病用ヲ果サス半途歸院スルカ或ハ療養ノ爲メ滞在スルモノハ其所戸長役場ノ證書ヲ差出スニ於テハ其里程ヲ算シ旅費ヲ給シ又ハ滞在日當ヲ給スヘシ

第十八條 新ニ備入ノ者ハ就職旅費ヲ給シ滿期備止ノ者ハ其備入ノ時居合セタル地迄ノ旅費ヲ給スヘシ

但功勞ニ依リ本籍迄ノ旅費ヲ給スルハ該町村ノ適宜ニ任ス

第十九條 備止ノ者其日ヨリ三十日以内ニ出發セサルモノハ前條ノ旅費ヲ給スル限リニ在ラス 但被備中死去スルモノハ手當トシテ約定面ノ旅費ヲ給スヘシ

第二十條 輕罪以上ノ主刑ヲ受ケ爲メニ備止ヲ爲スモノハ旅費ヲ給セサルモノトス

第二十一條 傳染病流行病豫防及種痘等ノ爲メ出張巡回セシムルトキハ一般ノ旅費定則ニ據リ表面ノ旅費日當ヲ縣廳ヨリ支給スヘシ

旅費日當表

職	並	滞
金 一・四 九十 錢	金 一 四	金 四 十五 錢
國	旅	在
職	行	

定約書式 (用紙證券界紙)

札幌縣何國郡區何町戸長總代ハ何公立病院ノ爲ニ何縣國郡身分何誰ヲ備入同院院長ト爲スニ據リ左ノ條件ヲ約ス

第 條 備者ハ被備者ニ約スルニ月俸何圓ヲ以テシ速カニ辭令書交付ノ手續ヲ爲ヘシ 但辭令書交付ノ日迄定約面ノ月俸額ヲ日割ヲ以テ給スルモノトス

第 條 備者ハ被備者ノ滿期解職ノ時ニ於テ當所備入ノ地何所迄ノ旅費金何圓錢ヲ給スヘシ

第 條 被備者ハ此定約ヲ承諾シ凡テノ規則ニ從フハ勿論辭令書受領ノ日ヨリ滿月年月年間ハ必ス就職スヘシ

第 條 被備者若シ定約ヲ踏マス又ハ規則ニ違ヒ自分ヨリ解職申立ツル歟或ハ職務ヲ怠ルカ其他不品行ノ所行アリテ備止メテ爲ス時ハ一切旅費ヲ給セサルモノトス

第 條 滿期ニ至リ尙備繼ヲ爲ス時ハ二箇月前協議ヲ遂クヘシ
 第 條 前條條定約ヲ爲スト雖モ郡區町村ノ都合ニ據リ備止ヲ爲ス時ハ此定約書ハ廢紙トス
 右ヲ證スル爲メ二通ヲ作り各一通ヲ所持ス

年 月 日

備 者 何 誰 印
 備 者 何 誰 印
 被備者 何 誰 印

新拜命辭令

苗 字 名	公立何病院 院長 調製員	申付候事	月俸金何圓	年 月 日	札 幌 縣
-------	--------------------	------	-------	-------	-------

増俸辭令

苗 字 名	公立何病院 院長 調製員	月俸金何圓給與候事	年 月 日	札 幌 縣
-------	--------------------	-----------	-------	-------

罷免辭令

苗 字 名	公立何病院 院長 調製員	條約滿期 或ハ何 何ニ付 何何差免候 事	年 月 日	札 幌 縣
-------	--------------------	----------------------------------	-------	-------

函館縣病院補助費配賦規則

函館縣布達 十七年十一月二十六日 二十七日

二十五年五月北海道廳令第五十七號ヲ以テ廢止ス

病院補助費配賦規則別紙ノ通相定メ本年十二月ヨリ施行候條此旨布達候事
 病院補助費配賦規則

- 第一條 病院補助費ハ専ラ病院ノ經濟ヲ補助スル爲メ配賦スルモノナレハ左ノ費用ノ外他ノ費用ニ流用スルヲ得ス
- 第二條 補助費配賦ノ期ハ毎年一月四月七月十月ノ四季トシ郡役所ヘ配賦ス
- 第三條 病院補助費ハ土地ノ情況ヲ察シ可成丈ケ維持ニ堪ヘス資力ニ乏シキ病院ヲ補助ス但人家稀疎ナル僻村ニハ特別補助ヲ與フコトアルヘシ
- 第四條 郡役所ニ於テ補助費ノ遣拂ハ毎年兩度七月之レヲ縣令ニ具申ス

函館縣公立病院規則及職員職制并月俸旅費給與規則ヲ定ム

函館縣布達 十七年十一月二十七日 月長役場 公立病院
 公立病院規則及職員職制并月俸旅費給與規則別紙ノ通相定本年十二月ヨリ施行候條此旨相達候事
 (別紙)

- 公立病院規則
- 第一條 本院ハ内外患者ヲ診察治療ス
- 第二條 院內ニハ醫局藥局事務局ヲ置キ諸務ヲ分掌ス
- 第三條 貸座敷所在ノ地ニテ驅棧院無之地方ノ病院ニ於テハ貸座敷及娼妓營業規則ニヨリ棧毒検査ヲ爲ス
- 第四條 昇降時限ハ午前九時參院午後二時退院トス
但日ノ長短ニヨリ伸縮スルヲ得
- 第五條 年中休暇左ノ如シ
一月一日ヨリ一月三日マテ 紀元節 神武天皇祭 天長節 札幌神社祭

春季皇靈祭 秋季皇靈祭 神嘗祭 新嘗祭 日曜日

十二月二十九日ヨリ十二月三十一日マテ

第六條 外來患者ハ第四條ノ時限ニ診察ス

但急患者ハ此限ニアラス

第七條 患者中歩行困難ナル者ハ往診ス

第八條 外來患者藥價及入院患者藥價賄料等ハ郡區長定ムル處ニ據テ之レヲ徵收ス

第九條 入院治療ヲ請フ者ハ該地ニ住居シ相當ノ資産ヲ有スル者ヲ以テ保證人トナシ入院中ノ費用ヲ辨償スヘキ證書ヲ出サシム

但本文證書ヘハ戸長ノ認印ヲ受クヘシ

第十條 病院ニ關スル細則ハ郡區長之ヲ定メ縣令ノ認可ヲ得ルノ後施行ス

公立病院職員職制

院長

一 院長ハ院務ヲ總理シ内外患者ヲ診察シ及ヒ職員ヲ統率シ之レカ勤怠ヲ察シ其黜陟ハ郡區長ニ申報スルヲ得

醫員

一 院長ノ指揮ヲ受ケ内外患者ノ治療ニ從事シ及ヒ醫事ニ係ル一切ノ筆記ヲ掌ル

二 院長關席ノトキハ首座ノ醫員其代理スルヲ得

司藥

一 院長ノ指揮ヲ受ケ配劑又ハ製藥ニ從事ス

書記

一 書記ハ院長ノ指揮ヲ受ケ常務會計ヲ掌ル

公立病院職員俸額及月俸旅費給與規則

第一條 公立病院職員ノ俸給ヲ定ムル左ノ如シ

職	員	長	一等醫員	二等醫員	司	藥	書	記
月	俸	百五十圓以下	五十圓以下	二十五圓以下	二十圓以下	六圓以下	三圓以下	三圓以下
		三十四圓以上	二十四圓以上	八圓以上	六圓以上	六圓以上	六圓以上	六圓以上

第二條 公立病院職員ノ月俸及旅費ハ都テ該病院資金或ハ協議費又ハ補助費ノ内ヲ以テ支給スルモノトス

第三條 月俸ハ毎月末之ヲ支給スルモノトス

但聘任若クハ免職死去等ノ節ハ此限ニ非ス

第四條 新ニ採用ノモノ及ヒ在勤替増給減給ノ節ハ其月ノ端日數ハ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第五條 歸省及歸省中養病其他私事ニヨリ出勤セサル日數ハ月俸五分ノ一ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

第六條 賜暇中ノ旅行及ヒ忌引中ハ月俸ノ全額ヲ給シ病氣引籠リ三十日間ハ全額ヲ給シ其後ハ三分ノ一ヲ給ス

第七條 第五條第六條減給ノ場合ニ於テハ總テ日割ヲ以テ給スヘシ

〔計算法 歸省ハ出立ノ日ヨリ減給病氣ハ引籠ノ日ヨリ起算月ノ大小ヲ以テ三十日前後ヲ區分スヘシ〕

第八條 滿一箇年以上一病院ニ勤續セシ者解職在勤替若クハ死去等ノ節ハ其奉職年數ニ應シ滿一年ニ付月俸半額ヲ給ス

第九條 解職ノモノ其日ヨリ三十日以内ニ歸郷申シ出ルモノハ一日十里詰ノ割ヲ以テ金一圓九十錢最

初採用セシ地迄ノ里數ヲ算シテ支給ス

但一病院滿二箇年以内ニ自己ノ都合ヲ以テ辭職スルモノハ之ヲ給セスト雖モ官廳又ハ病院ノ都合

ヲ以テ解職スル者ハ之ヲ給ス

第十條 旅費ハ一日十里詰メテ以テ表面ノ通り之ヲ給ス

事記	引差	計合		何	何	何	何	家	入院	藥	積金	補助	寄附	協議	旅
		金積	現在												
本季ハ何何病流行ニ付入院又ハ外来患者ノ員數増加等ノ景狀ヲ附記スルモノトス															

北海道廳町村立病院職員旅費日當表

北海道廳布令 第三十號 第三十號 四月十二日
町村立病院職員旅費日當左表ノ通相定其支給方ハ内國旅費規則ニ據リ本年四月一日ヨリ施行ス

一哩每ニ	一海里每ニ	一里每ニ	管内車馬賃一里每ニ	管外日當	管内日當
金四錢	金四錢	金六錢	金九錢	金十二錢	金五十錢

北海道廳町村立病院補助金配賦規則

北海道廳令 第五十五號 第五十五號 五月二十五日
町村立病院ノ經濟ヲ補助スル爲メ補助金配賦規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
但明治十七年十一月一函館縣甲第三十六號布達ヲ廢ス

- 町村立病院補助金配賦規則
- 第一條 補助ノ金額ハ毎年度ノ始ニ於テ之ヲ告示スヘシ
- 第二條 補助金ハ毎年二期四月所轄郡區役所ニ配付ス
- 第三條 補助金ハ醫院俸給ノ外他ニ支消スルコトヲ得ス
- 第四條 補助金ノ遺拂ハ毎年度末ニ於テ其人員金額ヲ統計シ郡區長ヨリ之ヲ長官ニ報告スヘシ

北海道廳町村立病院職員俸給表
二十年六月北海道廳訓令第七十二號ヲ參照スヘシ

北海道廳令 第六十三號 第六十三號 六月二日
町村立病院職員俸給左表ノ通相定メ其支給法ハ明治十九年十月當廳丙第十五號達ニ準據ス

職	員	院	長	醫	員	藥	劑	員
月	俸	百三十圓	乃至	五十圓	乃至	六十圓	乃至	十圓

北海道廳町村立病院職員土地ノ狀況ニ依リ其幾分ヲ闕クヲ得

北海道廳訓令 第四十七號 郡區役所
町村立病院職員ハ土地ノ狀況ニ依リ其幾分ヲ闕クコトヲ得ヘシ

北海道廳町村立病院藥價入院料等ニ關スル細則定方

北海道廳訓令 第四十八號 郡區役所
町村立病院藥價入院料診察調劑及患者待遇ニ關スル細則ハ實務ノ簡便ヲ圖リ郡區長ニ於テ相定届出ヘシ

北海道町村立病院職員
員備入停止手続
二十年六月北海道廳訓令
第七十二號ヲ參照スヘシ

北海道町村立病院職員
等ノ名額ヲ改ム

北海道廳訓令 二十年六月三日
第四十九號 郡區役所

町村立病院職員備入停止手續左ノ通定ム
但明治十七年四月札幌縣乙第百十一號達同年十一月函館縣乙第六十一號達ハ廢止ス

町村立病院職員備入停止規則

第一條 町村立病院職員ヲ備入レントスルトキハ郡區長ニ於テ被備者ノ性行及履歷ヲ審查シ其備期限及ヒ俸額ヲ定メ該履歷書ヲ添ヘ院長醫員ハ醫術開業免狀寫共辭令ノ交付ヲ長官ニ上申スルモノトス

第二條 備期限中増俸セントスルトキハ其俸額ヲ記シ辭令ノ交付ヲ長官ニ上申スルモノトス

第三條 滿期解備ノトキハ其旨長官ニ開申スヘシ

滿期更ニ備繼ヲ要スルトキハ其備期限及ヒ俸額ヲ定メ之ヲ長官ニ開申スヘシ

第四條 備期限中備止ヲ要スルトキハ其理由ヲ具シ長官ノ指揮ヲ乞フヘシ

北海道廳訓令 二十年六月十七日
第七十二號 郡區役所

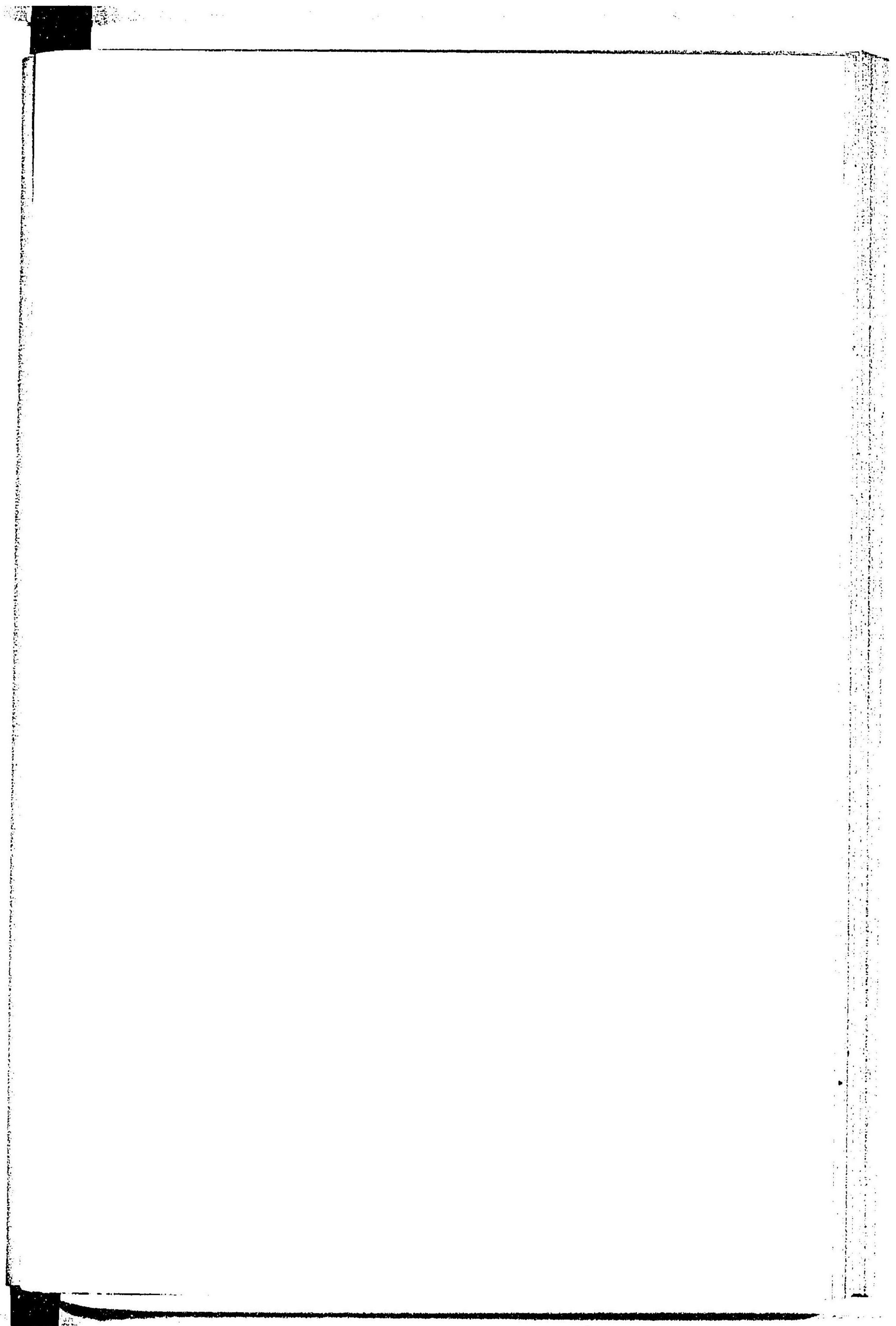
明治二十年六月北海道廳令第六十三號ヲ以テ町村立病院職員俸給相定メ候ニ付テハ從前ノ一等醫二等醫ハ醫員司藥調藥員ハ藥劑員トス此旨町村立病院ヘ示達スヘシ

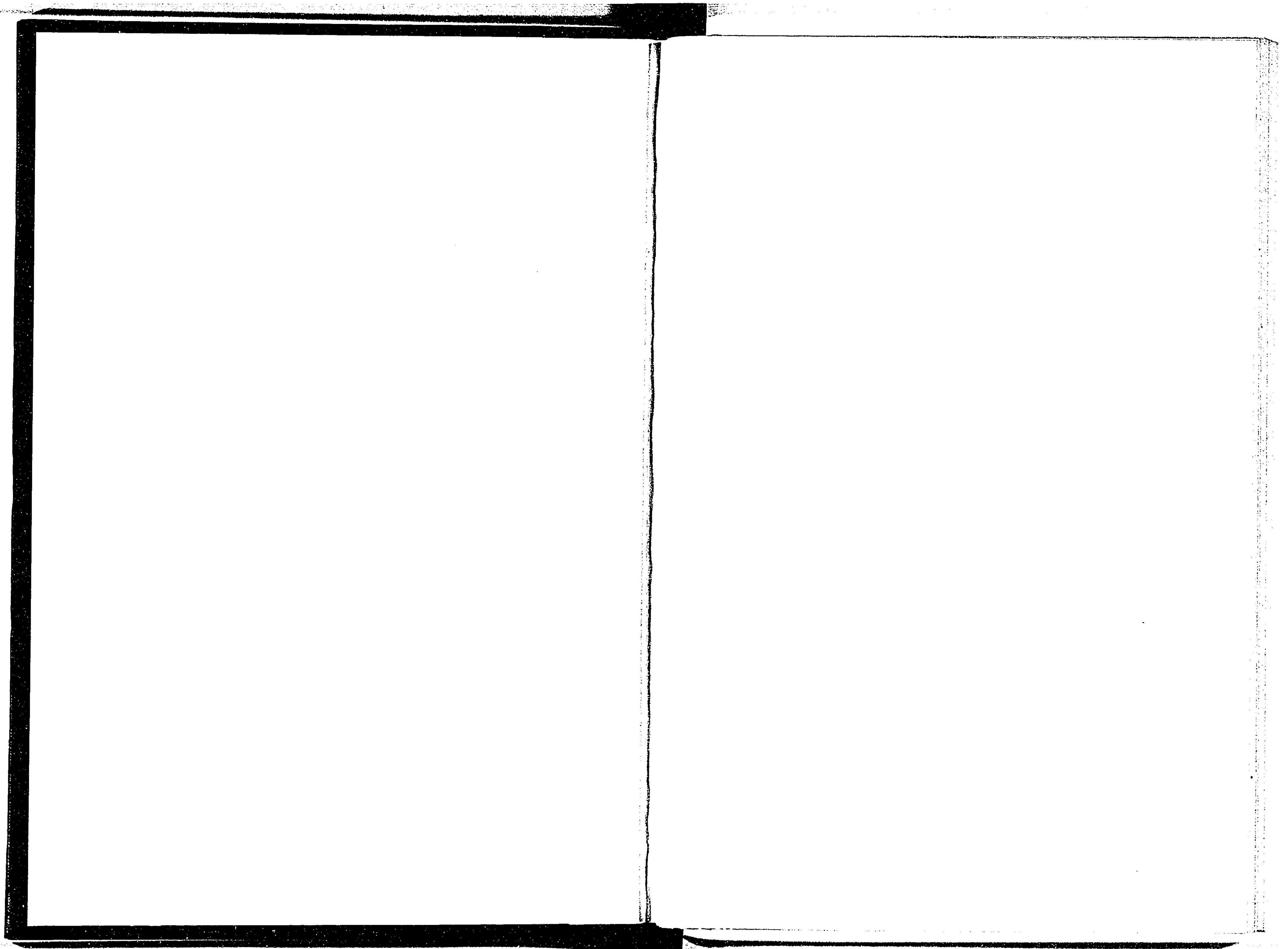
明治二十四年四月廿二日印刷

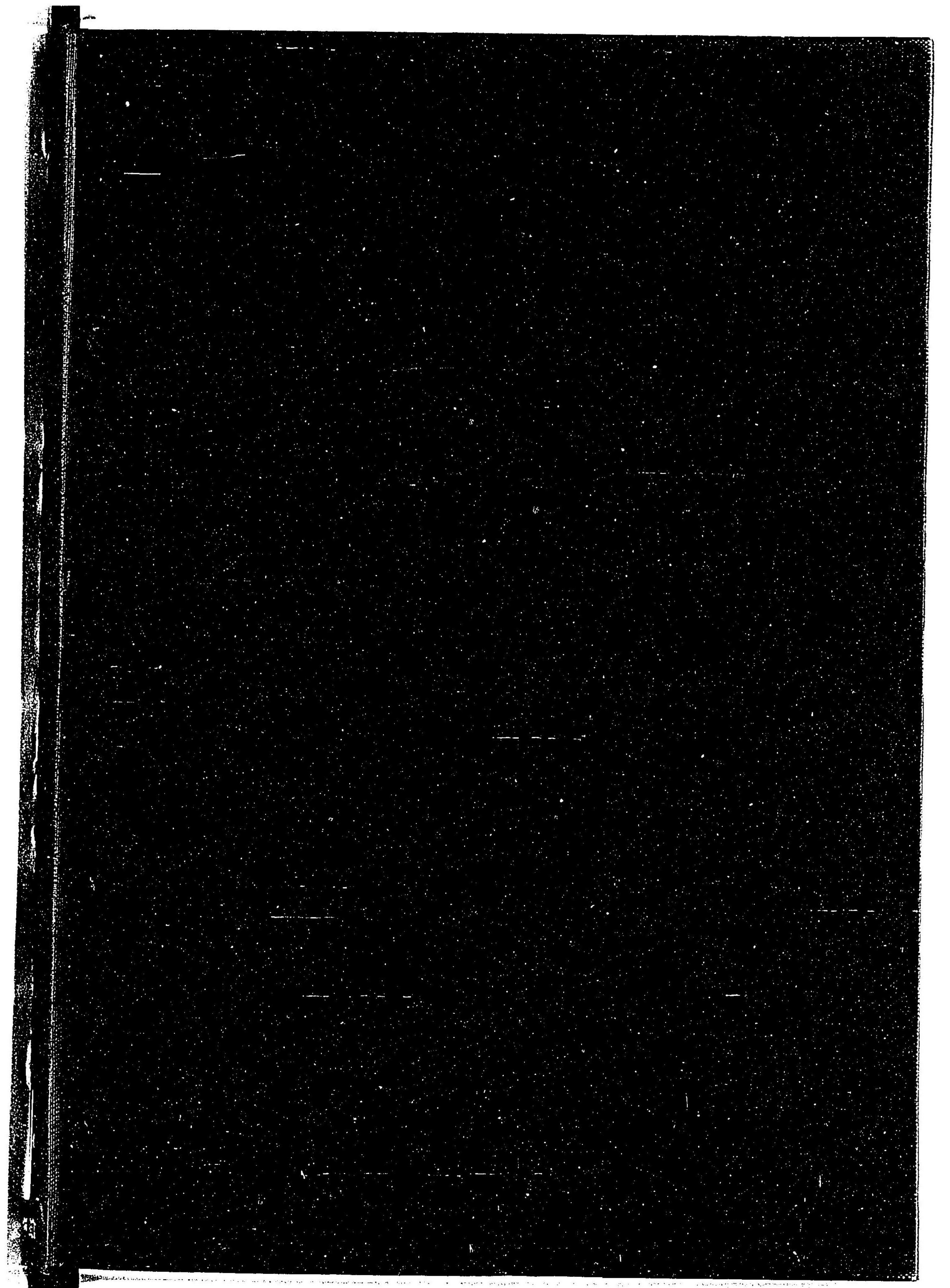
內閣記錄局編輯

87 52

OFF 2







14.7
6

